

リビング建材

建具・造作材・床・階段・その他

取扱い説明書



ご使用にあたって

この説明書では、お施主さまが商品を安全に正しくご使用いただくためのお願い事項、お手入れの方法などの重要な内容を記載しております。
ご留意いただくとともに、大切に保存してください。

目次

■重要なお知らせ	1
■警告用語の種類と意味	2
■特に注意していただきたいこと	2~13
■お手入れ方法	14~17
■調整方法について	18~55
■アフターメンテナンスについて	56
■商品保証について	57

重要なお知らせ

ご使用の前に


安全のため、必ずお守りください。「リビング建材商品」のご使用およびお手入れを行う場合は、必ずこの取扱い説明書に従ってください。

もしこの取扱い説明書に従わず、乱用又は誤用によるケガおよび損害が発生した場合は、当社およびその販売会社に責任はないものといたします。

- 1.この取扱い説明書の他にも、あらゆる危険が想定されます。
従って、「リビング建材商品」のご使用およびお手入れを行う際は、この取扱い説明書の記載事項に限らず、安全対策に関して十分な配慮が必要です。
- 2.この取扱い説明書は著作権を有し、その権利は留保されています。



お願い

- この「取扱い説明書」に掲載されていない調整については、無理に調整しようとする
と扉の落下・破損・ケガなどのおそれがありますので、お買い求めの販売店又は、当社お
客様相談センターまでご相談ください。

問合わせ内容	連絡先窓口	TEL
商品全般	お買い求めの工務店・販売店、又は トステムお客様相談センター	 0120-126-001

警告用語の種類と意味

- この「取扱い説明書」では、危険度(又は事故の大きさ)によって、次の3段階に分類しています。以下の用語が持つ意味を理解し、本書の内容(指示)に従ってください。

用語	意味
	取扱いを誤った場合に、使用者などが死亡又は重傷を負う危険が想定されます。
	取扱いを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。
お 願 い	特に注意を促したり強調したい情報で、指示に従わないと機器の損傷・故障などにつながる場合があります。

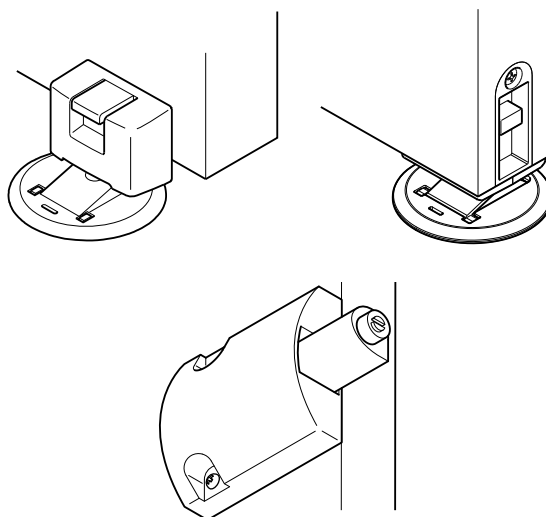
特に注意していただきたいこと

※安全のため、必ずお守りください。

ドアストッパー(マグネットタイプ) / タスボックス プッシュオープン扉(マグネットラッチ)

警 告

- ドアストッパーやマグネットラッチから30cm以上離れて操作および使用してください。心臓ペースメーカーを装備されている方は、接近して操作されると誤作動をまねくおそれがあります。その他医用電子機器類に関しても影響を与える場合があります。各機器メーカー又は販売者にご確認ください。



特に注意していただきたいこと

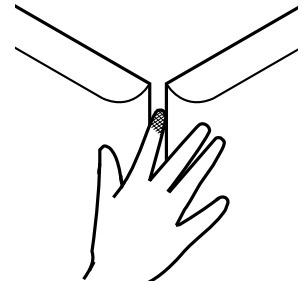
中折れドア・クローゼット折れ戸

警告

- 扉を折りたたむときに、扉と扉の間にすき間が生じ、このすき間に指を挟んだ状態で扉を閉めると大きなケガにつながるおそれがあります。

乳幼児が開閉を行わないよう、又、乳幼児が近くにいる時の扉の開閉には十分ご注意ください。

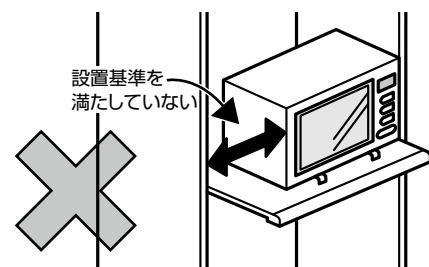
- 又、温湿度環境によって扉にソリが生じ、すき間が大きくなる可能性もあります。ご注意ください。



タスボックス(家電専用キャビネット)

警告

- 家電品を収納される際は、その製品の設置基準を満たしているか、ご確認の上ご使用ください。火災の原因になるおそれがあります。

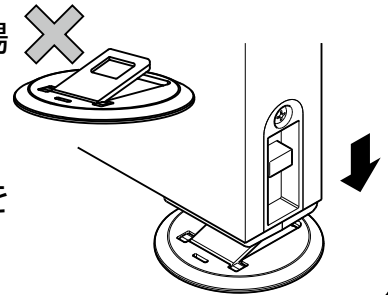


- 電源コンセントの表示容量（ワット）をこえる電気器具を使わないでください。たこ足配線などで表示容量をこえると、発熱により火災の原因になるおそれがあります。

室内ドア(ドアストッパー(マグネットタイプ))

⚠ 注意

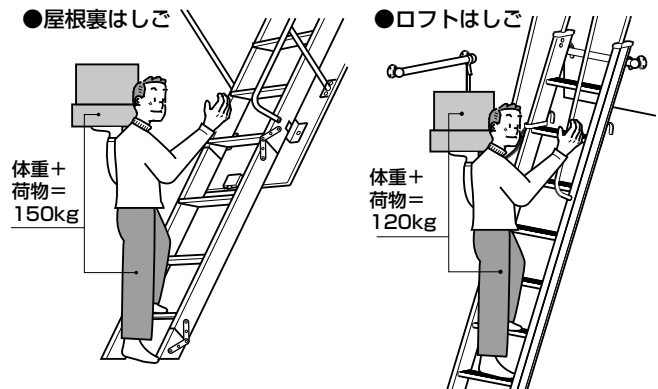
- 床付け部品のフラップが立ち上がったままになっている場合は、必ず手で倒してください。
思わぬケガをするおそれがあります。
- 扉を開放しておくときは、必ずロックレバーを下げて扉を固定してください。
扉が強風で強く閉まり思わぬケガをするおそれがあります。



屋根裏はしご・ロフトはしご

⚠ 注意

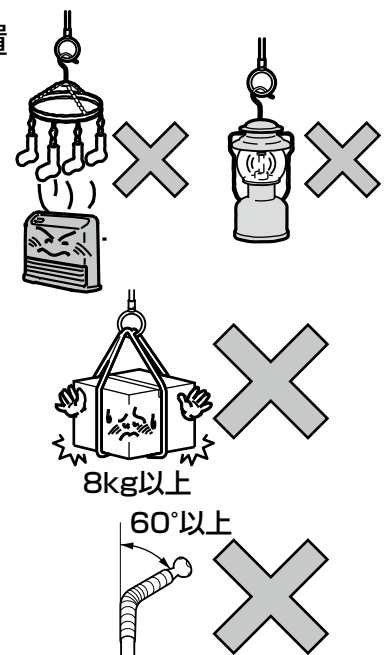
- 体重と荷物の合計が、はしごを安全に使用できる最大重量(右図の通り)をこえないようにしてください。
思わぬケガをする場合があります。



室内物干し 天井付けタイプ

⚠ 注意

- 室内物干しの下にストーブなどの火気のあるものを絶対に置かないでください。
火災のおそれがあります。
- 以下のものは絶対に掛けないでください。
 - ・ランタンなど、火気のあるもの
 - ・人が当たるとケガのおそれがあるもの
 - ・割れ物など、落下すると危険なもの
火災やケガ、破損のおそれがあります。
- 1本当たり8kgを超える用途に使用しないでください。
製品の破損・外れにより思わぬケガをするおそれがあります。
- 人や物品、ペット類などの上で使用しないでください。
製品が落下してケガをするおそれがあります。
- ポール上部のバネは60°以上曲げないでください。
製品が破損してケガをするおそれがあります。
- ポールを着脱する際は、落下させないように注意してください。
製品が落下してケガをするおそれがあります。

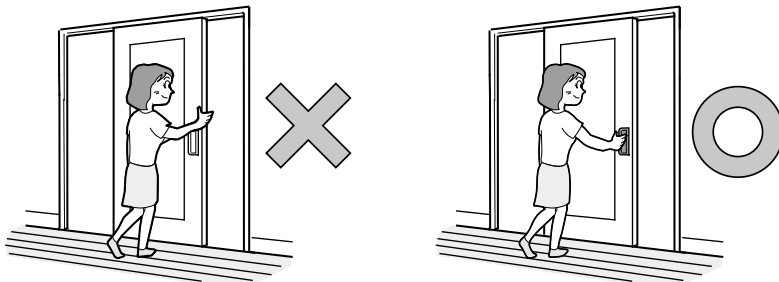


特に注意していただきたいこと

室内建具

お願い

- ドアの調整で丁番固定ねじをゆるめた場合は調整後必ず締付け、ガタツキがないことを確認してください。
本体脱落の原因になるおそれがあります。
- 扉の開閉にあたっては、丁番側のすき間に手を置かないでください。
指を挟んでケガのおそれがあります。特にお子さまにはご注意ください。
- 扉の開閉にあたっては、必ず把手を持って操作してください。
把手から手を離したり、扉の先端に手を置くと、扉が急に閉まったとき、扉と枠の間で指を挟み、思わぬケガをするおそれがあります。特にお子さまにはご注意ください。



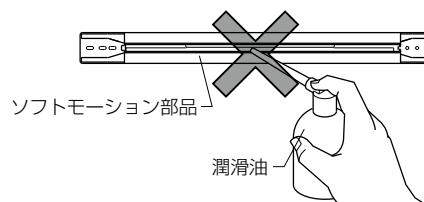
- ガラスを使用している製品につきましては物が当たったり、人がぶつくと割れてケガをするおそれがあります。
特にお子さまにはご注意ください。



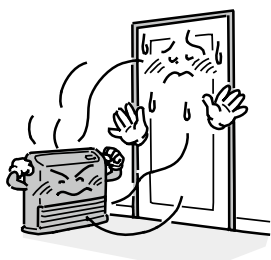
- 扉の下に物を挟まないようにしてください。
扉が持ち上がり、本体脱落の原因になるおそれがあります。
- 扉を開け放した状態にするときは、ドアストッパーなどをお使いください。
強い風などで、勢いよく閉まることがあり、ぶつかったり、ガラス割れなどで思わぬケガをするおそれがあります。

- グランドラインは隠し丁番を使用しているため、ドアクローザを取付けることはできません。

- 引戸のソフトモーション部品に潤滑油などを塗布しないでください。
作動不良の原因になります。



- 暖房器具などから発生する熱風・熱気が直接当たらないようにしてください。
扉のソリ・変色などの原因になります。



- 扉に粘着テープでポスターなどを張らないでください。
表面が傷むおそれがあります。

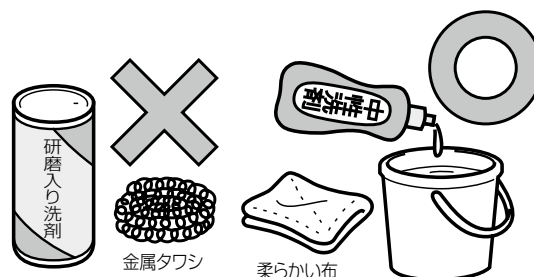


ガラスを使用している製品(室内建具・収納)

お願い

- ガラスはキズつけないように取扱ってください。
- 金属タワシ・研磨剤入り洗剤などはガラスをキズつける原因になります。

ひどい汚れ又は落ちにくい汚れは、薄めた中性洗剤に浸した柔らかい布をかたく絞ってふき取ってください。又、乾いた柔らかい布でからぶきをしてください。



アクリル系パネル・ポリカーボネートを使用している製品 (室内建具)

お願い

お手入れは以下の要領にて行ってください。表面キズの原因となります。

- 土埃など硬いゴミが付着している場合は、水を十分に含んだ柔らかい布で表面を濡らしながら軽くゴミを流し落としてください。
- 柔らかい布、又は柔らかいスポンジを用いて、ぬるま湯で薄めた中性洗剤で洗浄してください。
- 中性洗剤が付着した表面を水を十分に含んだ柔らかい布で軽く、拭き取ってください。
- 最後に柔らかい布で完全に水を拭き取ってください。

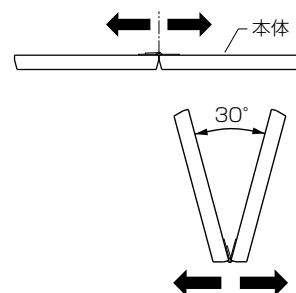
クローゼット折れ戸

お願い

本体を開閉する際は、下記いずれかの方法で操作してください。

- 本体をフラットのまま移動させてください。
- 本体が折れた状態で移動させる場合は、30°の角度で本体が一時固定するようになっていますので、この状態で移動させてください。

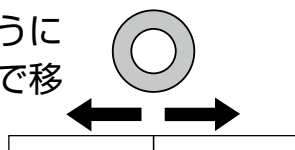
※角度が30°未満の状態では移動させないでください。この場合、動きがギクシャクしたり下部のローラーがレールから外れたりする場合があります。



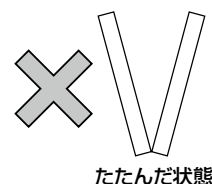
可動間仕切り折れ戸

お願い

- 本体の開閉は右図のように本体をフラットな状態で移動させてください。



※扉をたたんだ状態では、移動させないでください。動きがギクシャクしたり、ガイドピボットの走行に支障がでたりする場合があります。



特に注意していただきたいこと

玄関収納・各種収納

お願い

- 玄関収納カウンター耐荷重は10kgです。この重量をこえる物はのせないでください。

製品のゆがみ、破損事故の原因になります。

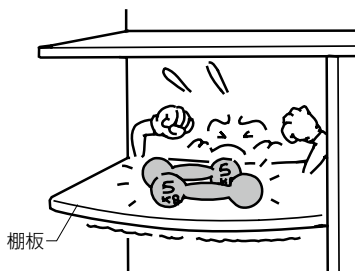


- 丁番などの可動部には手を入れないでください。

挟まれて、ケガをするおそれがあります。

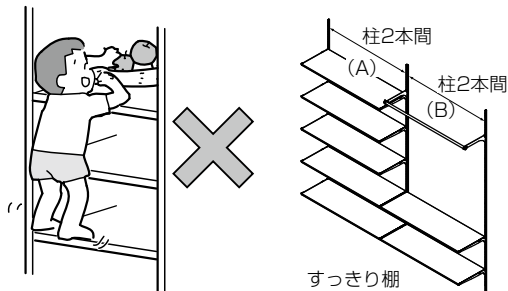
- 各製品の耐荷重をこえる収納物をのせないでください。

製品が破損・脱落し、ケガをするおそれがあります。



- 棚板に足を掛けたり、ハンガーパイプやスライドランドリーバー、ハンガーバーにぶらさがったり、よじのぼったりしないでください。

製品が破損・脱落し、ケガをするおそれがあります。



■タスボックス（木製）棚板取付け可能段数

製品高さ	棚板取付け段数
868mm 以下	2 段まで
1604mm 以下	5 段まで
2372mm 以下	8 段まで

■玄関収納耐荷重

棚板(W呼称)	収納の参考量	耐荷重
445	靴2足	4.0kg
740	靴3~4足	7.0kg
890	靴4足	8.5kg

※890Tは445と同じです。

■玄関収納別売品耐荷重

別売品名	耐荷重
ブーツハンガー	4kg
スライドコートハンガー	5kg

■システム収納・タスボックス耐荷重

部材	耐荷重	
	システム収納	タスボックス
固定棚板・地板	20kg	
可動/配線棚板	10kg	
天板	20kg	50kg
ガラス棚板	5kg	—
シェルフタイプ棚板	20kg	—
レンジ用棚板	—	30kg
樹脂棚板	8.5kg	
デスク棚板	30kg	
スライド棚	—	15kg
(W045用)スライドランドリーバー	—	10kg※1
(W09用)スライドランドリーバー	—	20kg※1
引出し	7kg	13kg
引出し(ランドリー用)	—	13kg
TV台キャビネット	100kg	—
カウンター	40kg(各キャビネットごと)	
寝具棚板	30kg	—
ハンガーパイプ(ボックス/フレームタイプ)	40kg	—
ハンガーパイプL450(パネルタイプ)	17kg	—
ハンガーパイプL900(パネルタイプ)	35kg	—
ハンガーパイプL1800(パネルタイプ)	50kg	—
ハンガーバー	—	10kg
漆調カウンター	10kg	—

※1. ハンガーバー1本につき10kgまで。

■デコカウンター耐荷重

部材	耐荷重
デコカウンター	幅450mm間隔内で15kg

■ハンギングウォール耐荷重

部材	耐荷重
ガラス棚板	15kg
フック	5kg

■床下収納耐荷重

収納本体(W寸法)	耐荷重	
	深型	収納本体
600	110kg	165kg
	900	
600	70kg	60kg
	900	
ALC・RC用	600	60kg

※耐荷重(kg)は、収納本体に張付の注意ラベルにも記載してあります。
※フタの耐荷重の目安は70kgです。

■すっきり棚 棚板・ハンガーパイプの耐荷重

部材	耐荷重
樹脂棚板	8.5kg/枚
ハンガーパイプ	17kg/本

■すっきり棚 棚板・ハンガーパイプ取付け可能数量 (柱2本間で設置できる棚板・ハンガーパイプの数量)

(A) 棚板だけをご使用になる場合		(B) ハンガーパイプと棚板をご使用になる場合	
棚板	10 枚	棚板	8 枚
		ハンガーパイプ	1 本

玄関収納・各種収納

お願い

- 暖房器具などから発生する熱風・熱気が直接当たらないようにしてください。
ソリや変色などの原因になります。

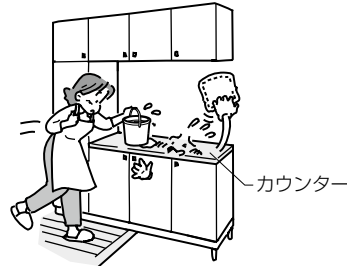
- シート表面に水・油・殺虫剤・除光液・化粧品・整髪料・毛染め剤・脱色剤・うがい薬・漂白剤・除菌クリーナー・紅茶、その他の酸性 / アルカリ性の液体などがかった場合は、すぐにふき取ってください。

放置すると、表面がふくれたり、シミ・変色が発生したり臭いが残ったりするおそれがあります。



- 水にぬれた場合は、速やかにふき取るようにしてください。

長時間ぬれたまま放置すると、ひび割れ・ソリ・変色などの原因になります。



- 刃物など先のとがったものや硬いものでひっかかないでください。
キズが付きます。

- 木製部分に電化製品(電子レンジ・炊飯器など)の熱や水蒸気があたらないようにしてください。

電化製品を収納内部にいたまま使用しないでください。ソリや変色の原因になります。

(タスボックスは家電専用キャビネットにスライド棚板を使用時のみ、棚板を引き出すことで電化製品をご使用いただけます)



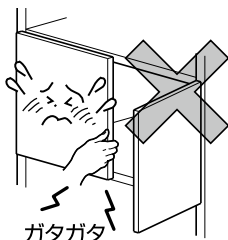
- 家電製品をのせる場合は、必要設置寸法(家電に付属の取扱い説明書などに記載)を必ずご確認ください。

システム収納把手・引手無扉(プッシュオープン扉) / タスボックス(プッシュオープン扉)

お願い

- プッシュオープン扉を無理やりこじあけたりしないでください。

部品が破損する原因になります。



- 開き扉用プッシュオープン部品を指ではじいて遊ばないでください。

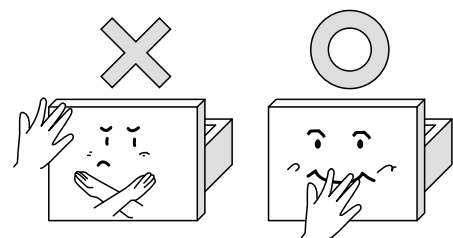
部品が破損する原因になります。



- プッシュオープン引出しの場合は、扉の中央付近を押して開閉してください。

扉の端を押すと開閉しない場合があります。

- プッシュオープン以外の引出しは、必ず引手または引出し前板の中央を持って水平に操作してください。
扉の端を持って操作すると、レールが破損する原因になります。

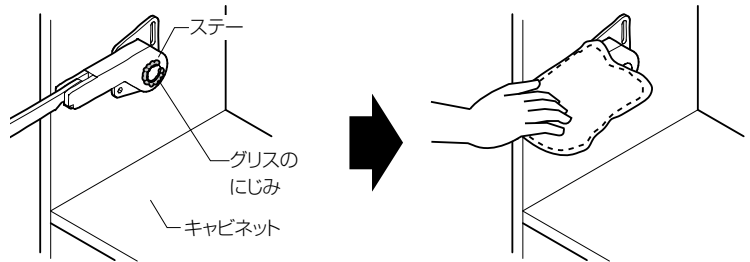


特に注意していただきたいこと

システム収納のステー(扉を支えるアーム部品)

お願い

- 長時間使用していると、ステーの可動部よりグリスがにじんでくる場合があります。
機能上支障はありませんので、ふき取ってください。



カーテンボックス

お願い

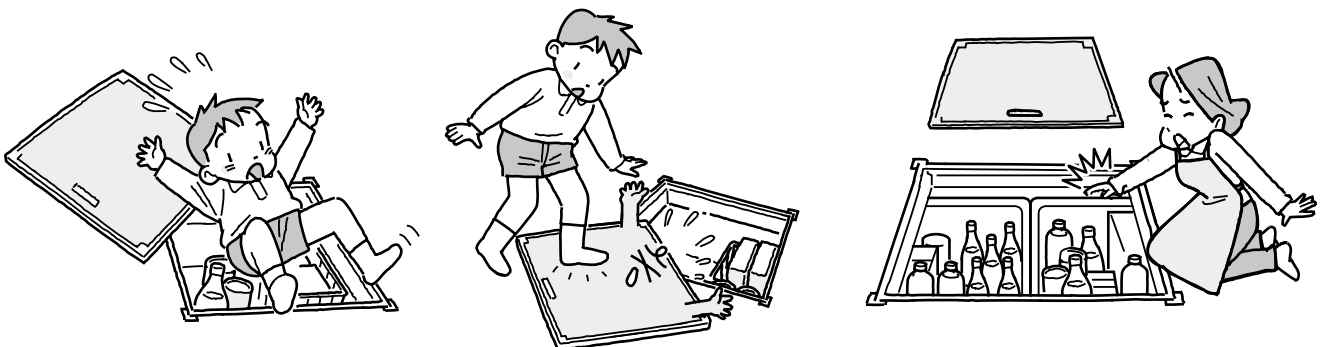
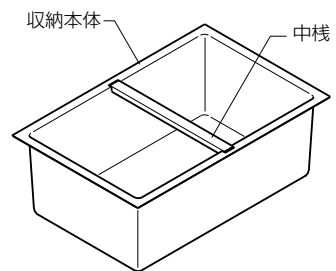
- カーテンボックスにカーテン以外の物をぶら下げたり、カーテンにぶら下がったりしないでください。
外れ・落下のおそれがあります。



床下収納

お願い

- 中棧を外した場合は、必ず元に戻してください。
フタの破損・外れにより、ケガをするおそれがあります。
- 収納部への転落に気をつけてください。
特にお子様にはご注意ください。
- 外して横に置いたフタの上にのらないでください。
- 自分で分解・修理・改造などは絶対にしないでください。
- スライドタイプのガイドレールと本体の間に、指や手を入れないでください。
指や手をはさんでケガをするおそれがあります。



お願い

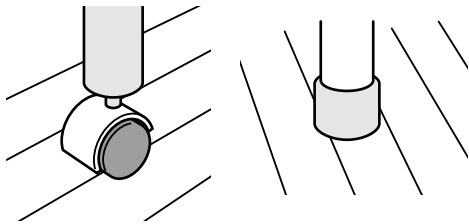
- キャスター付きのいすなどを繰り返してご使用になりますと、床表面をキズつけたり、破損するおそれがあります。ご使用を避けるか、厚手のカーペットなどを敷いて保護してください。

耐キャスター性を高めた床材もございますが、キズやへこみがつかないわけではありませんので、過度の荷重にはご注意ください。

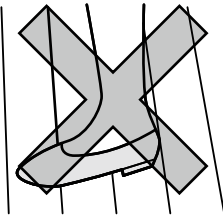
※金属製や球形状のキャスターはご使用をお避けください。傷やへこみが発生しやすくなります。

- テーブルやいすをひきずりますと、床材表面をキズつけるおそれがあります。

いすの脚にゴムキャップやフェルトなどをつけると床表面のキズつきを防げます。

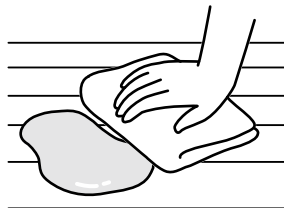


- 上履用ですので土足でのご使用はお避けください。



- 水やしょう油、洗剤などをこぼした場合は、すみやかにふき取ってください。

耐水性を高めた床材もありますが、放置すると表面のシミ・くされなどの原因になります。

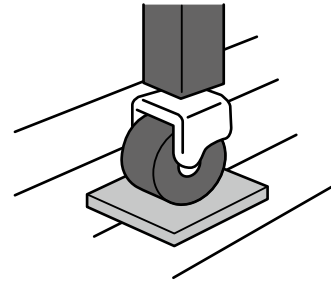


- ピアノなどの重量物を置く場合は、下地の強度など構造上の問題がありますので、あらかじめ施工業者さまへご確認ください。

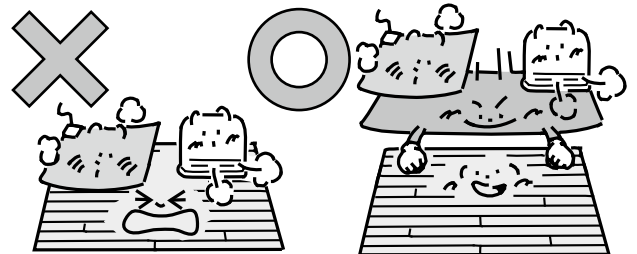
強度不足の場合、床が抜けるおそれがあります。

- ピアノなどの重量物を置く場合は根太や下地の補強をした上で、脚部にインシュレーターや小さな板などを敷き、重量を分散させてください。

また、移動させる時は引きずらないでください。



- ホットカーペットや温風ヒーターなどをご使用の際は、目スキ、表面ひび割れ、変色、フクレなどの原因になりますので、カーペットなどの下敷きをするなど、床表面に熱が伝わらないようにご使用ください。



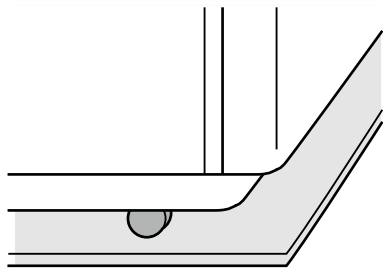
特に注意していただきたいこと

床

お願い

- 床材は、大型冷蔵庫や温風ヒーターの吹出し周辺で、熱がかかると継ぎ目にすき間や表面にひび割れ、変色、フクレを生じます。大型冷蔵庫や温風ヒーターの熱風が直接床材の表面に当たらないように保護してください。

なお、耐熱性にすぐれた商品もありますので、施工された床材がそれに該当するかどうかを施工業者さまにご確認ください。



- 玄関マットやカーペットを固定するために、粘着テープは使用しないでください。

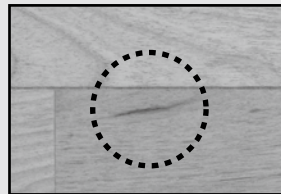
床材表面を傷めるおそれがあります。

豆知識

天然木は1枚1枚色柄に特有の変化があります。製造工場で極力色合わせするなど工夫しておりますが、まったく同じ木目・色調になることはありません。天然木ならではの特性としてご理解ください。小さな節や入り皮、てりなどは木材の成長過程で発生する天然木ならではの特徴です。個性あふれる自然の表情としてご理解ください。

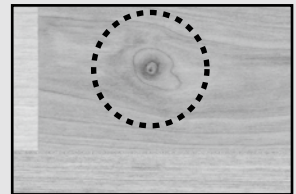
●入り皮

成長過程で幹に巻込まれた樹皮や変色部分



●節

枝が成長した幹に巻込まれた部分



●てり

木材を形成する細胞の方向性の違いから生じるツヤの違い

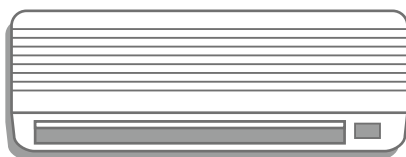


床・階段・手すり・屋根裏はしご・GL(木製品)

お願い

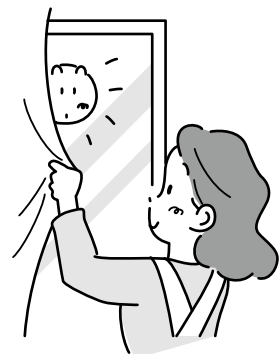
- エアコンや強制排気型の暖房装置を連続使用する場合には、室内が過乾燥となり、床材などの木製品の継ぎ目にすき間や表面にひび割れを生じるおそれがありますので、加湿器の併用をおすすめします。

望ましい湿度は45～70%です。



- サッシ周りなど直射日光に長く当たりますと、熱や紫外線によって変色したり、表面にひび割れが発生するおそれがあります。

日光、紫外線などによる変色、退色は天然木に特有の性質です。カーテン・ブラインドなどでさえぎるようにしてください。

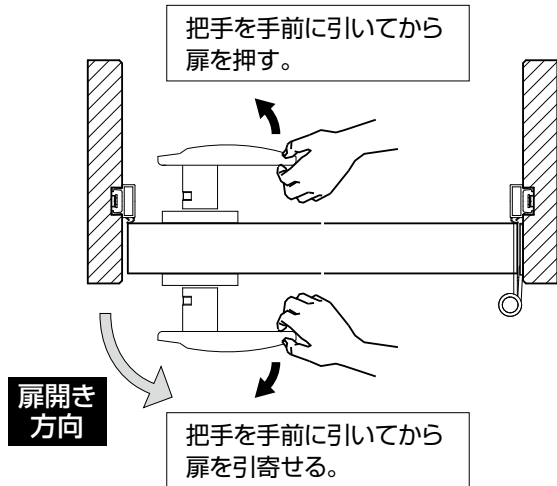


プッシュプルハンドル

お願い

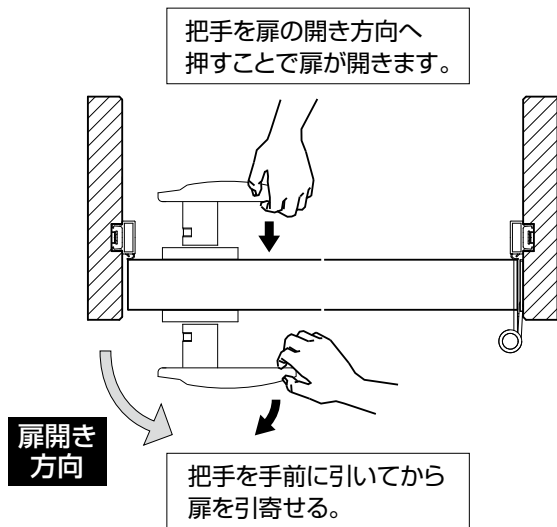
- 必ず把手を握って、操作してください。
思わぬ動きでケガをする場合があります。

■通常時設定(プルモード)の場合



- 通常のハンドル操作は左図のように内外どちらからも、プレートを引きに行います。
※これは意図しない開扉や必要以上に急な扉の動きが起きないようにするためです。

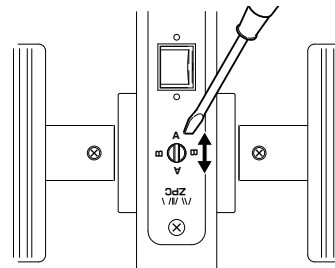
■プッシュ・プルモードの場合



プッシュ・プルモードへの切替え

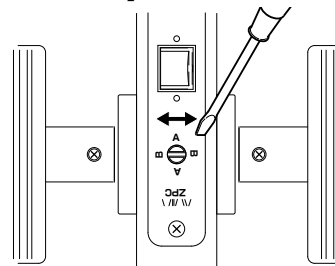
- 下図の部分マイナスイドライバーなどで90°回転させることで、切替えができます。又、元のプルモードへの復帰、さらに再度のプッシュ・プルモードへの変更は何度でも可能です。

【通常】



90°回転 ↓

【プッシュ・プルモード】

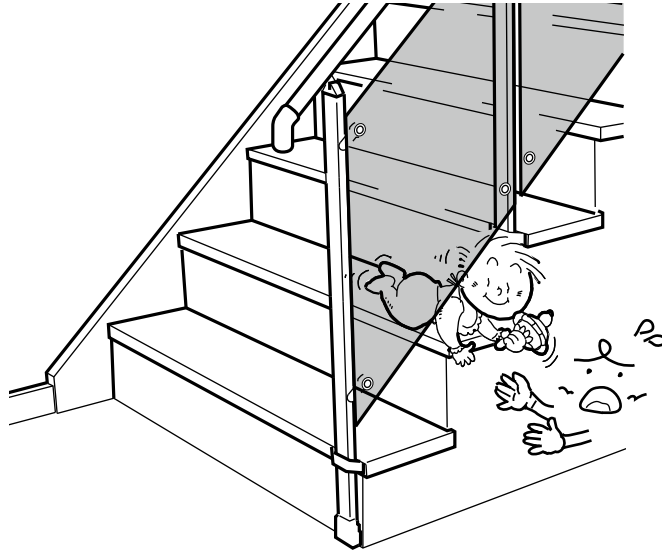


特に注意していただきたいこと

オープン用金属手すり・アルミ室内階段AタイプⅡ型

お願い

- パネルと階段の間から、頭や体を出さないようにしてください。
落下のおそれがあります。



モイスNT 内装材

お願い

- 表面に付着した汚れをそのままにしておくと、内部に染み込み乾燥して落ちにくくなるため、日常のお手入れを定期的に行ってください。
- 日常のお手入れは、乾いた柔らかい布、又は化学ぞうきんでからぶきしてください。
- ホコリやゴミは、乾いたきれいな布で払い落としてください。
- ひどい汚れ、又は落ちにくい汚れは、中性洗剤を薄めてかたく絞ったぞうきんでふき取ってください。汚れがひどい場合でも、酸性・アルカリ性の洗剤、溶剤(シンナー、ベンジン)などは絶対に使用しないでください。
- モイスは多孔質セラミックス素材でできており、水をよく吸収する性質を持っていますので、水洗いはしないでください。



お手入れ方法

建具や階段手すりの表面など(木目・ガラス・アクリル系パネルなど)

- 日常のお手入れは、乾いた柔らかい布又は化学ぞうきんでからぶきしてください。
- ※ 溝加工デザインの溝部は、表面を損傷させたりするおそれがありますので、水ぶきはしないでください。
- ひどい汚れ又は落ちにくい汚れは、中性洗剤を薄めてかたく絞ったぞうきんでふき取ってください。汚れがひどい場合でも、酸性・アルカリ性の洗剤、溶剤(シンナー・ベンジン)などは絶対に使用しないでください。
- ゴミがたまらないよう、レールの溝はこまめにお掃除をしてください。扉レールの溝にゴミがたまりますと、扉の滑らかな走行のさまたげとなり、故障の原因となります。掃除機などでこまめに掃除してください。



把手・引手・ツマミ・室内物干しなど

- 日常のお手入れは、乾いた柔らかい布又は化学ぞうきんでからぶきしてください。
- ひどい汚れ又は落ちにくい汚れは、中性洗剤を薄めてかたく絞ったぞうきんでふき取ってください。
- シリンダー錠、デッドロック錠のキーの抜き差しや回転操作が悪くなった場合は、鉛筆(柔らかい芯)の粉や黒鉛粉またはシリンダー錠専用潤滑剤を使用してください。鉛筆を使用する場合は、キーの切込み面を鉛筆でなぞったあと、キーで抜き差しを数回行ってください。
- ※ 鍵穴には絶対に油を注さないでください。注入直後は動きが良くても、ホコリを吸着し、かえって動きを悪くします。



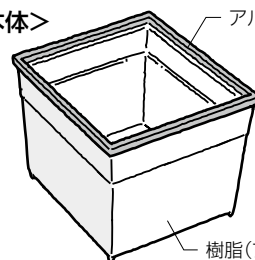
床下収納

商品の点検

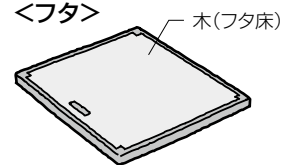
- 定期的(年1回程度)に、ねじ・ボルト類のゆるみを点検し締直してください。締直してもガタつく場合は腐食のおそれがありますので、お買い求めの工務店・販売店又は当社お客様相談センターにお問い合わせください。

商品のお手入れ

<収納本体>



<フタ>



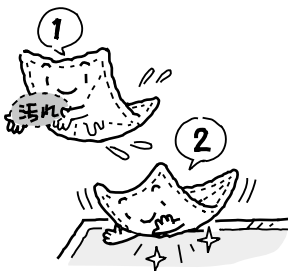
■アルミ

※ お掃除はなるべくマメに

- アルミは比較的腐食しにくい材質ですが、砂・ホコリ・塩分などが付いたまま長いあいだ放置しておくと、空気中の湿気や雨水の影響を受け、腐食の原因になります。

■汚れが軽い場合

- 水でぬらしたぞうきんで汚れをふきとり、からぶきします。



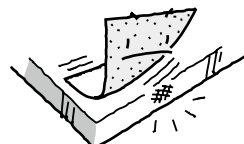
■汚れがひどい場合

- ① 水でぬらしたぞうきんで全体に付いたホコリ・砂などをふき取ります。
 - ② うすめた中性洗剤でひどい汚れを落とし、洗剤が残らないようによくふき取ります。
 - ③ 全体をからぶきします。
- ※ 金属タワシは使用しないでください。アルミはキズ付きやすいため、お掃除の際には柔らかいスポンジ・布などを使い、金属タワシ・金ペラはさけてください。又洗剤は、必ず中性洗剤をご使用ください。中性洗剤では取れない場合は、アルコール・ベンジンを布にしみこませてふいてください。



【万一、サビがでたときは】

- ① 中性洗剤を付けたナイロンタワシ又は目の細かい紙ヤスリで軽くこすり、サビや汚れを取除きます。
- ② 水ぶきし、塗料のはげた部分にスプレー塗料を吹付けします。



お手入れ方法

②樹脂(プラスチック)

※お手入れはなるべくこまめに

●樹脂は、アルミなど他の材質と比べると、キズ付きやすい性質があります。付着した砂やゴミをそのままにして使用を続けると、キズの原因となります。

※お手入れは布・スポンジで

●キズをさけるため、布・スポンジのような柔らかいものを使い、金属ブラシ・金ペラは使用しないでください。

※ベンジンやシンナーはさけてください

●樹脂は酸・アルカリに強い特性をもっていますが、ベンジン・ガンリン・エーテル・アセトン・シンナーなどの有機溶剤は使用しないでください。

■清掃のしかた

①水でぬらしたぞうきんで全体に付いたホコリ・砂などをふき取ります。

※隅の清掃には歯ブラシをお使いください。

②特に汚れがひどい場合は、うすめた中性洗剤・アルカリ性洗剤で汚れを落とし、水洗いします。

③かたく絞ったぞうきんで全体をふきます。

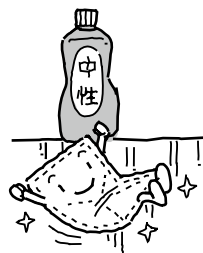


③木(フタ床)

※落ちにくい汚れは中性洗剤で

●木のお手入れには、シンナー・ベンジンなどの使用はさけてください。落ちにくい汚れには中性洗剤を用い、よく水ぶきをしたあと、からぶきします。

※詳しくは床材の取扱い説明書をご確認ください。

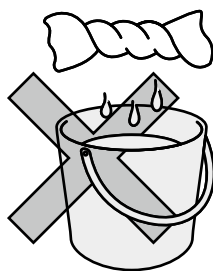


床(木製品)

●日常のお手入れは乾いた布でからぶきしてください。

●汚れがひどいときは、かたく絞ったぬれぞうきんでふき取ってください。その後、乾いた布でふき取ってください。

※上記の方法以外でのお手入れはしないでください。



●床材表面にしょう油・コーヒー・洗剤・カビ取り剤をこぼした場合は、放置しておきますと変色のおそれがあります。木目や目地に染み込む前にただちにかたく絞ったぬれぞうきんでふき取ってください。

●ペットの排泄物をそのまま放置しますと、水をこぼした場合以上に変色などで床材の美観をそこなうおそれがあります。ただちにかたく絞ったぞうきんできれいにふき取ってください。又、ペットのツメでフローリングの表面をキズつける場合もありますので、ご注意ください。

●床材は水気・湿気を嫌います。水にぬれた場合すみやかに乾いたぞうきんでふき取ってください。放置しておくと、しみ・変色が生じたり、表面のひび割れが生じたりすることがあります。次の点にご留意ください。

①水の飛び散るおそれのある流し台、洗面台の周辺には、マットを敷いて保護してください。

②観葉植物などの鉢には、必ず水受け用の皿などを敷いてください。

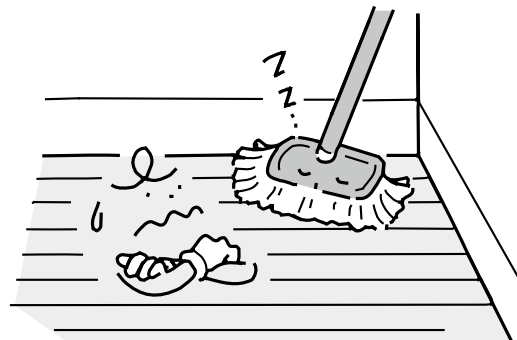
③雨が吹き込むおそれがある場合、サッシを閉めてください。

※木質床材は本質的に水気を嫌います。スチームを使ったお手入れや水濡れ、ワックスの塗布量が多いと、フクレやハガレ、変色などの原因になります。

●クレヨン・マジックなどが床材表面に付着した場合は、アルコール又はシミ抜き用ベンジンを含ませた布ですみやかにふき取ってください。

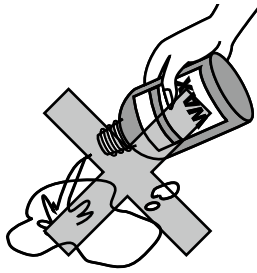


●化学ぞうきんを床の同じ所に長い間放置したり、ぬれた所を化学ぞうきんでふいたりしないでください。化学反応により、変色・汚れの原因になります。



床(木製品)

- ワックスがけをしなくても耐久性はありますが、ワックスがけをする場合は、木床用の樹脂系ワックス(リンレイ:ハイテクフローリングコート)をご使用ください。ワックスがけは半年に一度が目安です。
- ご使用の際は直接床にまかず、布などにしみ込ませて薄くムラなく塗布してください。床に直接多量にまきますと表面のふくれなどの原因となります。
- 室温が低いとき(5℃以下)や雨天で湿度が高いときにワックスを塗布したり、ワックスの塗布面にお湯などをこぼすと、ワックスが白化する場合があります。白化した場合はワックスを除去してください。
- ワックス塗布後は、換気を行い乾燥させてください。乾く前に塗布面を歩いたりしますと塗りムラなどの原因となります。
- ワックスがけ前後に化学ぞうきんを使用しないでください。床材表面のワックスが白くなるおそれがあります。
- ワックスはくり剤は使用しないでください。表面を傷める原因となります。
- ワックスの使用方法を誤ると床材表面に異常を起こす場合がありますので、その他の使用方法については、容器記載の使用方法をよくお読みください。



- 床材に小さな穴があき、木の粉のようなものが出てきた場合、虫害のおそれがあるので専用薬剤を散布・注入するなど、早期対応が必要です。専用薬剤は、ホームセンターなどでお求めいただけますが、処理専門業者にご相談されることをおすすめします。
- ※一般的に床材は製造工程で高温高圧処理されるため、虫や卵は死滅します。その後の流通段階や施工後に、外部から虫が飛来して産卵し、虫食いが発生する場合があります。

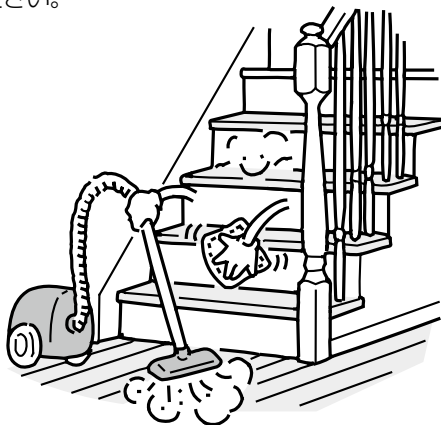


ホルムアルデヒドへの配慮をお願いします。

当社では商品から放散される化学物質の削減に努めていますが、日常的に通気や換気をこまめに行ってください。特に、新築住宅やリフォーム直後には十分な換気をお願いします。又、ホルムアルデヒドは高温になると多く放散される性質があります。夏場や長時間密閉した後は、特に気をつけてください。

階段・手すりなど

- 汚れがひどいときは、かたく絞ったぬれぞうきんでふき取ってください。その後、乾いた布でふき取ってください。
- 使用上に異常・不具合が生じたときは、状況を確認してください。ご自身で対処できない場合は、施工業者さまにご連絡ください。



天然木のため起こること

- 床鳴り
原因の一つとして床材の継ぎ目部分がすれて音が発生していることが考えられます。これは天然木の性質として調湿機能が働き、伸び縮みを生じることによって発生するもので特性上やむをえない現象です。
- ソリ、目スキ、突上げ
天然木は呼吸しており、季節や使用場所など湿度変化によって伸び縮みを繰り返します。そのため床材のソリや目スキ、突上げ(継ぎ目部分の盛り上がり)が発生することがあります。特性上ある程度やむをえないものですので、ご理解ください。

モイスNT 内装材

- 落としにくい汚れは、次の方法で落とすことができます。そのままにしておくこと次第に除去しにくくなりますので、汚れが付いたらすぐに落してください。

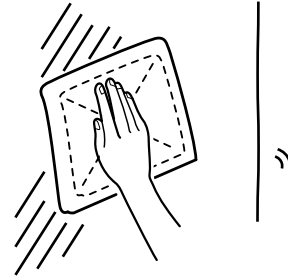
鉛筆

- 鉛筆汚れはプラスチック消しゴムで落せます。



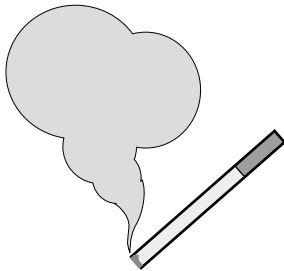
ジュース・調味料

- 汚れが染み込む前に、水を含ませたきれいな布、又は、ティッシュペーパーなどでできる限りふき取ってください。それでも汚れが気になる場合はきれいな布に台所用中性洗剤を含ませ、絞ってから汚れた部分をふいた後、清水でかたく絞ったきれいな布で表面に残った洗剤分をふき取ってください。



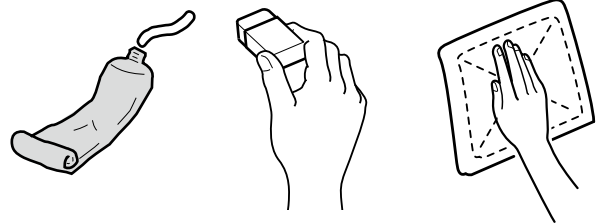
たばこのヤニ

- クロスや木材に比べて、モイスはヤニが付きにくく、目立ちにくいですが、喫煙頻度に応じてかたく絞ったきれいな布で軽くふいてお手入れすることをおすすめします。



歯磨きペースト

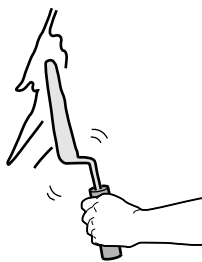
- まず付着した歯磨きペーストを歯ブラシなどでできるだけ取除いた後、プラスチック消しゴムでこすり取ってください。次にかたく絞ったぬれぞうきんでふいた後、もう一度消しゴムでこすり取ってください。



- キズがついてしまった場合、又は汚れが固着し除去できない場合には次の方法で直すことができます。

キズ

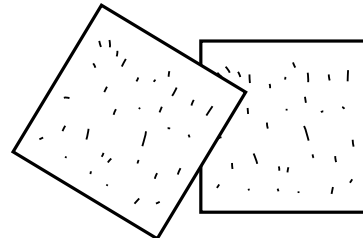
- 小さなキズは補修用パテ材でタッチアップしてください。



ペン・マジックおよび小さな汚れ

- ボールペンやマジックなどの汚れ、水ぶきしても落ちない小さな汚れは、サンドペーパー（#60番～#80番）でこすり落してください。

注：壁表面の凹凸や外観に合わせて、ペーパー番手の選定を行ってください。除去する際は製品の研磨目に沿って、見映え良く除去してください。



塗装されている場合

- 使用塗料を確認の上、各塗料メーカーの指示にしたがって補修してください。



調整方法について

●ご使用の間、納まりに関して不都合が生じた場合は、下記の要領で調整を行ってください。

- ①ラベルに表示してある記号を参照し商品名を確認します。
- ②調整したい建具などの種類を確認します。
- ③調整方法をよく読んでから調整を行います。

※シリーズ確認方法

この場所にシリーズ名記号が印刷されています。

	ロットNo	WL = ウッディーライン FL = ファミリーライン
	商品コード	GL = グランドライン CL = CL シリーズ SL = 新和風 LK = 上記シリーズ以外

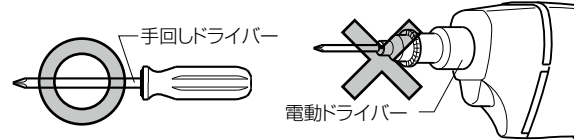
〈ラベル〉
※ロットNoのみ記載のラベルもあります。

■調整方法を予告なしに変更する場合があります。ご了承ください。

お願い

●この「取扱い説明書」に掲載されていない調整については、無理に調整しようとすると扉の落下・破損・ケガなどのおそれがありますので、お買い求めの販売店又は、当社お客様相談センターまでご相談ください。

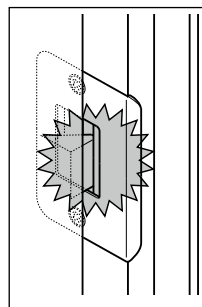
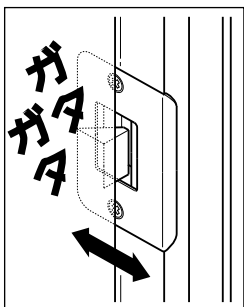
●建付け調整は必ず、手回しドライバーを使用してください。電動ドライバーを使用した場合は、ねじ頭が壊れるおそれがあります。



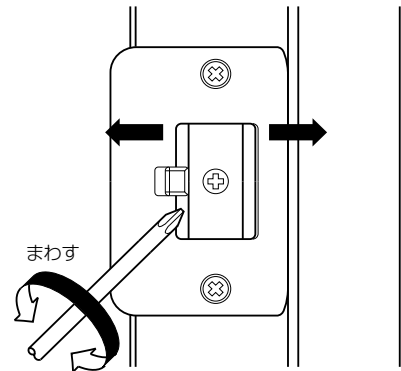
WL・FL・GL・CL・SL戸襖ドア／ストライクによる建付け調整

ラッチがストライクの中でガタついたり、ラッチがかかりにくい場合はプラスドライバーでストライクの調整ねじを回して調整してください。

■ラッチがストライクの中でガタつく ■ラッチがかからない

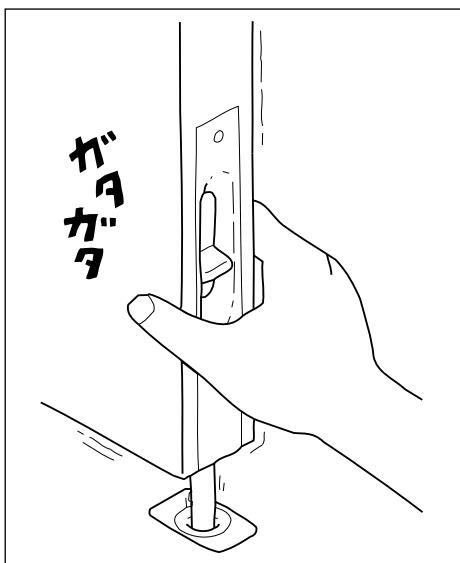


ストライク調整ねじ
可能調整範囲±3mm

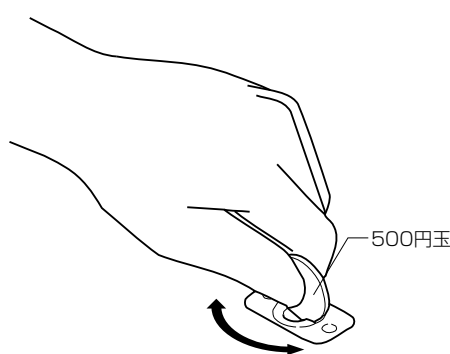


WL・FL・GL親子ドア／子扉のガタつき調整

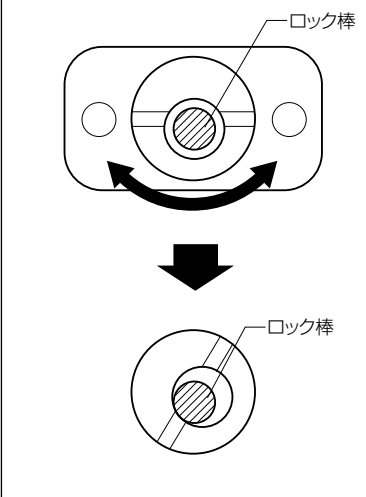
■子扉がガタつく



●コインなどで穴部分を回転させ、ロック棒をフランス落とし受けの内側に当てるようにしてください。



【フランス落とし受け】

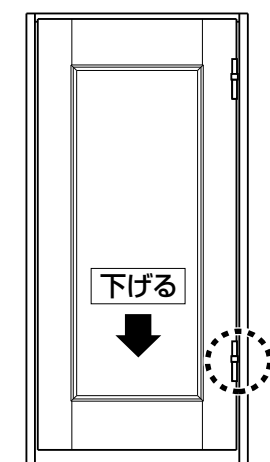


WL・FL・CL・SL戸襖ドア／丁番による建付け調整

不具合例

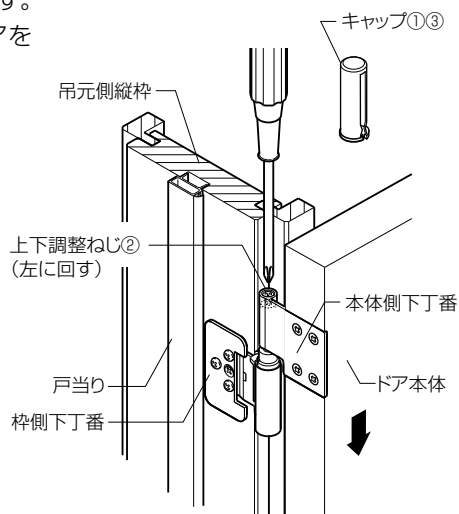
調整方法

■ドアの上部が枠に当たる。



(調整範囲 下:3mm)

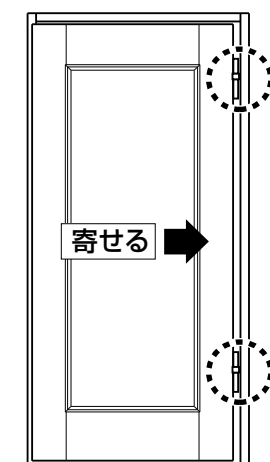
- ①本体側下丁番のキャップを外す。
- ②上下調整ねじを左に回しドアを下げて位置を決める。
- ③キャップをはめる。



不具合例

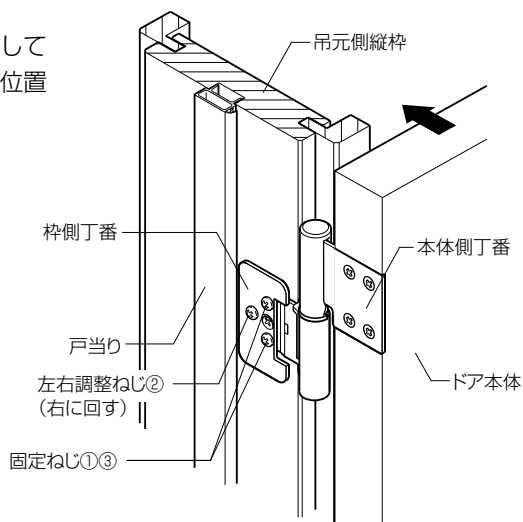
調整方法

■ドアの開き側が枠に当たる。



(調整範囲 吊元側:1.5mm)

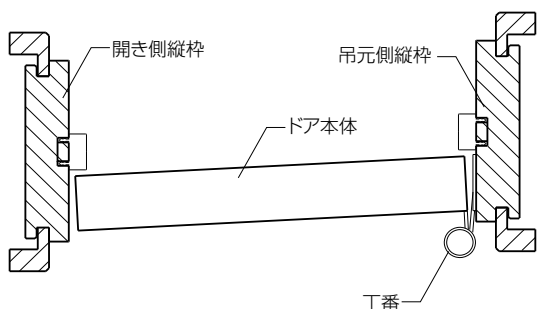
- ①固定ねじをゆるめる。
- ②左右調整ねじを右に回してドアを吊元側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。



不具合例

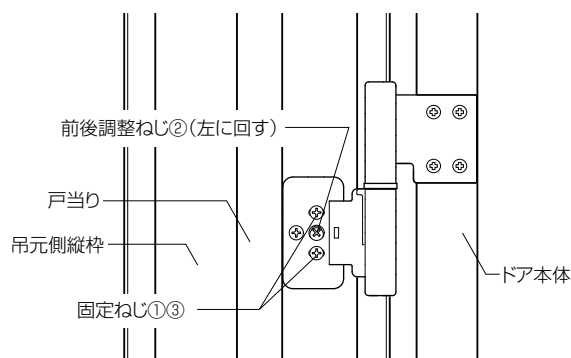
調整方法

■開き側の枠が前に出ている。



(調整範囲 前:2mm)

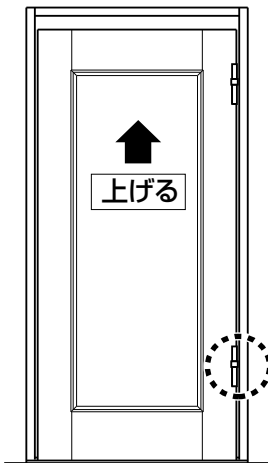
- ①固定ねじをゆるめる。
- ②前後調整ねじを左に回してドアを前に移動させる。
- ③固定ねじを締める。



調整方法について

不具合例

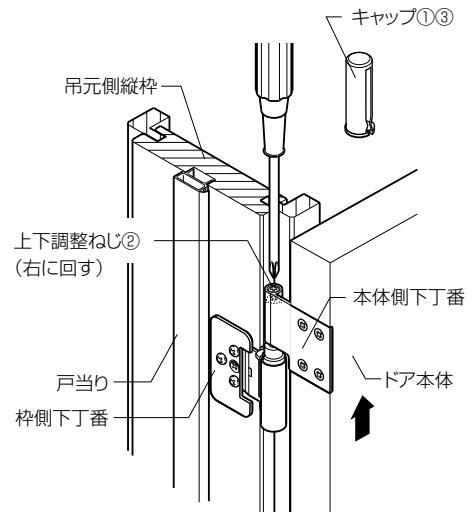
■ドアの下部が枠に当たる。



(調整範囲 上:3mm)

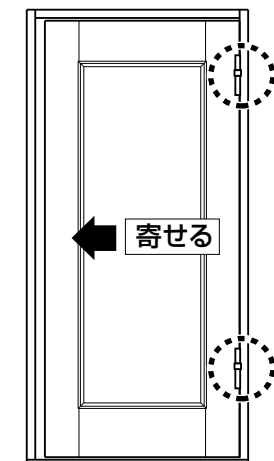
調整方法

- ①本体側下丁番のキャップを外す。
- ②上下調整ねじを右に回しドアを上げて位置を決める。
- ③キャップをはめる。



不具合例

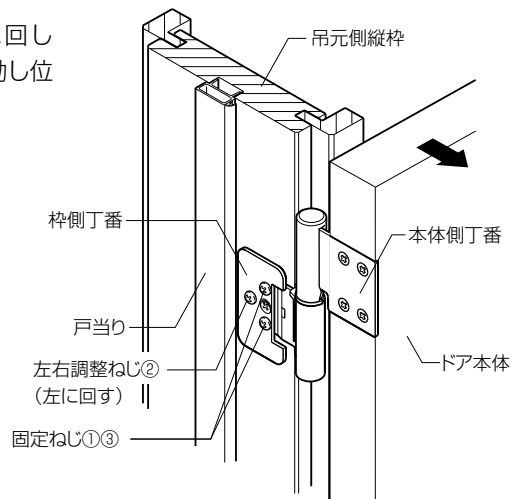
■ドアの開き側のすき間が大きすぎる。



(調整範囲 開き側:2.5mm)

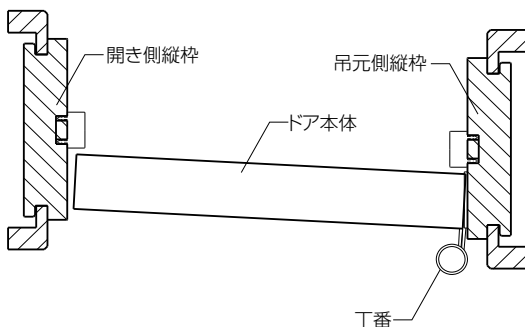
調整方法

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②左右調整ねじを左に回してドアを開き側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。



不具合例

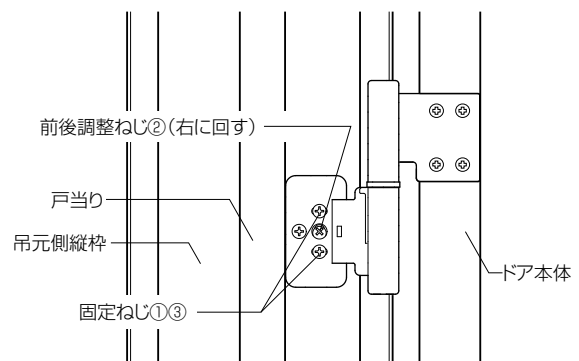
■吊元側の枠が前に出ている。



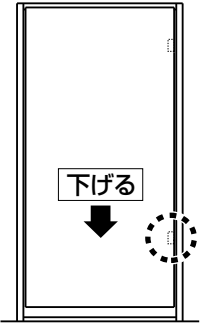
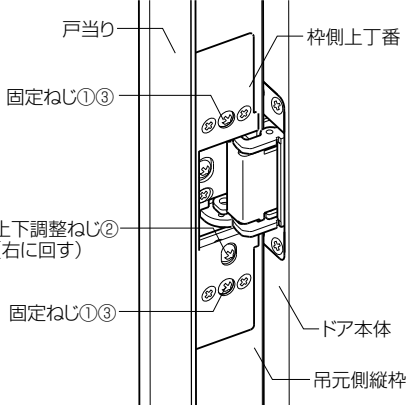
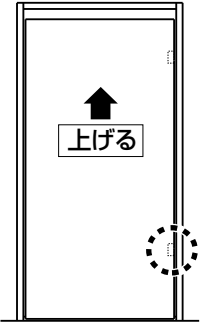
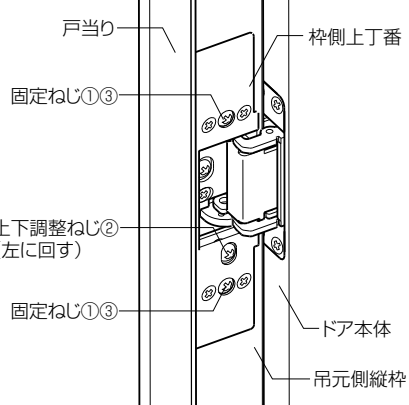
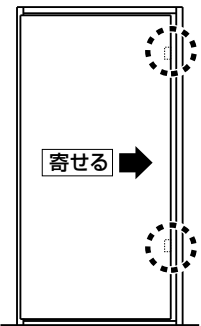
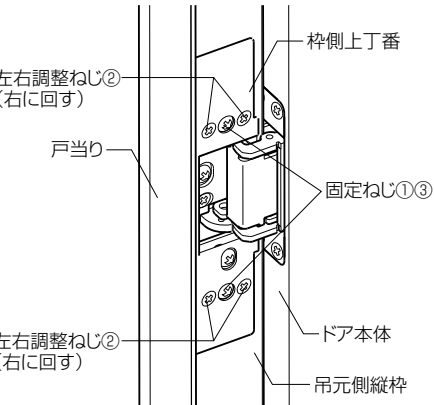
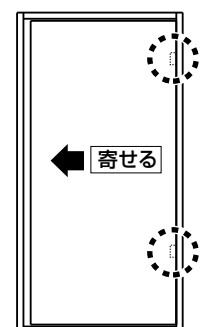
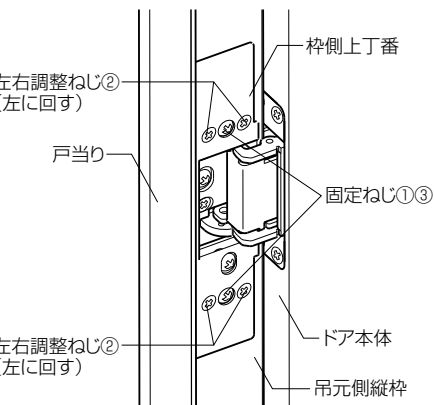
(調整範囲 後:2mm)

調整方法

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②前後調整ねじを右に回してドアを後に移動させる。
- ③固定ねじを締める。



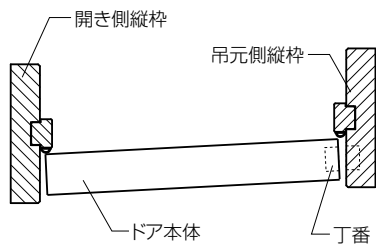
GLドア／隠し丁番による建付け調整

不具合例	調整方法
<p>■ドアの上部が枠に当たる。</p>  <p>(調整範囲 下:2mm)</p>	<p>①上下丁番の固定ねじをゆるめる。 ②上下調整ねじを右に回して、位置を決める。 ③上下丁番の固定ねじを締める。</p> 
<p>■ドアの下部が枠に当たる。</p>  <p>(調整範囲 上:2mm)</p>	<p>①上下丁番の固定ねじをゆるめる。 ②上下調整ねじを右に回して、位置を決める。 ③上下丁番の固定ねじを締める。</p> 
<p>■ドアの開き側が枠に当たる。</p>  <p>(調整範囲 吊元側:1.5mm)</p>	<p>①丁番の固定ねじをゆるめる。 ②左右調整ねじを右に回して、位置を決める。 ③固定ねじを締める。</p> 
<p>■ドアの吊元側が枠に当たる。</p>  <p>(調整範囲 開き側:2.5mm)</p>	<p>①丁番の固定ねじをゆるめる。 ②左右調整ねじを左に回して、位置を決める。 ③固定ねじを締める。</p> 

調整方法について

不具合例

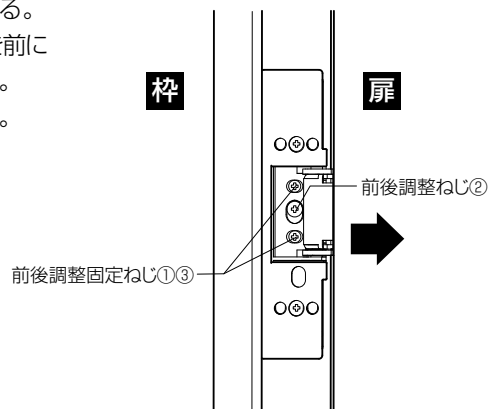
■開き側の枠が前に出ている。



(調整範囲 前:1mm)

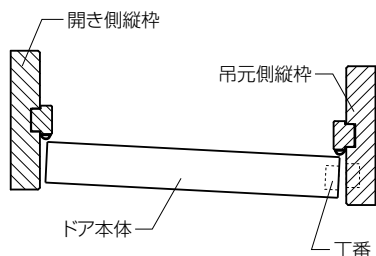
調整方法

- ①前後調整固定ねじをゆるめる。
- ②前後調整ねじを回してドアを前に移動させて位置を決めます。
- ③前後調整固定ねじを締める。



不具合例

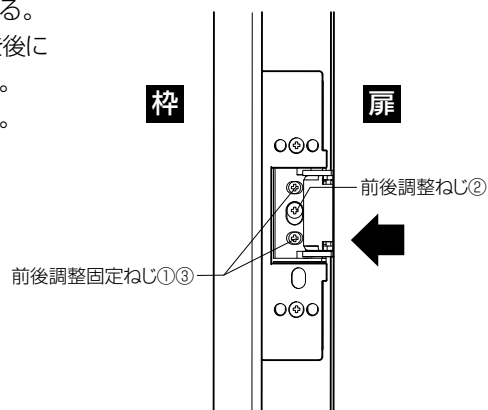
■吊元側の枠が前に出ている。



(調整範囲 後:1mm)

調整方法

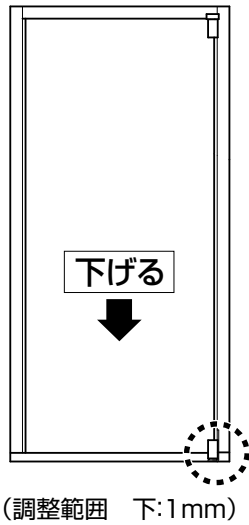
- ①前後調整固定ねじをゆるめる。
- ②前後調整ねじを回してドアを後に移動させて位置を決めます。
- ③前後調整固定ねじを締める。



WLドア／ピボット丁番による建付け調整

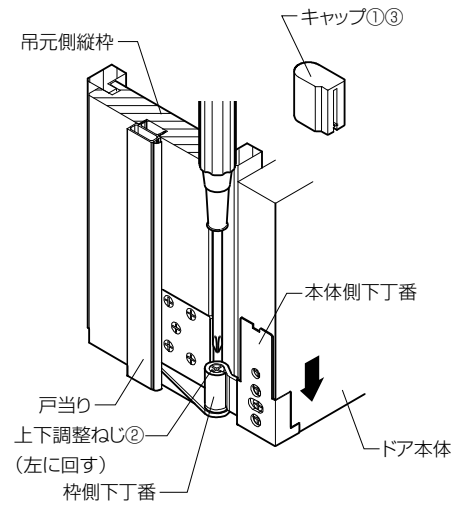
不具合例

■ドアの上部が枠に当たる。



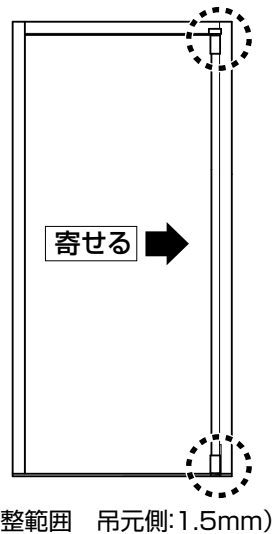
調整方法

- ①本体側下丁番のキャップを外す。
- ②上下調整ねじを左に回しドアを下げて位置を決める。
- ③キャップをはめる。



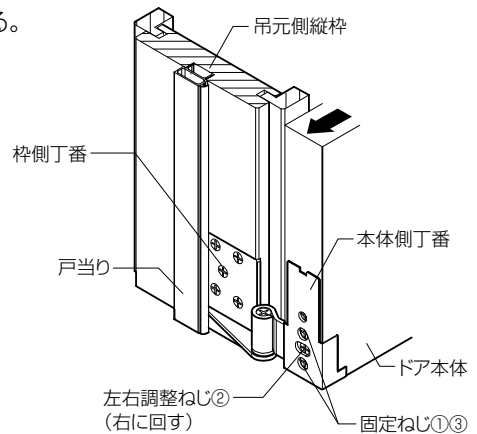
不具合例

■ドアの開き側が枠に当たる。



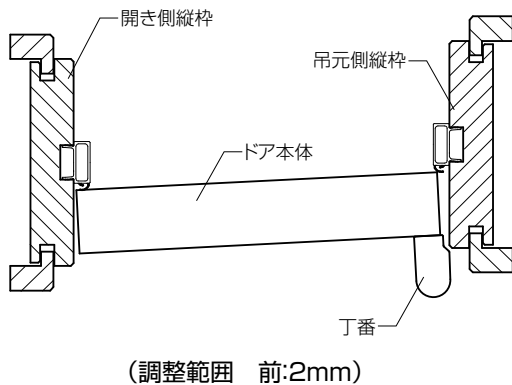
調整方法

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②左右調整ねじを右に回してドアを吊元側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。



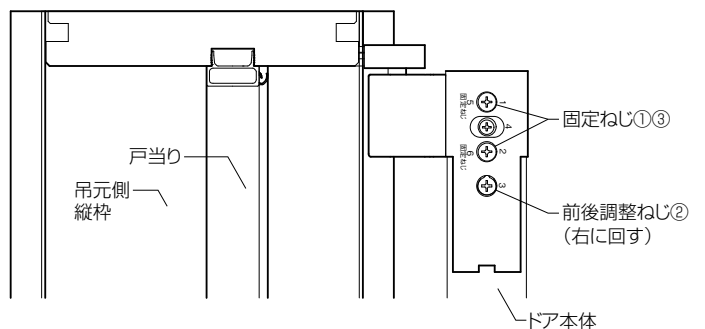
不具合例

■開き側の縦枠が前に出ている。



調整方法

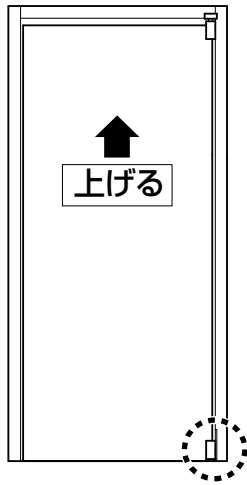
- ①固定ねじをゆるめる。
- ②前後調整ねじを右に回してドアを前に移動させる。
- ③固定ねじを締める。



調整方法について

不具合例

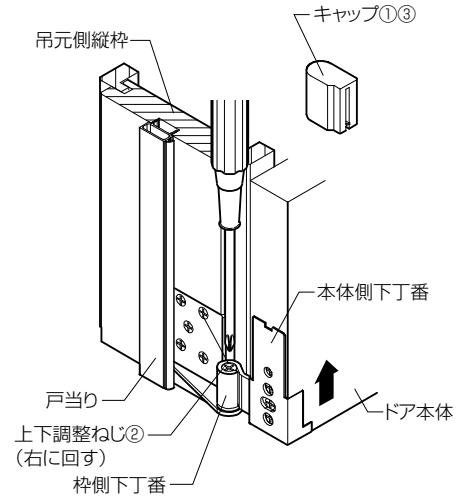
■ドアの下部が枠に当たる。



(調整範囲 上:2mm)

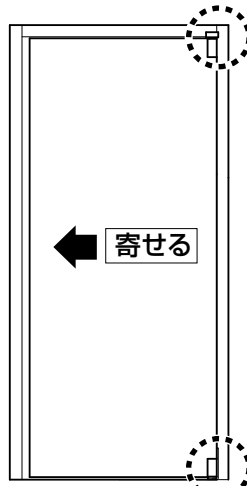
- ①本体側下丁番のキャップを外す。
- ②上下調整ねじを右に回しドアを上げて位置を決める。
- ③キャップをはめる。

調整方法



不具合例

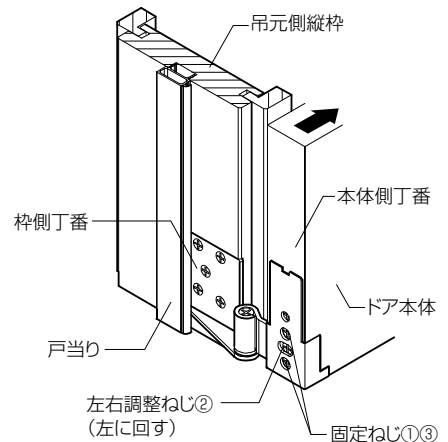
■ドアの開き側のすき間が大きすぎる。



(調整範囲 開き側:2.5mm)

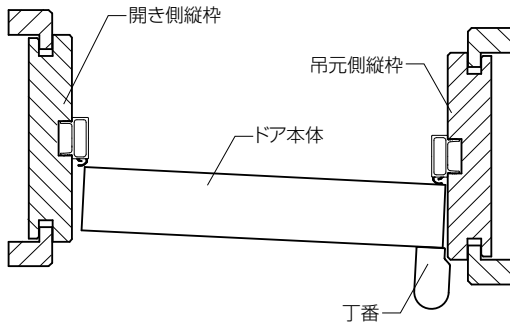
- ①固定ねじをゆるめる。
- ②左右調整ねじを左に回してドアを開き側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。

調整方法



不具合例

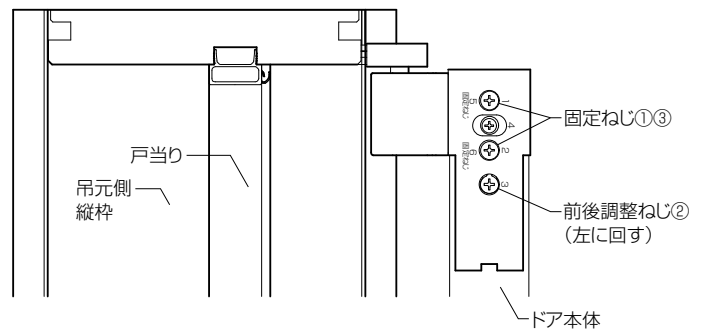
■吊元側の縦枠が前に出ている。



(調整範囲 後:2mm)

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②前後調整ねじを左に回してドアを後に移動させる。
- ③固定ねじを締める。

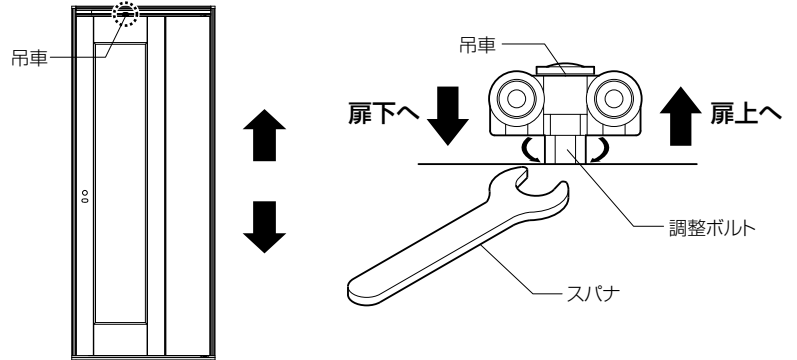
調整方法



WL中折れドア／左右・上下調整

上下調整

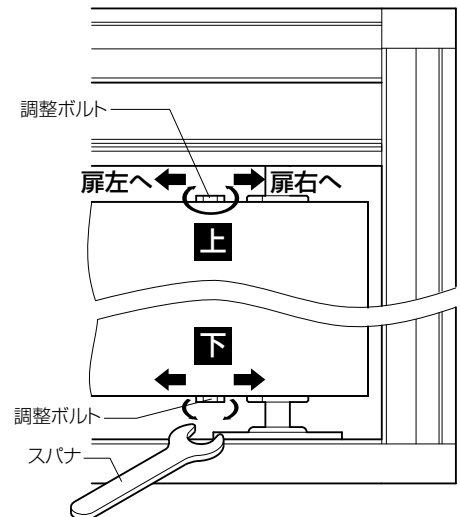
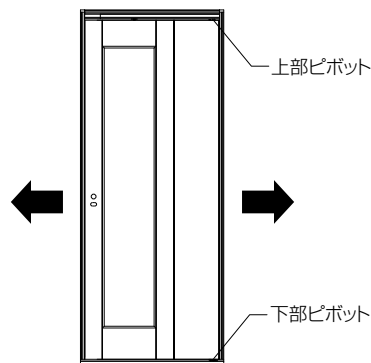
- 吊車で調整します。調整幅は±3mmです。
- 付属のスパナで時計回りに回すと扉が上がり、反時計回りで扉が下がります。



左右調整

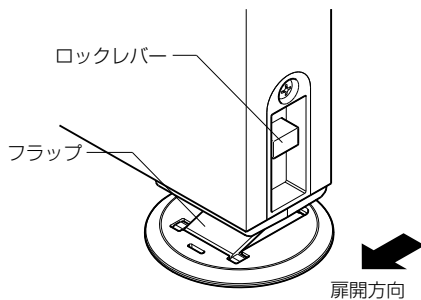
- 上・下部ピボットで調整します。調整幅は±2.5mmです。
- 付属のスパナで上・下部ピボットの調整ボルトを回して調整します。

	扉を左へ	扉を右へ
上部ピボット	時計回り	反時計回り
下部ピボット	反時計回り	時計回り



WL ドア／内蔵ドアストッパー取扱い方法

- 扉本体が受け部品に近づくとフラップが立ち上がり、ストッパーが作動します。

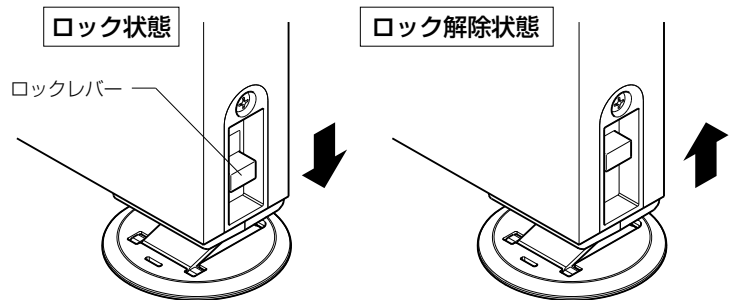


お願い

- ロックレバーを下げたまま扉を開閉しないでください。部品が破損するおそれがあります。

※扉本体の開く速度が速すぎると作動しなかったり、部品が破損するおそれがあります。

- ロックレバーを下げてロック状態にすると扉を開いた状態を維持します。



※ロックの際はフラップが本体の奥まで完全に入っていることを確認してください。

※ロック解除の際は、ロックレバーを完全に上げてください。

※ロックレバーを下げたまま扉を開閉しないでください。部品が破損するおそれがあります。

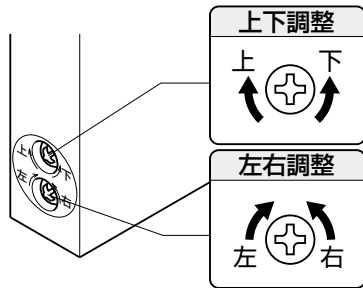
調整方法について

WL・FL・GL・CL室内引戸(Vレール方式・連動方式)・SL戸襖引戸 / 戸車による建付け調整

WL可動間仕切り引戸Vレール方式・クローゼット引戸連動タイプ / 戸車による建付け調整

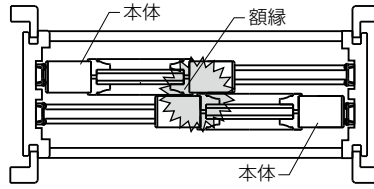
■上下調整(調整幅+4mm、-2mm)

- 本体両下端の上下調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。

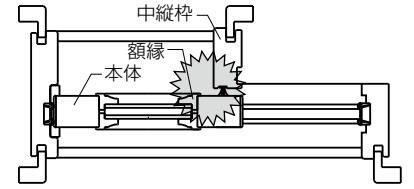


※左右調整する場合は、本体同士がぶつからないようにご注意ください。又、本体と中縦枠モヘアが接触しすぎて、開閉が重くならないよう調整してください。

●引違い・3枚・4枚建



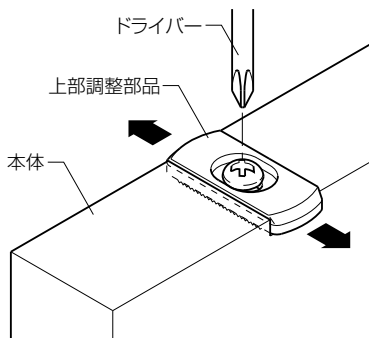
●片引き・引分け



■左右調整(調整幅±2mm)

【FL・CL室内引戸・SL戸襖引戸】

- ① 本体両下端の左右調整ねじを左に回すと本体が右に動き、右に回すと左に動きます。
- ② 本体上端の上部調整部品のねじをゆるめ、①で調整した分だけ上部調整部品をずらし、ねじを締直します。(本体が常に垂直になるように調整してください。)

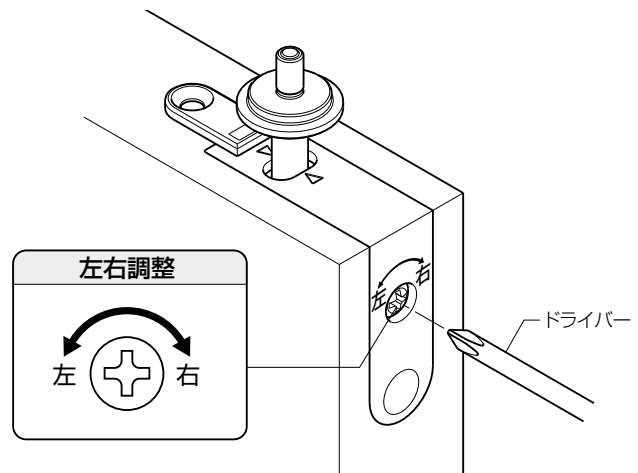


お願い

- 調整は必ず手回しドライバーを使用してください。電動ドライバーを使用した場合は、ねじ頭が壊れるおそれがあります。

【WL・GL室内引戸】

- ① 本体両下端の左右調整ねじを左に回すと本体が右に動き、右に回すと左に動きます。
- ② 本体両上端の左右調整ねじを右に回すと本体が右に動き、左に回すと左に動きます。

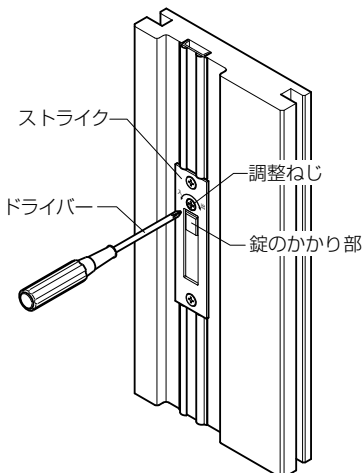


※連動方式には本体両上端の左右調整ねじは付いていません。

WL・FL室内引戸 / 引戸錠のかかり調整

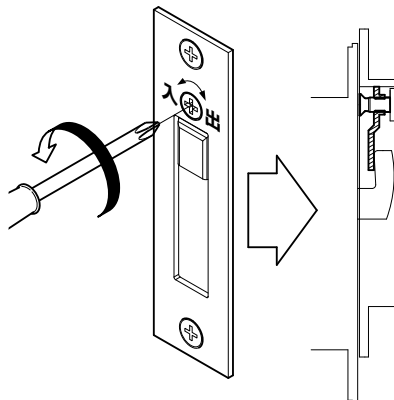
■引戸錠のかかり調整

- ストライクの調整ねじを右に回すと錠のかかり部が出て、左に回すと錠のかかり部が奥に入ります。



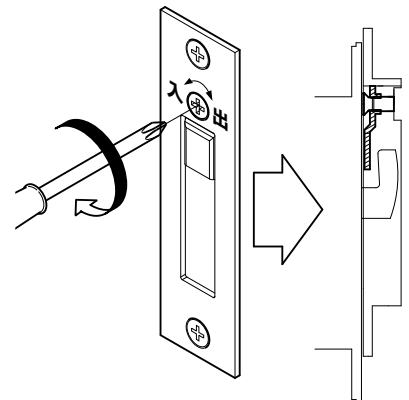
【本体と枠のすき間が大きい場合】

- 調整ねじを左に回して調整してください。



【錠がかかりにくい場合】

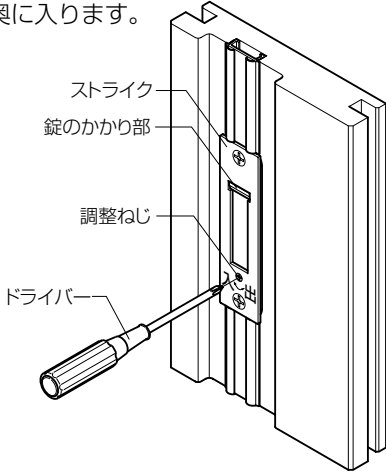
- 調整ねじを右に回して調整してください。



GL・CL室内引戸／引戸錠のかかり調整

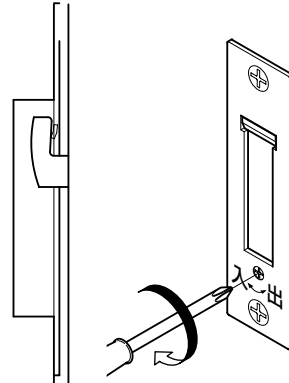
■引戸錠のかかり調整

- ストライクの調整ねじを左に回すと錠のかかり部が出て、右に回すと錠のかかり部が奥に入ります。



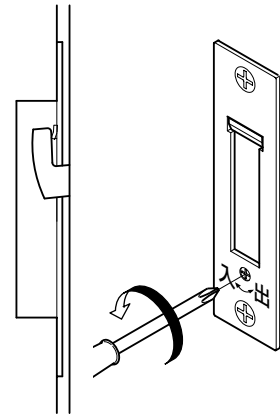
【本体と枠のすき間が大きい場合】

- 調整ねじを右に回して調整してください。



【錠がかかりにくい場合】

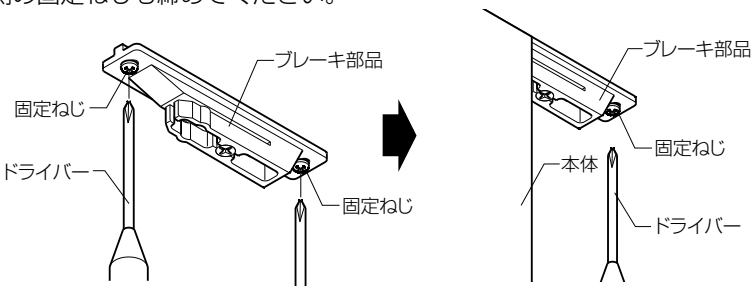
- 調整ねじを左に回して調整してください。



FL室内引戸(Vレール方式)・SL戸襖引戸／ブレーキ調整

■ブレーキの左右調整

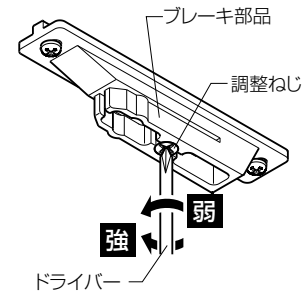
- 本体の左右調整時、ブレーキの左右調整も行ってください。上レール内側に付いているブレーキ部品の固定ねじをゆるめ、図のように本体を途中まで閉じてください。このまま片側の固定ねじを締め、本体を開けて反対側の固定ねじも締めてください。



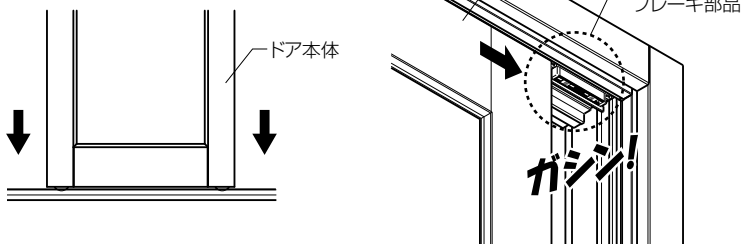
お願い

- 調整ねじを弱方向に回す場合、ブレーキの表面からねじ頭の出寸法が1.5mm以内になるように調整してください。

回しすぎるとねじがぬけます。



- 本体がブレーキ部品に当たる時は、戸車の上下調整ねじを回して本体を下げてください。



WL・GL室内引戸 Vレール方式／引込み調整

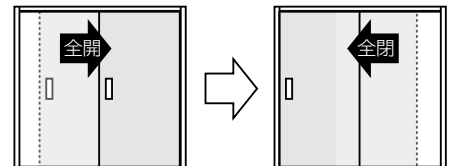
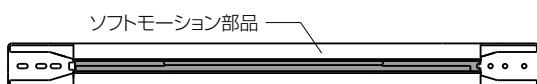
■WL・GL室内引戸Vレール方式のソフトモーション機構の自動復帰方法

※本体を吊り込んでもソフトモーション機構が作動しない場合は以下の手順を行うことでソフトモーション機構が自動復帰します。

- ①本体を全開してください。
- ②本体を全閉してください。
- ③①、②を1～2回繰り返してください。ソフトモーション機構が復帰します。

※必ず縦枠に当たるまで全開・全閉を行ってください。

※開閉はゆっくりと行い、ソフトモーション機構復帰後は扉を無理に押し込んだり、引っ張ったりしないでください。作動不良の原因となります。



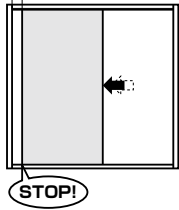
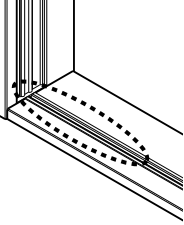
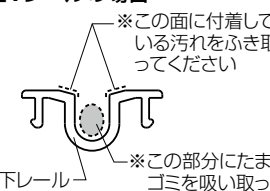
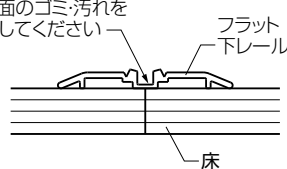
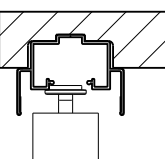
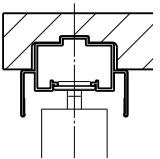
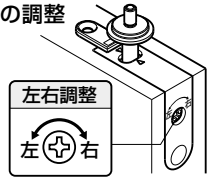
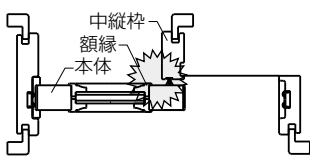

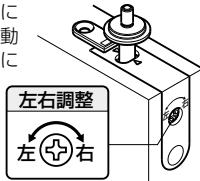
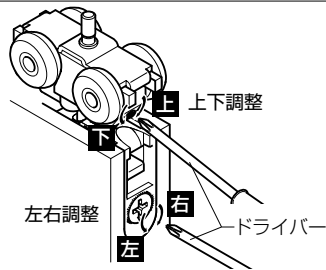

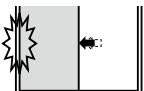

調整方法について

WL室内引戸 Vレール方式・上吊方式・アウトセット方式／引込み調整

WL可動間仕切り引戸上吊方式／引込み調整

GL室内引戸 Vレール方式・可動間仕切り引戸スライドタイプ／引込み調整

■WL用Wソフトモーション機構・GL用ソフトモーション機構の調整方法

現象	チェックポイント	対処方法
<p>閉まりきらない すぎ間</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●下レールやフラット下レールに粉塵やゴミがたまって付着している ※Vレール方式・可動間仕切り引戸の場合 	<p>清掃してください。</p> <p>■Vレールの場合</p>  <p>※この面に付着している汚れをふき取ってください</p> <p>※この部分にたまっているゴミを吸い取ってください</p> <p>■フラット下レールの場合</p>  <p>※この面のゴミ・汚れを除去してください</p> <p>フラット下レール</p> <p>床</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●ガイドローラーが上レールのセンターと芯がズレている ※Vレール方式のみ 	<p>ガイドローラーの左右調整ねじで芯を合わせてください。</p>  <p>■ガイドローラーの調整</p> <p>左右調整ねじを右に回すと本体が右に動き、左に回すと左に動きます。(調整幅左右各2mm)</p> 
	<ul style="list-style-type: none"> ●本体とモヘアが接触している ※Vレール方式・上吊方式・可動間仕切り引戸の片引き・引分けのみ  <p>中縦枠 額縁 本体</p>	<p>■Vレール方式の場合</p> <p>戸車とガイドローラーの左右調整ねじで本体にモヘアが触れて閉閉が重くならないように調整してください。</p> <p>【戸車の調整】</p> <p>左右調整ねじを左に回すと本体が右に動き、右に回すと左に動きます。(調整幅左右各2mm)</p>  <p>【ガイドローラーの調整】</p> <p>左右調整ねじを右に回すと本体が右に動き、左に回すと左に動きます。(調整幅左右各2mm)</p> 
		<p>■上吊方式・可動間仕切り引戸の場合</p> <p>吊車の左右調整ねじで本体にモヘアが触れて閉閉が重くならないように調整してください。</p> <p>【吊車の調整】</p> <p>左右調整ねじを左に回すと本体が右に動き、右に回すと左に動きます。(調整幅左右各2mm)</p>  <p>上下調整</p> <p>左右調整</p> <p>ドライバー</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●ソフトモーション部品の外観に潤滑剤が塗布された形跡がある 	<p>ソフトモーション部品の交換が必要です。</p>
<p>ブレーキが効かない</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●ソフトモーション部品の外観に潤滑剤が塗布された形跡がある 	<p>ソフトモーション部品の交換が必要です。</p>

■WL用Wソフトモーション・GL用ソフトモーションには商品の構造上、以下の現象が発生します。

製品不具合ではありませんので、あらかじめご了承ください。

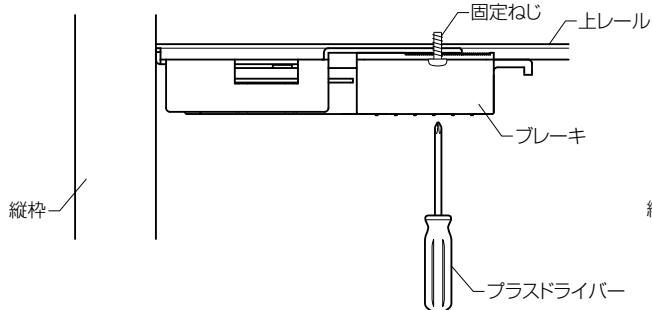
- ・開閉の際にカチッという部品の作動音が生じます。
- ・バネを採用している為、扉を開ける際に途中扉が重く感じる部分があります。
- ・オイルダンパー（緩衝装置）を使用している為、夏季と冬季（部屋の温度差）で引き込み速度が異なる場合があります。
- ・扉の重量、建付け状況により、扉の引き込み速度が異なる場合があります。
- ・重量の重い扉を強めに閉めると、ブレーキ感が弱く感じる場合があります。
- ・重量の軽い扉を勢いよく閉めると、扉戸先の浮き上がり（つかかり）が生じる場合があります。
- ・レール、戸車にゴミなどが付着し動きが悪くなると、扉が閉まりきらないことがあります。

調整方法について

GL室内引戸 Vレール方式/戸尻ブレーキ調整

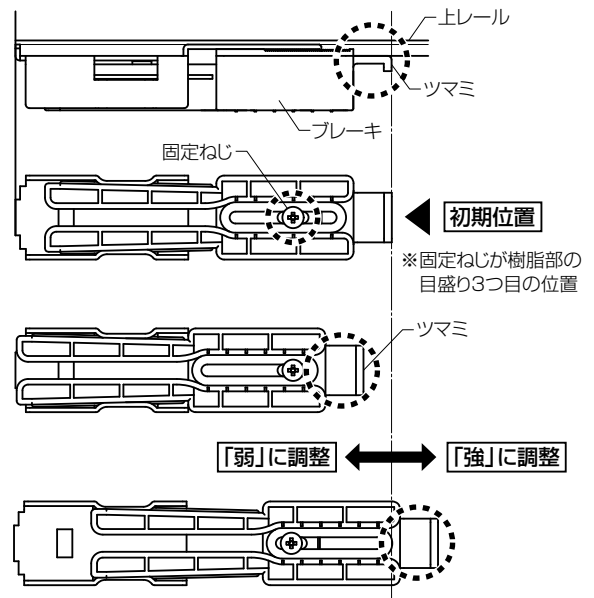
■ブレーキ力調整

①上レール内側に付いているブレーキ部品の固定ねじをゆるめます。



②ブレーキ先端のツマミを左右にスライドさせて強弱の調整を行います。

※ツマミを手前側に引くと「強」、ツマミを押込むと「弱」に調整できます。



お願い

- 調整は必ず手回しドライバーを使用してください。(電動ドライバーは使用しないでください。)

③調整後、固定ねじを締めます。

WL室内引戸(上吊方式・アウトセット方式)・WL可動間仕切り引戸上吊方式
・GL可動間仕切り引戸スライドタイプ / 吊車による建付け調整

■上下調整(調整幅+4mm、-1mm)

●プラスドライバーで吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が下がり、左に回すと本体が上がります。

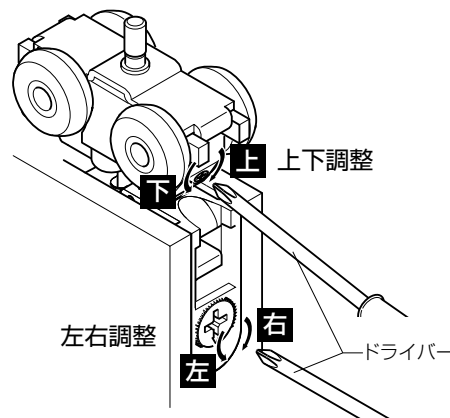
※床面と本体下部とのチリ寸法は、8mmが標準です。

※本体を下げ過ぎるとガイドピンベース部と本体が当たりますので、下げすぎないでください。

■左右調整(調整幅±2mm)

●左右調整は片引きの場合、中縦枠と本体のチリが大きい(小さい)場合(標準チリ9mm)に実施してください。引違いの場合、本体同士のチリが大きい(小さい)場合(標準チリ8mm)に実施してください。プラスドライバーで吊車下部の調整ねじを左に回すと本体が右へ動き、右に回すと本体が左に動きます。

※前後調整した場合は、本体が常に垂直になるようにガイドピンおよび縦枠下部のプレ止めの調整をしてください。調整しないと開閉操作が重くなる場合があります。



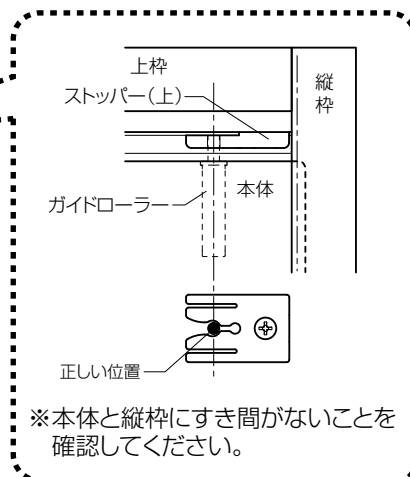
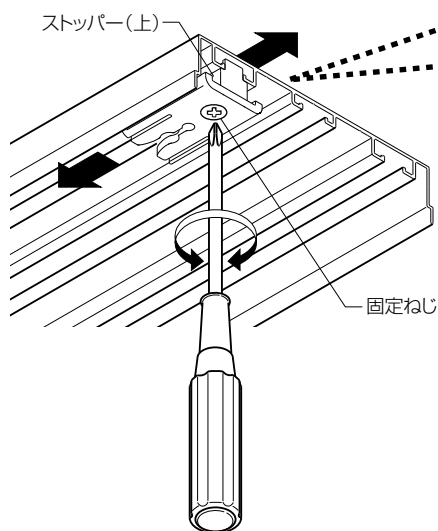
WLクローゼット引戸連動タイプ / ストッパー調整

■ストッパーの調整

①ストッパーの固定ねじをゆるめます。

②右図のように正しい位置にストッパーを動かします。

③ストッパーの固定ねじを締めてください。



※本体の高さ調整を行ったあとにストッパーの位置を調整してください。

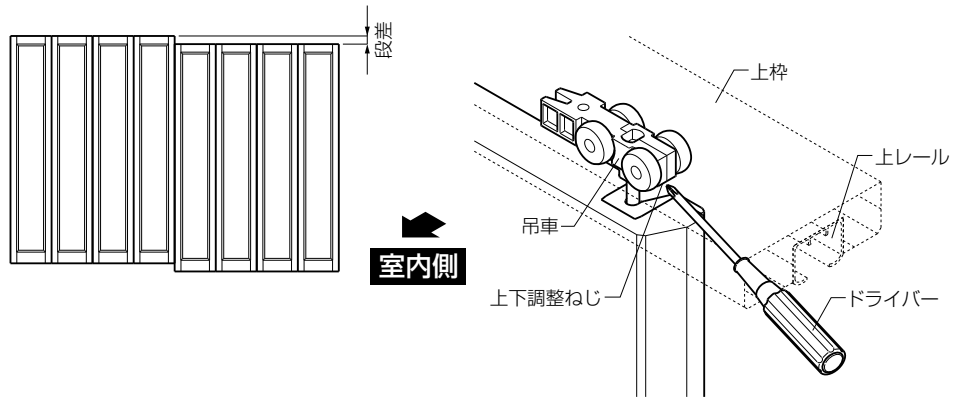
※ガイドローラーがストッパーの正しい位置におさまるようにしてください。

調整方法について

WL・FL(フリータイプ)クローゼット折れ戸／吊車による建付け調整

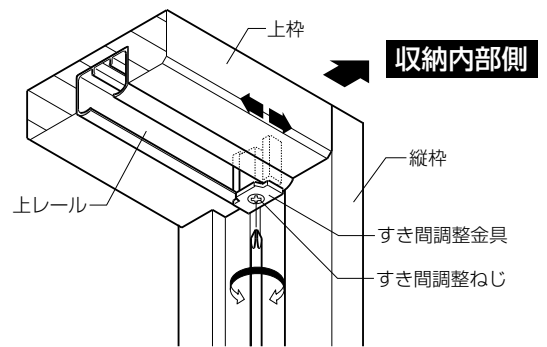
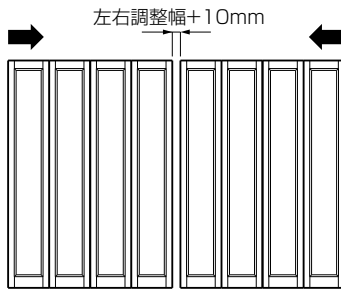
■段違い(上・下)の調整

- 本体の取付け後、上下の目地が合っていない場合、左右の吊車の上下調整ねじをドライバーで回し調整してください。
(上下調整量±3mm)



■すき間(左・右)の調整(フリータイプの場合)

- 本体間のすき間が大きい場合、上レールの端部(左右)に付いているすき間調整金具で調整できます。
すき間調整ねじをドライバーで回し、調整してください。すき間調整ねじを右に回すと、すき間が小さくなります。
注)すき間調整金具は、上レールの左右に付いています(W07・08は、片側のみ)ので、左右均等に調整してください。

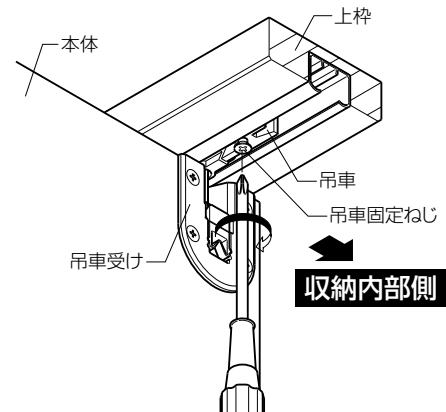
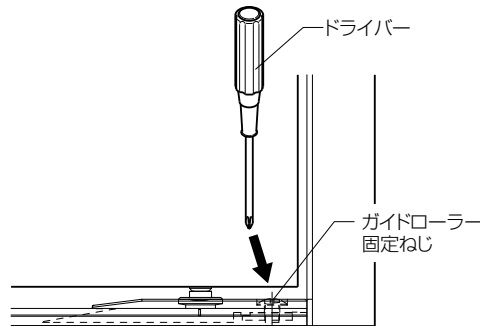
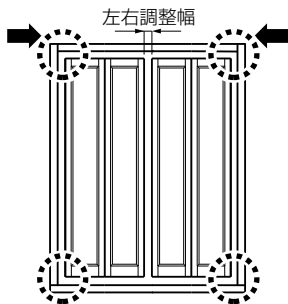


■すき間(左・右)の調整(ピボットタイプの場合)

- 本体間のすき間が大きい場合、吊車およびガイドローラー固定金具(本体部品セット同梱)で左右調整を行います。

- 本体をずらしてガイドローラー固定金具の固定ねじをプラスドライバーでゆるめて移動させます。

- 吊車固定ねじをドライバーでゆるめて移動させます。

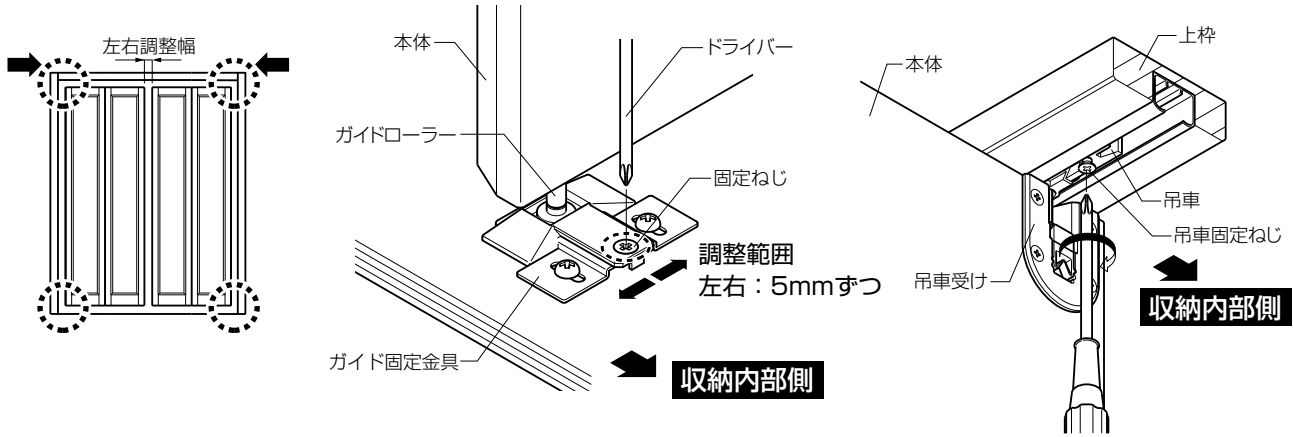


■すき間(左・右)の調整(ノンレールタイプの場合)

●本体間のすき間が大きい場合、吊車およびガイド固定金具で左右調整を行います。

●ガイド固定金具の固定ねじを、ドライバーでゆるめて左右に移動させます。

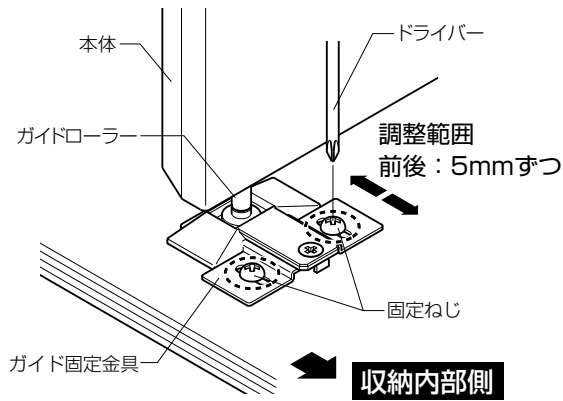
●吊車固定ねじをドライバーでゆるめて移動させます。



■すき間(前・後)の調整(ノンレールタイプの場合)

●ガイド固定金具で前後調整を行います。

●ガイド固定金具の2つの固定ねじを、ドライバーでゆるめて前後に移動させます。

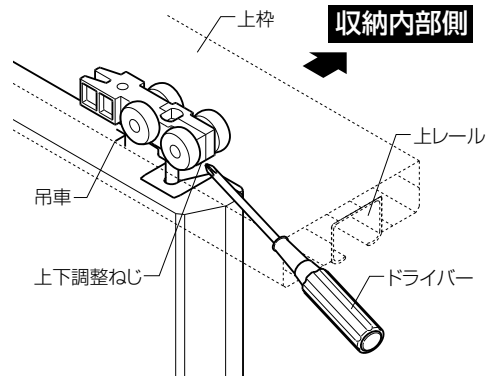
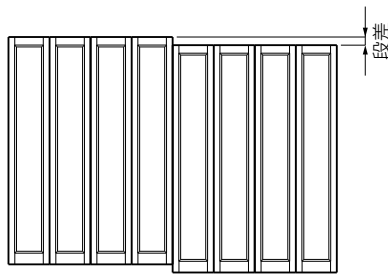


調整方法について

GLクローゼット折れ戸／吊車による建付け調整

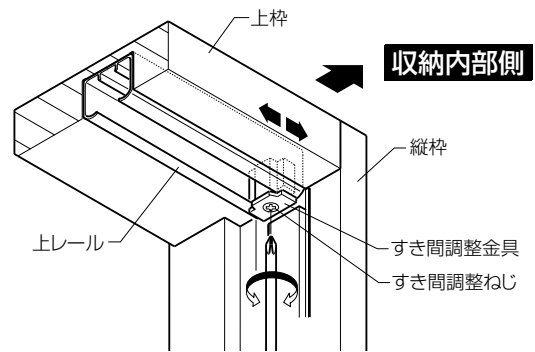
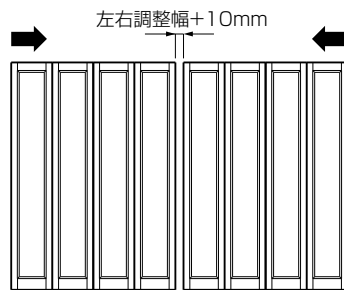
■段違い(上・下)の調整

- 本体の取付け後、上下の目地が合っていない場合、左右の吊車の上下調整ねじをドライバーで回し調整してください。
(上下調整量±3mm)



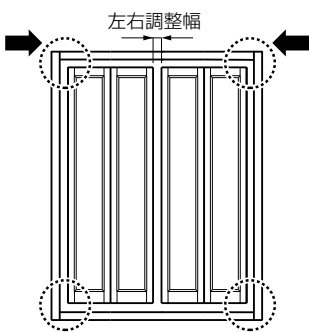
■すき間(左・右)の調整(フリータイプの場合)

- 本体間のすき間が大きい場合、上レールの端部(左右)に付いているすき間調整金具で調整できます。
すき間調整ねじをドライバーで回し、調整してください。すき間調整ねじを右に回すと、すき間が小さくなります。
注)すき間調整金具は、上レールの左右に付いています(W07・08は、片側のみ)ので、左右均等に調整してください。

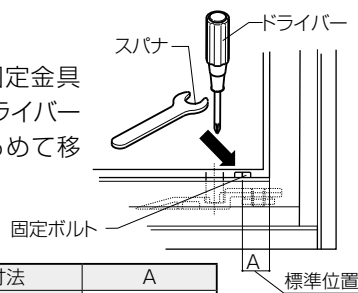


■すき間(左・右)の調整(ピボットタイプの場合)

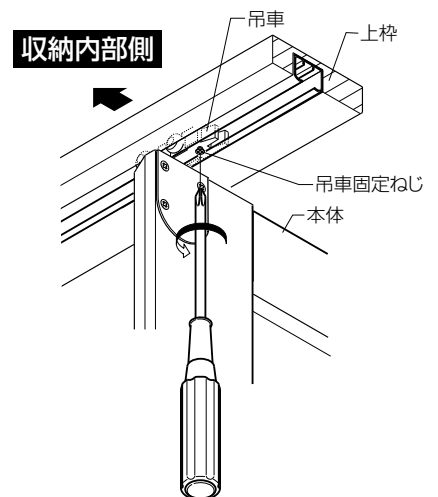
- 本体間のすき間が大きい場合、吊車およびガイドローラー固定金具で左右調整を行います。



- ガイドローラー固定金具の固定ボルトをドライバー又はスパナでゆるめて移動させます。



固定ねじまでの寸法	A
W12,13,16,18の場合	13
上記以外の場合	12.5



- 吊車固定ねじをドライバーでゆるめて移動させます。

FL(ピボットタイプ)・CLクローゼット折れ戸／調整ボルトによる建付け調整

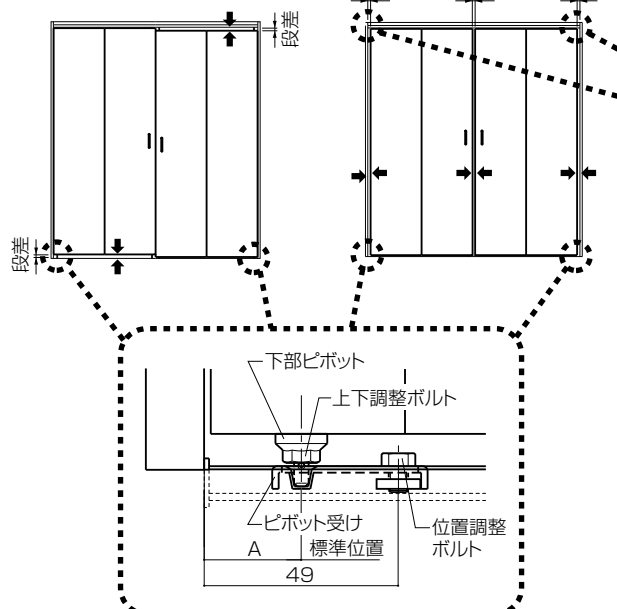
■段違い(上・下)の調整

●扉の取付け後、上下の目地が合っていない場合

※下部ピボットの上下調整ボルトを回して調整します。

上下調整量 薄下枠: $\pm 2\text{mm}$ 埋込下枠: $\pm 3\text{mm}$ (図1)

(図1)



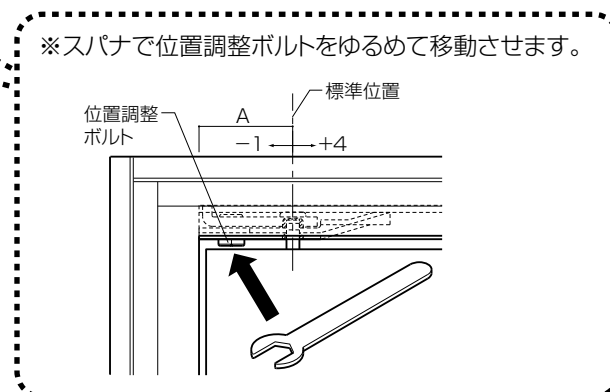
■すき間(左・右)の調整

●図2のように左右のすき間が大きい場合

※上・下のピボット受けの位置調整ボルトをゆるめ、左右方向の調整をした後、ボルトを締付けます。(上部ピボット受けの左右調整量 $+4$ 、 -1mm)

注:調整完了後、ピボット受けを同梱のスパナで本固定してください。(図2)

(図2)



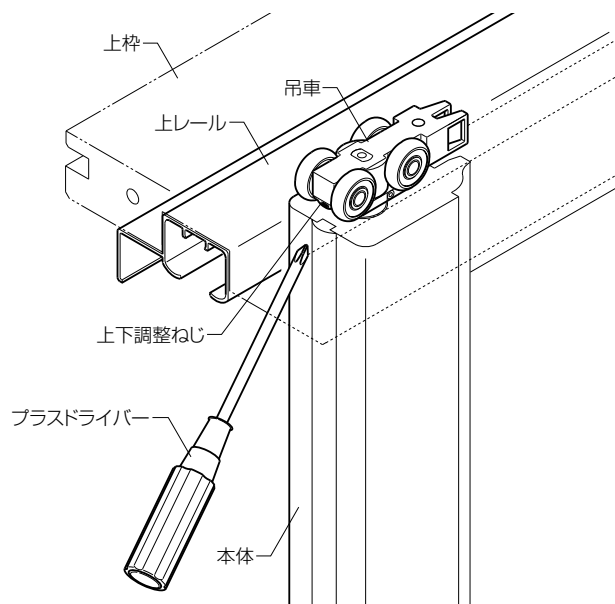
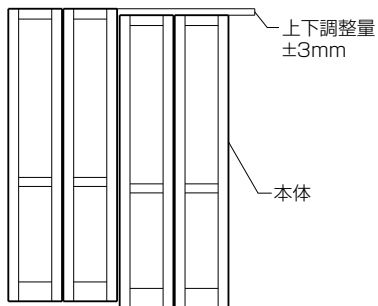
	A寸法
W12,13,16,18	32
上記以外の場合	31.5

調整方法について

WL可動間仕切り折れ戸／吊車による建付け調整

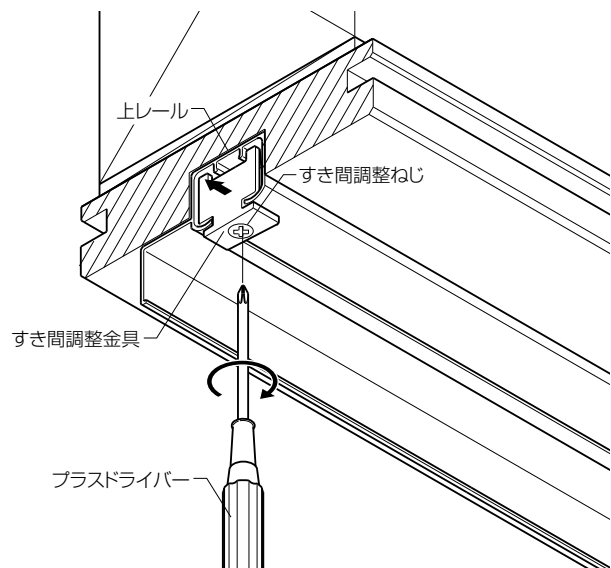
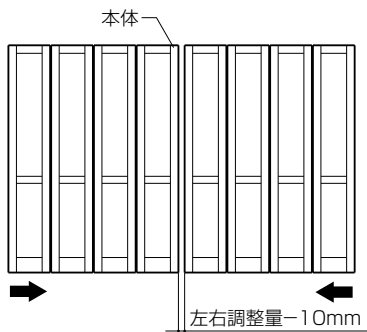
■上下方向の調整

- 本体が段違いになった場合は、左右の吊車の上下調整ねじをドライバーで回して調整してください。



■左右方向の調整

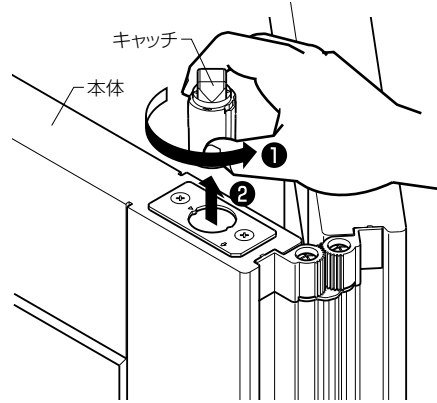
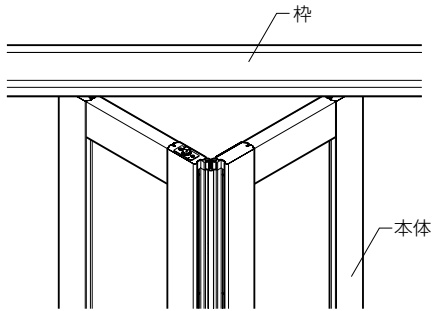
- 本体間のすき間が大きい場合は、上レール両端のすき間調整ねじをプラスドライバーで回して調整してください。右に回すとすき間が小さくなります。



■本体の振れ止めの調整(キャッチの上下調整)

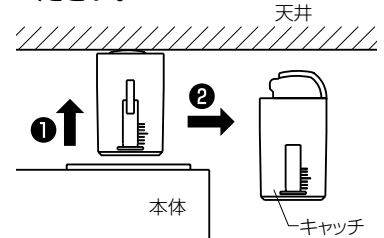
①本体を開けてください。

②キャッチのヘッドを左に回してロックを解除して、キャッチを上へ引抜きます。



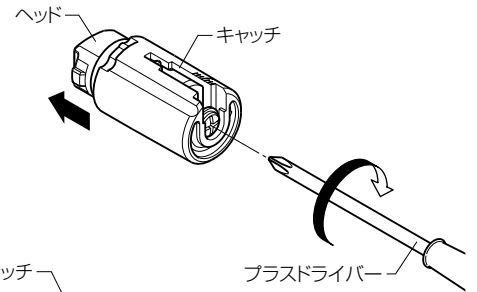
お願い

●天井と本体上端とのスペースが小さい場合は、キャッチを天井に押付けて、キャッチ全長を短くした状態で横に抜いてください。

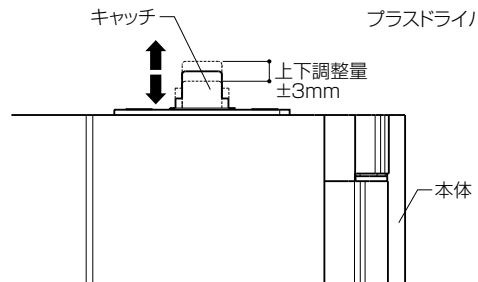
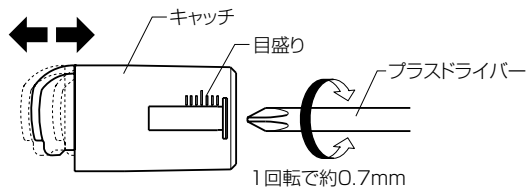


③キャッチ下面の調整ねじをプラスドライバーで回して調整してください。
※時計回りに回すとキャッチのヘッドが上がります。

●キャッチ力が弱いとき。	反時計回り
●キャッチにガタツキがあるとき。	
●キャッチ力が強いとき。	時計回り
●キャッチが上枠に当たり、本体を閉めることができないとき。	



※ねじ1回転で約0.7mm上下します。キャッチ側面の目盛りを目安にして調整してください。

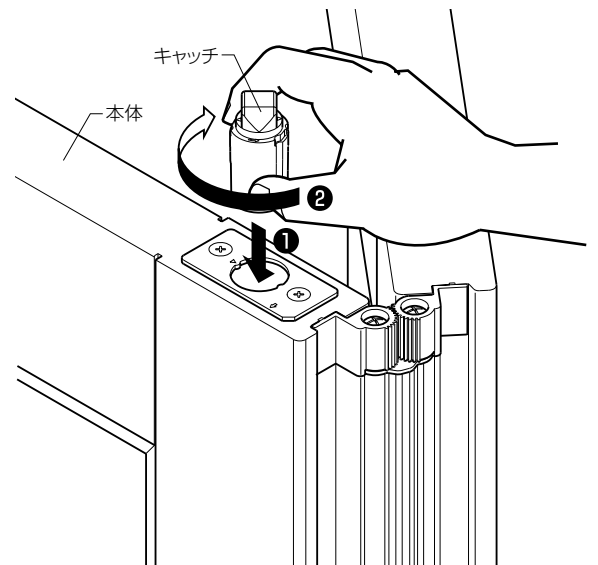


④キャッチを取付け穴に差込み、キャッチのヘッドを右に回してロックしてください。

※ヘッド取付け向きの間違い防止のため、押え板の突起の位置がずれています。押え板の突起の位置とキャッチの切欠きの位置を合わせて差込んでください。

お願い

●必ず「カチッ」という手応えを感じるまで右に回してください。
キャッチのロックが不完全な場合、キャッチが破損する可能性があります。

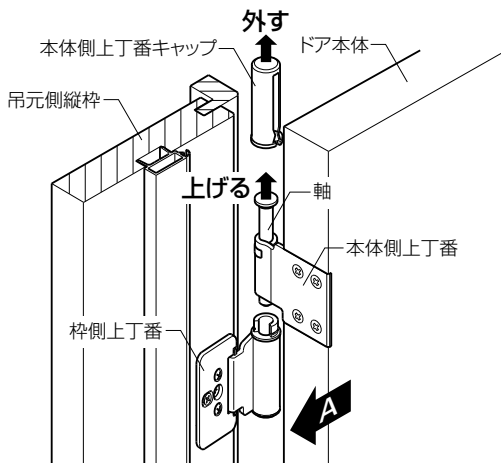


⑤本体を閉めて、キャッチの掛かりを確認してください。問題がある場合は①～④の作業を繰り返してください。

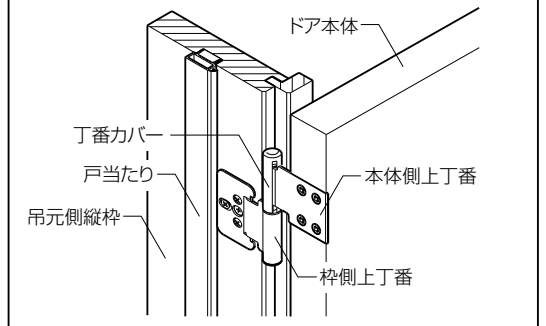
調整方法について

SL戸襖ドア／取外し方法

- ① 本体側上と下の丁番キャップを上げます。
 - ② ドアを持ち上げて外します。(右図参照)
- ※ 枠などに当たってドアが外せない場合は、本体側上丁番のキャップを外し、軸を止まるまで上げてA方向にドアを外します。



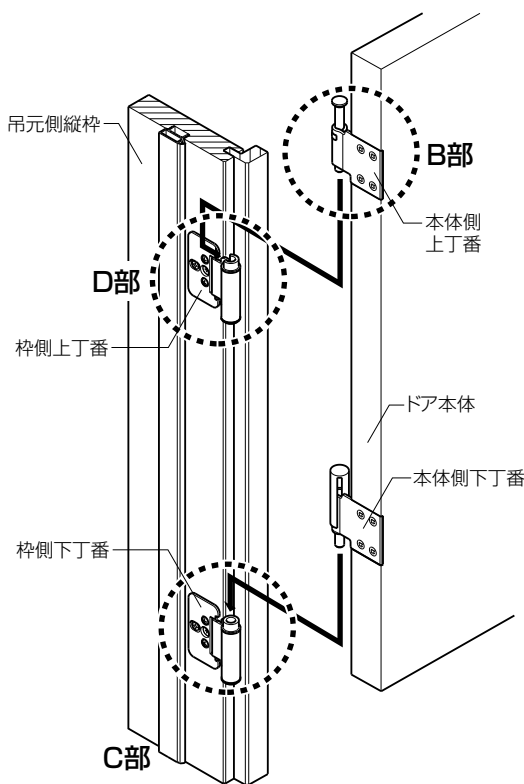
■取付け完成図



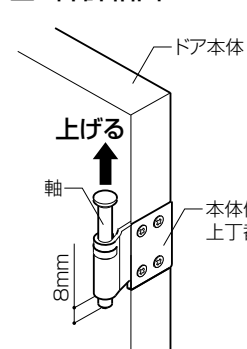
SL戸襖ドア／取付け方法

- ① 本体側下丁番のカバーを上げます。
- ② 本体側上丁番のカバーを外してください。
- ③ 本体側上丁番の軸を止まるまで上げます。(B部)
※ 軸は8mm程残した位置で止まります。
- ④ 本体側下丁番を枠側下丁番に差込みます。(C部)
※ 本体側下丁番の軸を垂直に差込んでください。

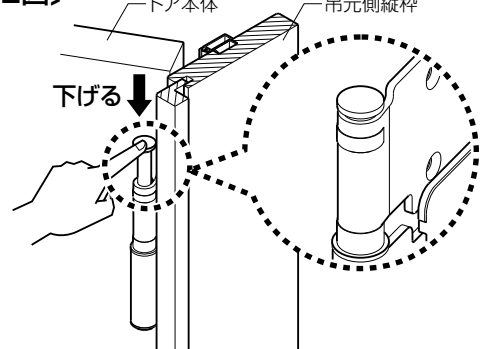
- ⑤ 本体側上丁番の軸を枠側上丁番のU字溝にはめ込み、ドア本体を吊込みます。
- ⑥ 本体側上丁番の軸を止まるまで下げてください。(E図)
- ⑦ 本体側上丁番のカバーを取付けます。
※ 枠側上丁番のケースカバー溝にはめ込んでください。
- ⑧ 本体側下丁番のカバーを下げます。
※ 枠側下丁番のケースカバー溝にはめ込んでください。



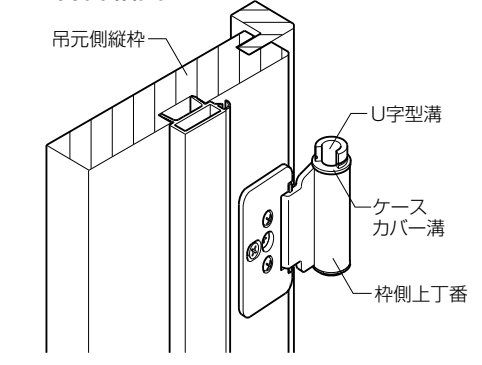
■B部詳細図



(E図)



■D部詳細図



【扉の取外し方法】

- 本体側の上下の丁番を止めているねじをゆるめ、本体を外します。

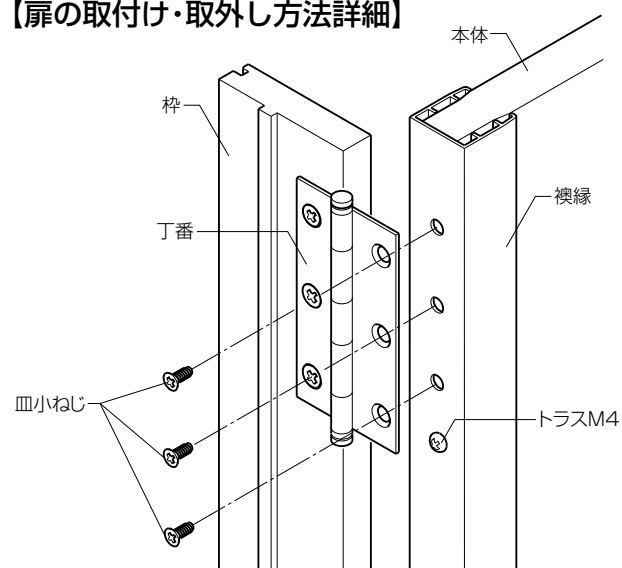
お願い

- トラスM4ねじはゆるめないでください。ゆるめると裏板が外れて取付けできなくなります。

【扉の取付け方法】

- 枠に取付いている丁番に本体を取付けます。(右図参照)
- ※ねじが曲がらないように、又、から回りしないように必ず手回しで取付けてください。

【扉の取付け・取外し方法詳細】



調整方法について

SL / 襖紙の張替え方法

1 襖紙(シート)の張替えに必要なもの

- ・鋼制定規(かね尺など) ・カッター ・ハケ又は乾いたタオル ・ヘラ ・マスキングテープ
- ・プラスドライバー ・マイナスドライバー ・水 ・必要幅の襖紙(シート) ・市販の澱粉糊

2 SL戸襖・和襖 現地張りタイプの場合

※現場手配した襖紙を張った場合は、次回の張替え時から、上に張増しすることができます。

①本体を枠から外します。

②把手(又は引手)を取外します。

※戸襖引戸の場合は、釘で固定されているので、釘を抜いて和室側の引手を取外してください。(図1)

※和襖引戸の場合は、引手を手で引っ張って取外します。固い場合は、図のように裏面から当て紙をしてマイナスドライバーで少しずつ持ち上げます。(図2)

③マス縁の調整ねじを緩め、マス縁を外にズラし最大調整幅(DW +4mm)とします。

④マスキングテープをマス縁に張ってください。

⑤新しい襖紙を張ります。

●新しい襖紙を、上下・左右共に襖より10mmほど大きく裁断します。(予備切断)

⑥本体に襖紙を澱粉糊(糊付き紙の場合は水)で付けます。

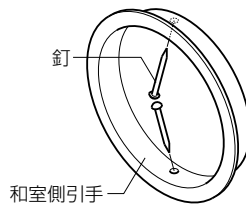
●位置を確認して襖に張付けます。しわが入った所は、もう一度はがして張りなおしてください。次に押えハケか、乾いたタオルで中央から上下左右へ空気を押出すように軽くこすってください。多少のしわやたるみは乾燥すれば直ります。

⑦襖縁に合わせて襖紙をカッターなどで切断します。(本切断)図に示すように襖縁の内側いっぱいまで襖紙を折返し、かね尺などを当て込み、その上でカッターで切断してください。その際、下地をキズ付けしないでください。キズが付くと縁がはずれて使用できなくなるおそれがあります。(図3)

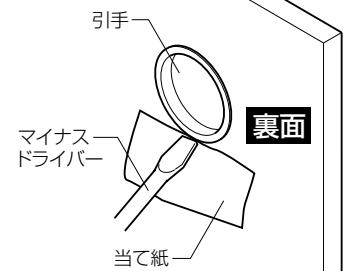
⑧切り代をヘラなどで襖縁の内側に押し込んでください。(図4)

⑨本体を吊込んで把手を取付けてください。(引戸の場合は、引手を取付けてください。)(図5)

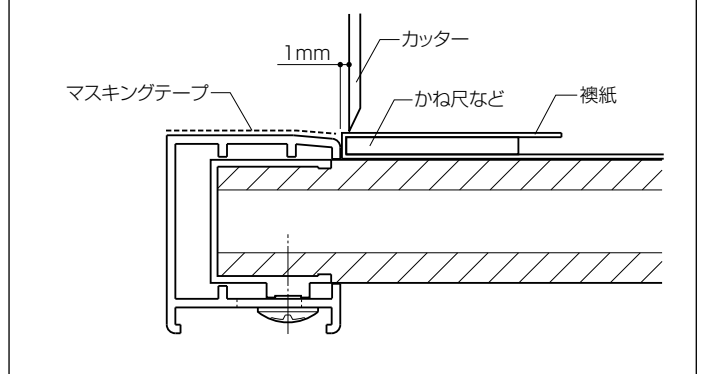
(図1)



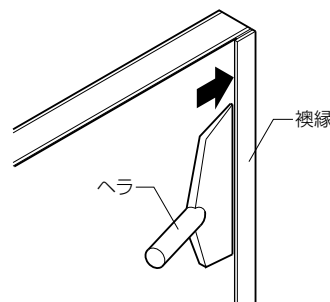
(図2)



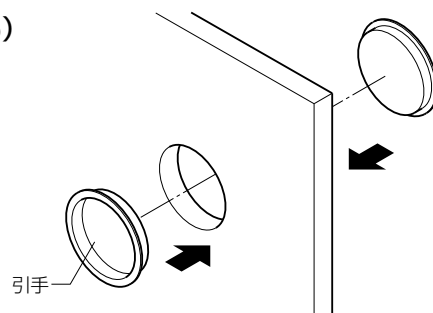
■現地張りタイプの場合(図3)



(図4)



(図5)



お願い

- 片面をクロス張りにしないでください。ソリが生じます。
- 両面現地張りタイプの場合は、両面とも同じ襖紙を張ってください。

3 SL和襖 既製襖タイプの場合

※襖柄シートですので、張替えは不要です。

破損などで張替えが必要な場合は、市販の襖紙での対応をおすすめします。

①本体の襖縁に取付いている上下の丁番の皿小ねじをプラスドライバーで取外します。(開き戸の場合)

※枠側についているねじは取外さないでください。

※襖縁のトラスM4のねじは取外さないでください。

②把手を取外します。(引戸の場合、引手を手で引張って外します。固い場合は、図のように裏面から当て紙をしてマイナスドライバーで少しずつ持ち上げます。)(図2)

●既製襖タイプは、襖柄シート表面のコーティング層をはくりし、新しい襖紙を上から重ねて張ります。

③襖縁を養生するため、マスキングテープを2枚重ねて張ってください。

④糊の密着性を高めるため、襖柄シートのコーティング層と着色層をはくりします。

●襖縁の際からサンドペーパー(手作業)で、襖縁にキズを付けないようにして着色層まではくりします。(幅15mm~20mmで行ってください。)(図6)

●ハンディーサンダー(サンドペーパーP100又はP180位を取付け)で襖柄シート全体のはくりをします。

●はくりは着色層がなくなり、襖柄シート基材の紙が出てくるまで行います。襖基材のペーパーハニカム(ダンボール)までにはくりしないでください。

⑤襖表面に穴があいた場合は、周囲をマスキングテープで養生し、パテ(レスリート/白色)で基材(ペーパーハニカム)内部まですき間なく充てんし、平らにしてください。

⑥新しい襖紙を張ります。

●新しい襖紙を上下・左右共に襖より10mmほど大きく裁断します。

●市販の澱粉糊を襖全体に塗布してください。(糊は「ルーアマイルド」(ヤヨイ化学)をおすすめします。)水との稀釈要領などについては説明書に従ってください。

●張りはじめに襖の柄が曲がらないようにしてください。又、張りはじめに襖紙がよれると襖紙に負荷がかかり、はがれやすくなりますので慎重に行ってください。

●ヘラを使い、余分な空気・糊を外に出して襖紙のしわを取除いてください。

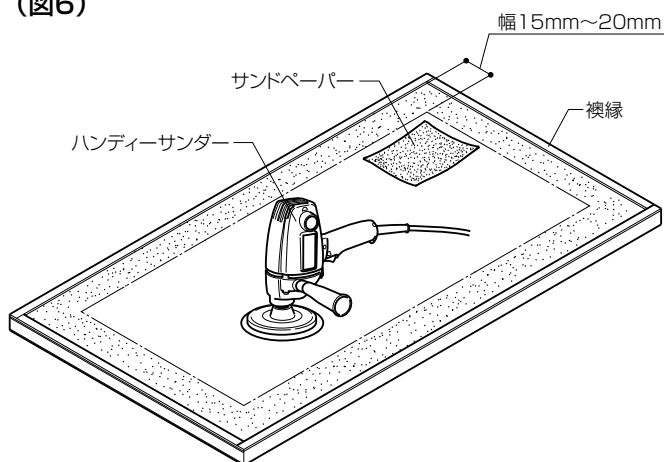
●襖紙の密着をよくするため、全体をまんべんなく押えます。

●全体が張り終わったら、襖縁の周囲の入隅分にヘラを使い襖紙を密着させ、余分な襖紙を入隅に合わせずき間なくカッターで切断してください。(図7)

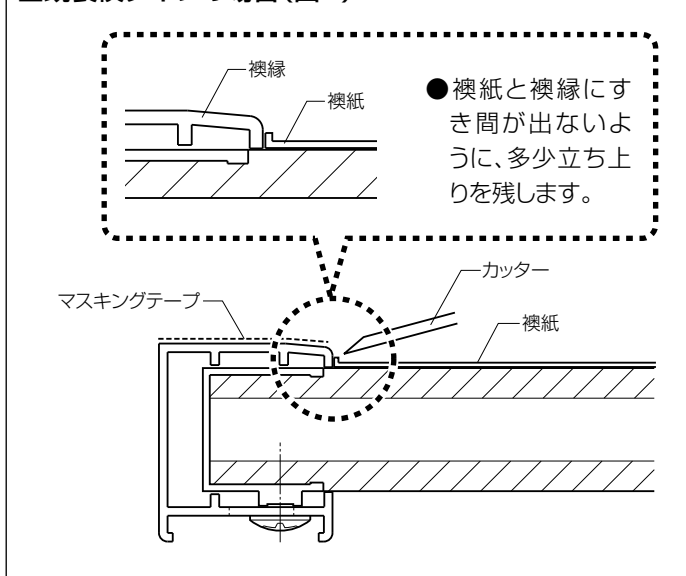
⑦養生のマスキングテープをはがしてください。

⑧本体を吊込んで把手を取付けてください。(引戸の場合は、引手を取付けてください。)(図5)

(図6)



■既製襖タイプの場合(図7)



お願い

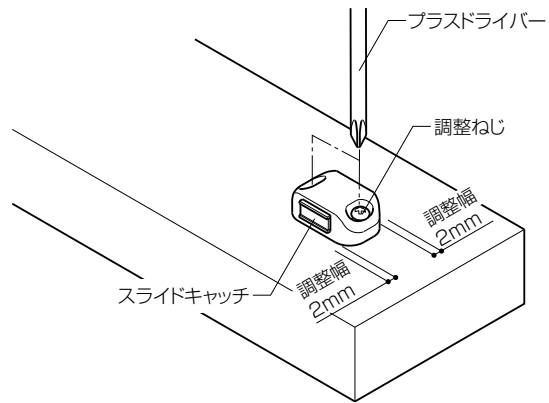
- 片面をクロス張りにしないでください。
ソリが生じます。

調整方法について

SL和襖開き戸／マグネットキャッチによる建付け調整

■前後調整(調整幅±2mm)

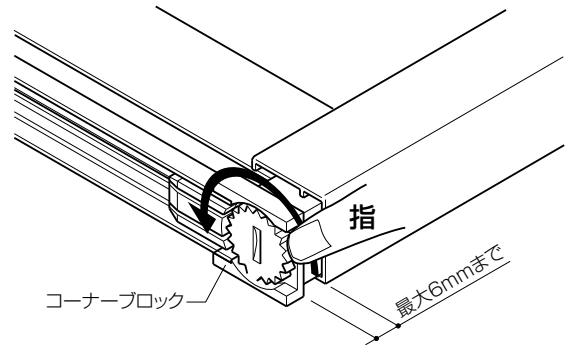
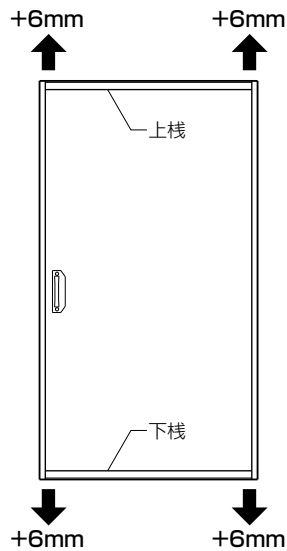
- マグネットキャッチが扉をキャッチしない場合、プラスドライバーで調整ねじをゆるめて、マグネットを前後させてください。



SL和襖開き戸・引戸／上下棧による建付け調整

■上下調整(調整幅+6mm、-0mm)

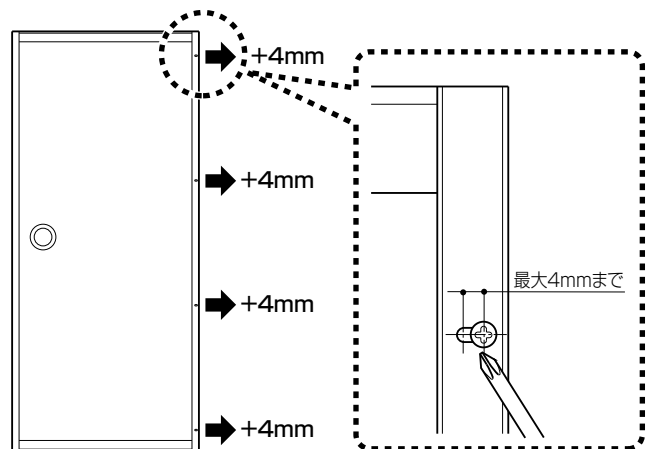
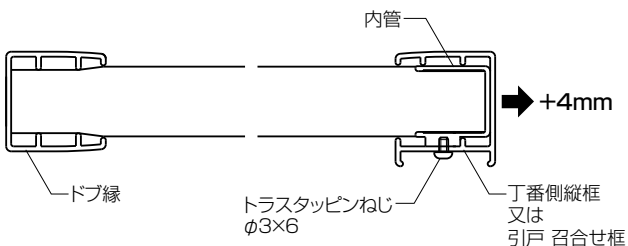
- 本体の上下棧には、上下の建付け調整機能が付いています。本体と枠のチリを調整する場合は、下棧の左右のコーナブロックのダイヤルを指で、左に回します。最大+6mmまで調整できます。



SL和襖開き戸・引戸／框による建付け調整

■左右調整(調整幅+4mm、-0mm)

- 本体の丁番側縦框、又は引戸の召合せ框には、左右の建付け調整機能が付いています。調整方法は調整ねじ(トラスタッピンねじφ3×6)をゆるめ、丁番側縦框、又は引戸の召合せ框を外にズラします。最大+4mmまで調整できます。
- 調整終了後は調整ねじを固定してください。

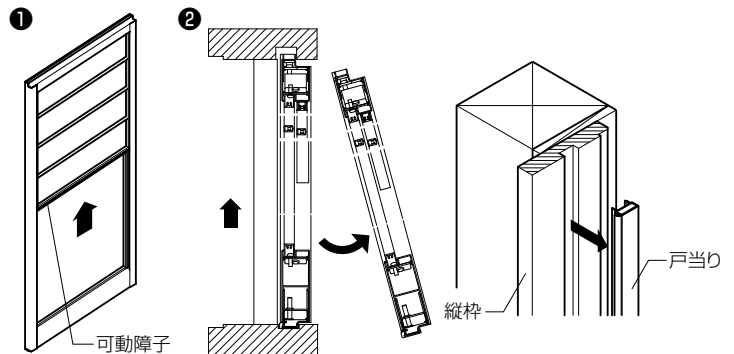


SL上げ下げ障子／扉の取外し・取付け方法

●サッシ・網戸のお手入れや障子張り替えの際には下記要領で本体を外してください。

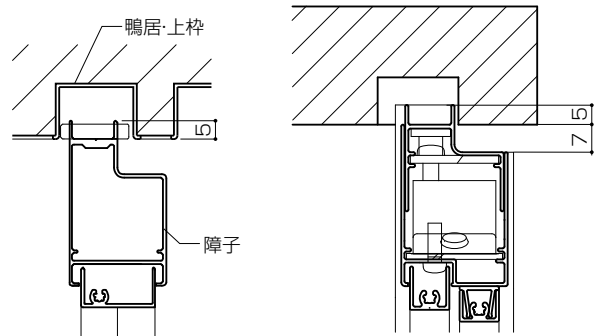
■取外し方法

- ①可動障子を開けます。
※一番上まで可動障子を上げた状態で作業してください。
- ②中棧・下棧を持ち、本体を持ち上げて下棧を下枠から外します。
※取付けは取外し方法と逆の手順にて行ってください。
下棧溝に本体が入っていることを確認してください。
※網戸のお手入れがしにくい場合は、縦枠に取付いている戸当りも外してください。
お手入れ後は、元通り縦枠溝に戸当りをはめ込んでください。



SL和障子／建付け調整

- ご使用中に建付けにくいが生じることがありますので(定期的な点検し)下記の方法で建付けの調整をしてください。
- ※上げ下げ障子以外の障子の鴨居・上枠へのかかりは5mm以上確保してください。かかりが少ないと障子の外れにつながります。(図1)
- ※上げ下げ障子は、上枠と上棧のチリを7mm以内にしてください。(図2)



上げ下げ障子以外(図1)

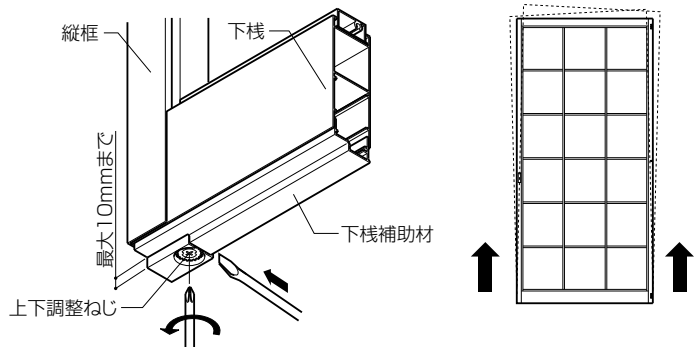
上げ下げ障子(図2)

■上下方向の建付け調整

- ※本体下棧・上棧には調整機能がついています。
本体の戸首の鴨居・上枠へのかかりが少ない場合に調整します。
- ※紙貼障子・室内用窓和障子タイプには本体上棧の調整機能はありません。

●本体下棧で調整する場合

- 調整量は+10mm、-0mmです。
- ・本体を外し、下棧の底の上下調整ねじをプラスドライバーで左に回します。
 - ※一度調整ねじを回せば、その後は本体を吊り込んだまま調整可能です。
その場合は、本体を少し持ち上げ、上下調整ねじのダイヤルをマイナスドライバーで回します。
 - ※上げ下げ障子は、本体を外して調整してください。

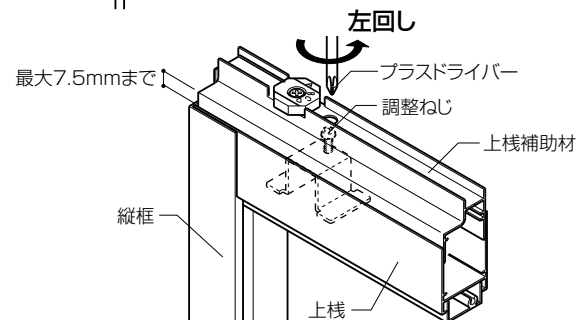


●本体上棧で調整する場合

調整量は+7.5mm、-0mmです。

・猫間障子の場合

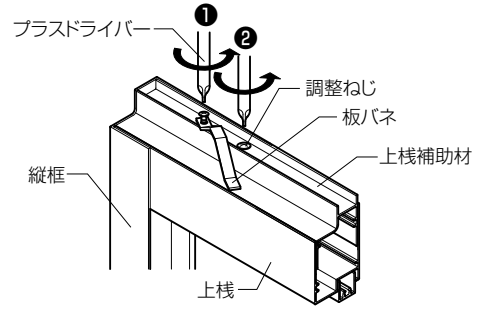
- 上棧調整ねじ穴に、プラスドライバーを差し込んで左に回します。



調整方法について

・上げ下げ障子の場合

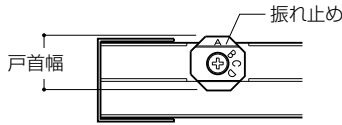
- ①上棧に付いている板バネのねじをゆるめ、板バネをズラします。
※ねじを外してしまうと上棧補助材に取付けてある接続金具が抜け落ちてしまうため外さないでください。
- ②上棧調整ねじ穴に、プラスドライバーを差込んで左に回します。



■戸首の鴨居溝内部のガタツキ調整

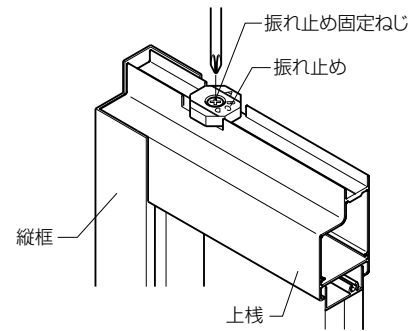
※上げ下げ障子にはガタツキ調整機能はありません。

- 溝内部で戸首のガタツキが大きい場合に調整します。上棧上部の振れ止め固定ねじをプラスのドライバーでゆるめ、振れ止めの八角面を回転させて調整します。八角面を決めたら、面を上棧と平行にして、固定ねじで締付けます。



(単位 mm)

八角面	戸首幅
A面	19.5
B面	20
C面	20.5
D面	21

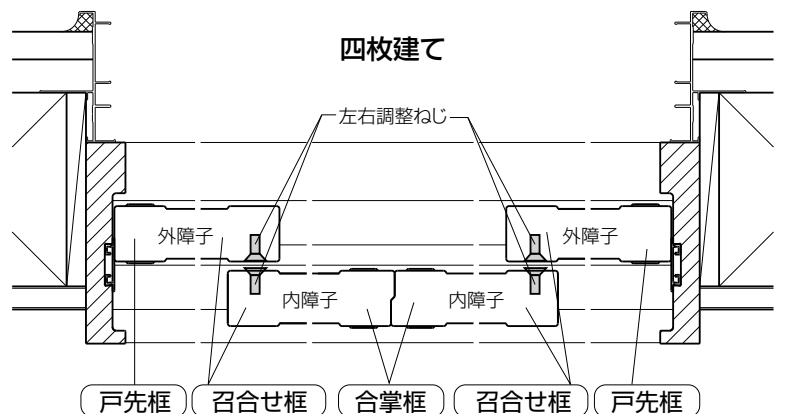
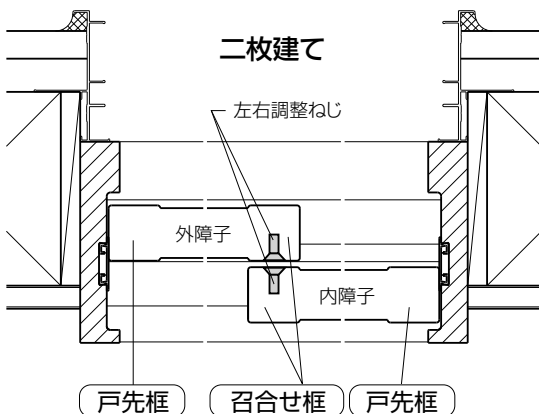
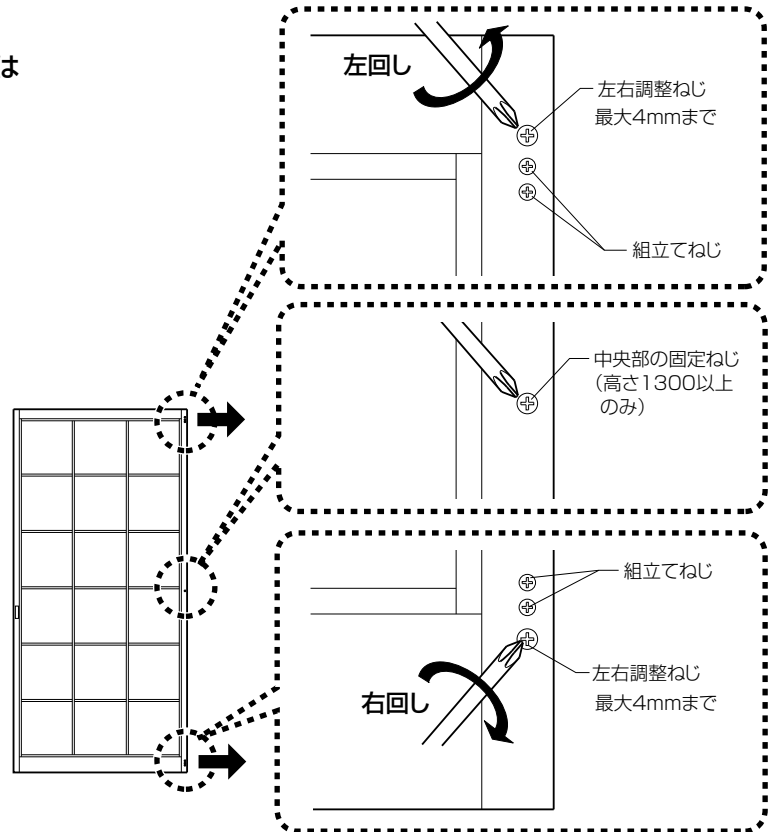


■左右方向の建付け調整(障子の出来幅調整)

※サーモス専用和障子・猫間障子・上げ下げ障子には左右の調整方法はありません。

- ※本体の召合せ框には左右調整ねじが付いています。上下調整の後で、障子の幅調整および内・外障子の召合せ框を合わせる場合に調整します。

- ①高さ1300以上の場合は、まず召合せ框中央部の固定ねじ(1本)をプラスドライバーで、1回転程度左に回してゆるめます。
- ②上下の左右調整ねじをプラスドライバーで回して、召合せ框を横に移動させます。調整量は+4mm、-0mmです。
- ※上部は左に回し、下部は右に回します。
- ③高さ1300以上の場合は、①でゆるめた固定ねじを右に回して締付けます。



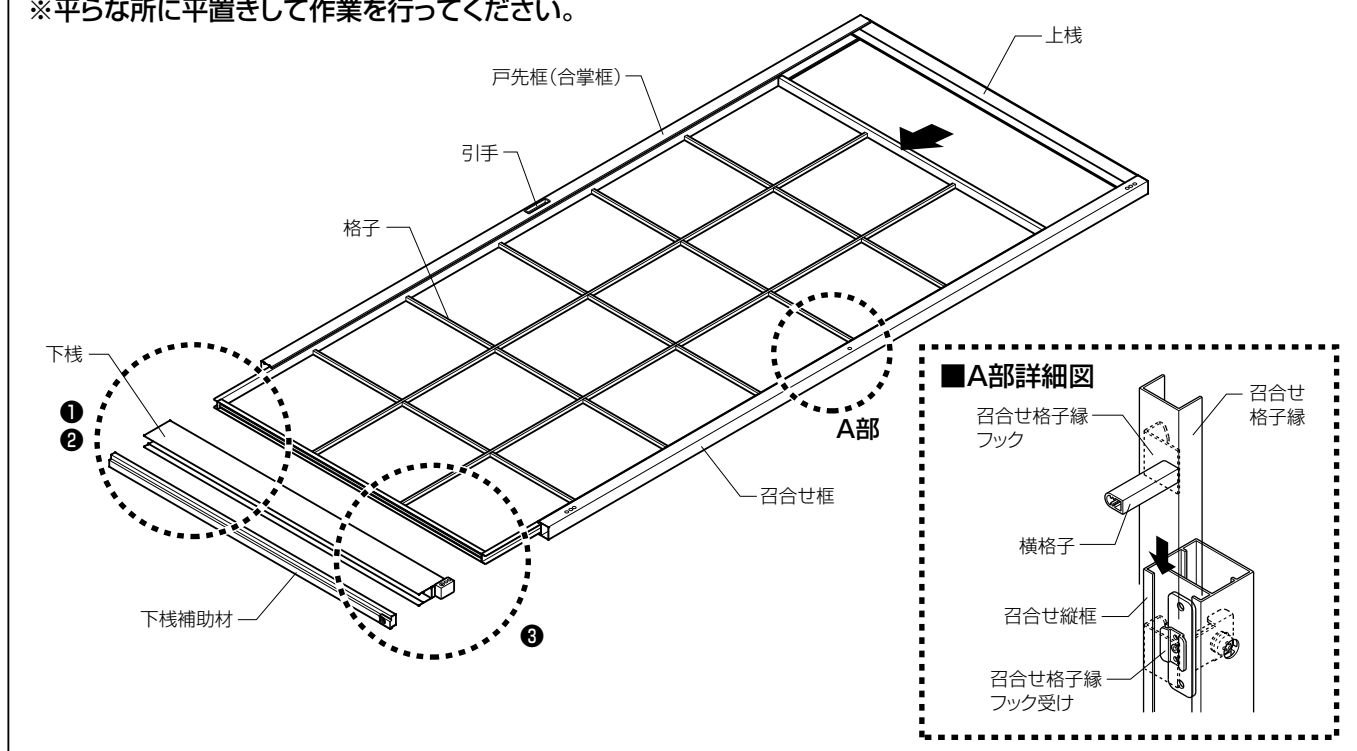
お願い

- 市販のアイロンで張るタイプの障子紙は使用しないでください。表面の樹脂シートが溶けるおそれがあります。
- 市販の澱粉糊又は有償部品として用意している「張替え用のり」以外は使用しないでください。
表面の樹脂シートが傷みます。

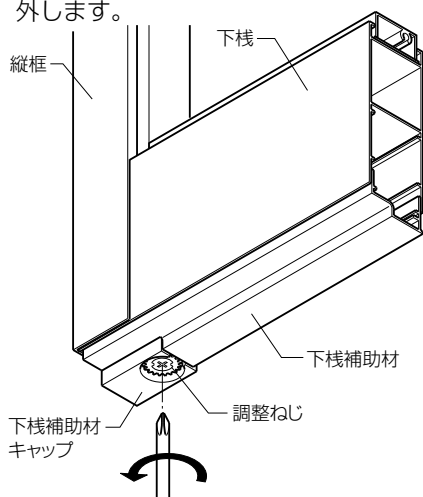
■障子紙の張替えに必要な物

- ・必要幅の障子紙 ・当社設定の有償部品の糊又は市販の澱粉糊
- ・カッター ・ハケ ・プラスドライバー ・水

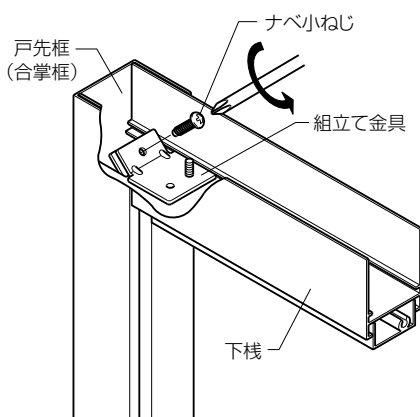
※平らな所に平置きして作業を行ってください。



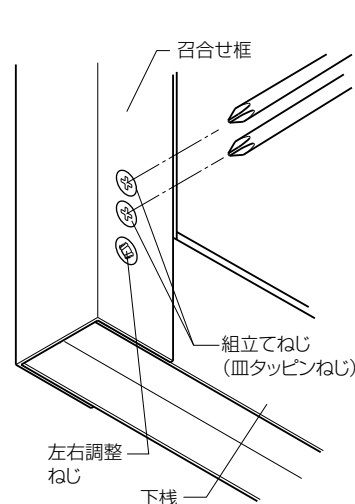
①下棧の底の調整ねじを左に回してゆるめ、下棧補助材キャップと下棧補助材を外します。



②下棧の戸先框側についている組立てねじ(ナベ小ねじ)を外します。



③召合せ框の下部の組立てねじ(皿タッピンねじ)2本を外します。



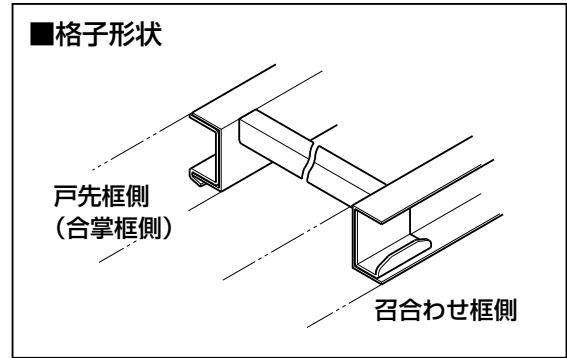
調整方法について

④下線を縦框から真下に引抜きます。

⑤格子を縦框から真下に引抜きます。

※格子には左右がありますので組立てるときには、取外したときと同じ向きに入れてください。(間違えると障子の出来幅調整ができなくなります。又、格子の左右は形状で見分けられます。ただし、高さ1300未満には召合わせ框側の金具はありません。)

※高さ1300以上で格子が引抜きづらい場合は、召合せ框中央部の左右調整固定ねじを少し左にゆるめてください。



⑥障子紙を裏面から、水分を含ませたハケなどで十分にしめらせ、下の方から静かに棒で巻取ると簡単にはがせます。

※へら、カッターなどで削り落とすと、格子を傷めるのでおやめください。

紙や糊の残りがあるときは、やわらかいスポンジに水分を十分ふくませふき取ってください。

⑦市販の澱粉糊で、障子紙を張ります。

紙は格子より10mm程度大きく張ってください。(図1)

※障子に結露が発生する場所でご使用になる場合には、結露水による紙のハガレ防止のため、有償部品「張替え用のり」の使用をおすすめします。

※有償部品として、張替え用の「障子紙(強化和紙)」も用意しております。

※澱粉糊又は、「張替え用のり」以外は、使用しないでください。表面の樹脂シートが傷みます。

※市販のアイロンで張るタイプの障子紙は使用しないでください。表面の樹脂シートが溶けるおそれがあります。

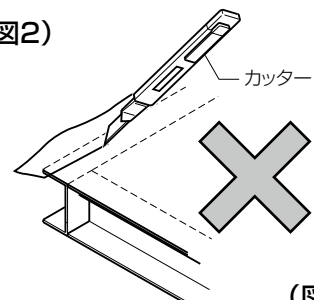
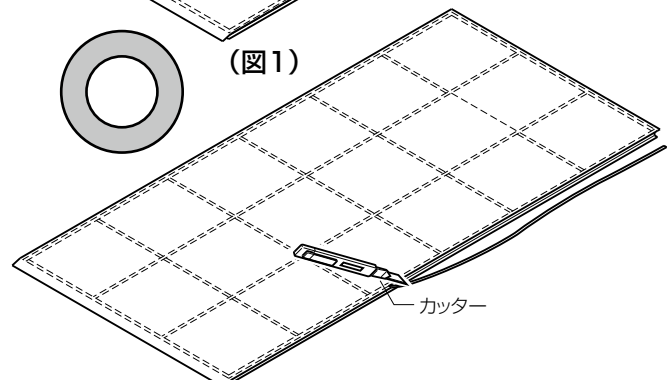
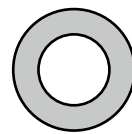
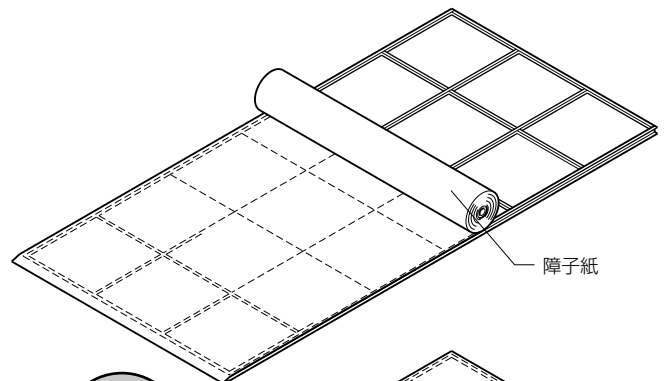
⑧格子の角にカッターをあてて紙を切断します。(図2)

※格子の見付け部分にカッターをあてると、格子にキズが付くのでおやめください。(図3)

⑨格子を縦框の下から差込みます。

※召合せ框側の向きを必ず合わせて差込んでください。

⑩下線を縦框に差込み、②③で外したねじを取付けます。下棧補助キャップと下棧補助材を下棧に取付け、調整ねじを締めます。



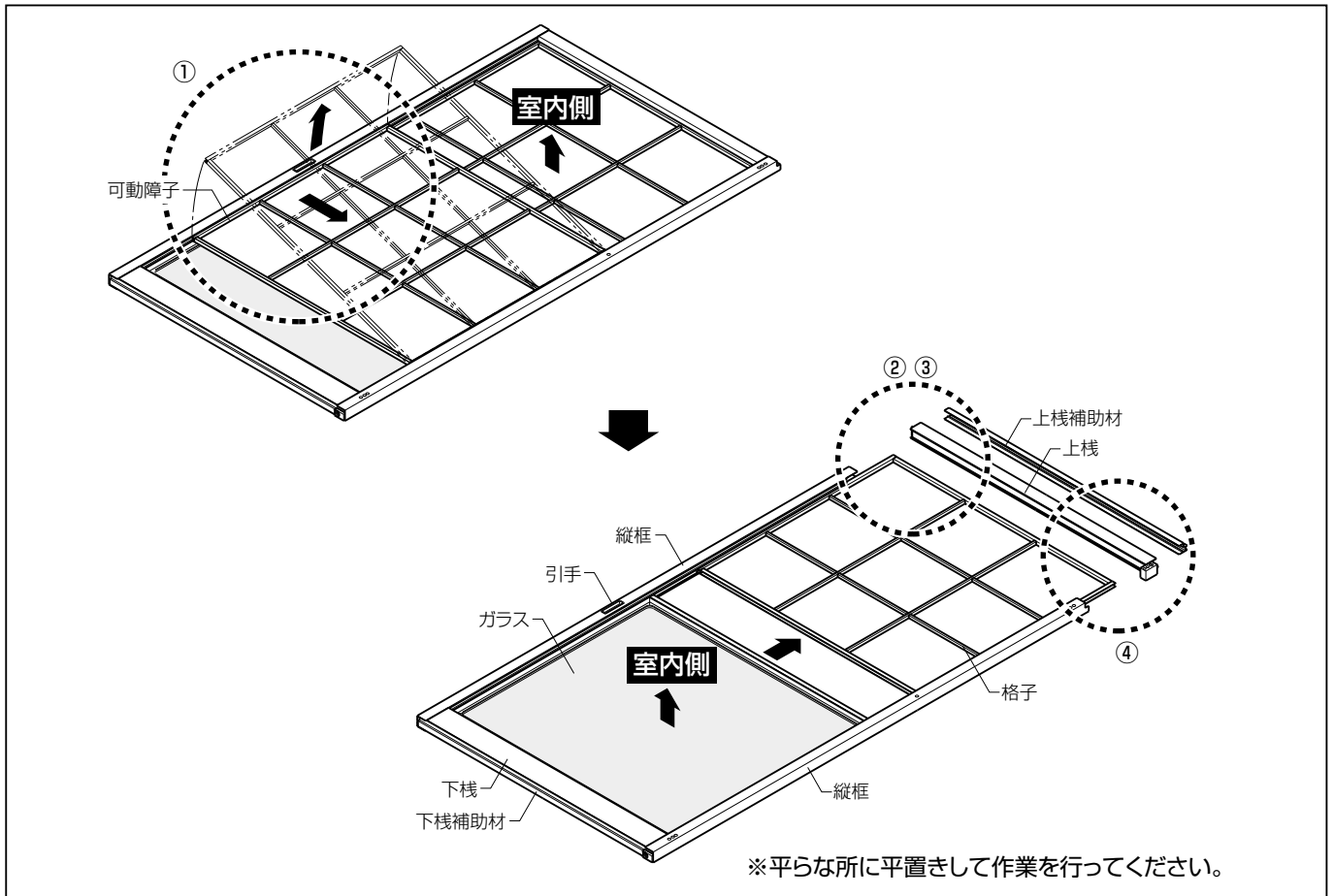
SL猫間障子・上げ下げ障子／障子紙の張替え方法

■障子紙の張替えに必要な物

- ・必要幅の障子紙
- ・当社設定の有償部品の糊又は市販の澱粉糊
- ・カッター
- ・ハケ
- ・プラスドライバー
- ・水

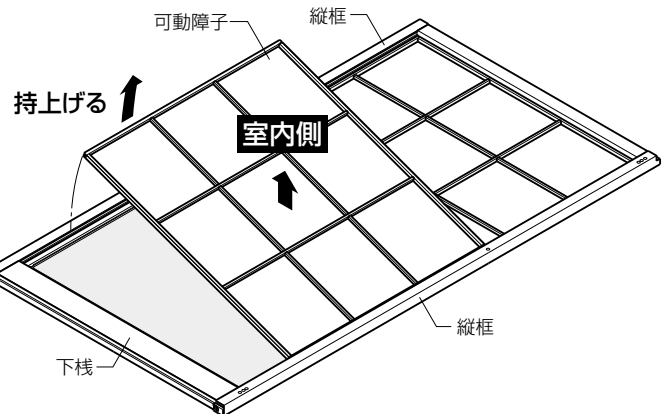
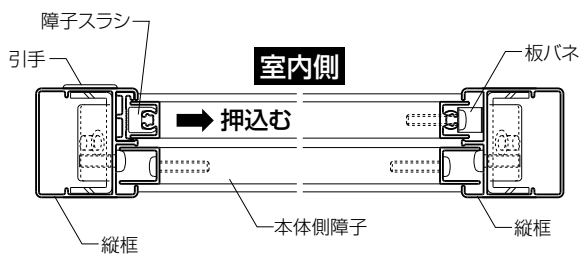
障子紙のお願い

- 市販のアイロンで張るタイプの障子紙は使用しないでください。表面の樹脂シートが溶けるおそれがあります。
- 市販の澱粉糊又は有償部品として用意している「張替え用のり」以外は使用しないでください。表面の樹脂シートが傷みます。



- ①可動障子を格子面から見て右側に押し込み、持上げて外します。
 ※可動障子の障子紙を張替える場合は、⑤以降を参照してください。

■本体下部からの見上げ図

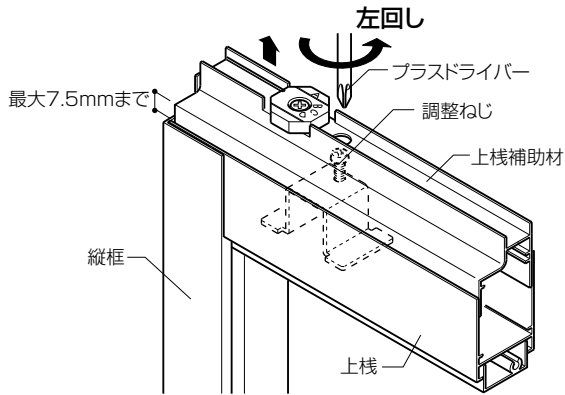


- ②上棧補助材を外します。

調整方法について

・猫間障子の場合

- ①上棧補助材の調整ねじを左に回して緩め、上棧補助材を外します。



- ③上棧の戸先框側に付いている組立てねじ（ナベ小ねじ M4×10）を外します。

- ④上棧を縦框から真上に引抜きます。

- ⑤障子紙を裏面から、水分を含ませたハケなどで十分にしめらせ、下の方から静かに棒で巻取ると簡単にはがせます。

※ヘラ・カッターなどで削り落とすと格子を傷めるのでおやめください。

紙や糊の残りがあるときは、やわらかいスポンジに水分を十分含ませふき取ってください。

- ⑥市販の澱粉糊で、障子紙を張ります。紙は格子より10mm程度大きく張ってください。(図1)

※障子に結露が発生する場所でご使用になる場合には、結露水による紙のハガレ防止のため、有償部品「張替え用のり」の使用をおすすめします。

※有償部品として、張替え用の「障子紙(強力和紙)」も用意してあります。

※澱粉糊又は、「張替え用のり」以外は使用しないでください。表面の樹脂シートが痛みます。

※市販のアイロンで張るタイプの障子紙は使用しないでください。表面の樹脂シートが溶けるおそれがあります。

- ⑦格子の角にカッターをあてて紙を切断します。(図2)

※格子の見付け部分にカッターをあてると、格子にキズが付くのでおやめください。(図3)

- ⑧格子を縦框の上から差込みます。

※縦框と格子に付いている金具どうしがかみ合うように差込んでください。

※可動障子を取付ける際は、可動障子に左右がありますので、取外したときと同じ向きに取付けます。

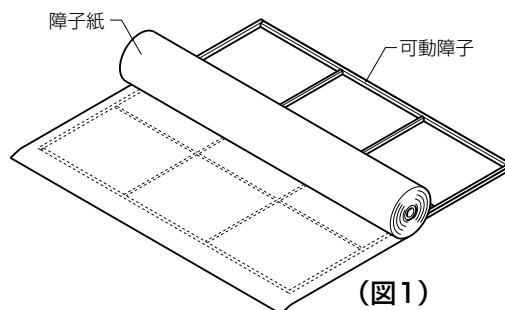
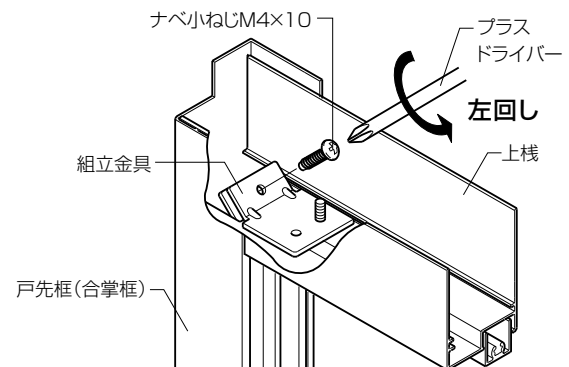
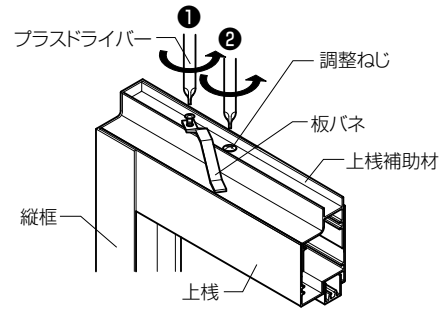
取付け後、可動障子が外れていないことを必ず確認してください。

- ⑨上棧を縦框に差込み、②③で外したねじを取付けます。上げ下げ障子は②で緩めた板パネのねじを固定します。上棧補助材を上棧に取付け、調整ねじを締めます。

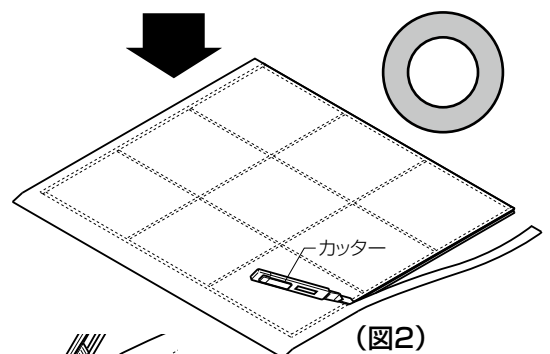
・上げ下げ障子の場合

- ①上棧に付いている板パネのねじを緩め、板パネをずらします。※ねじを外してしまうと上棧補助材に取付けてある接続金具が抜け落ちてしまうため外さないでください。

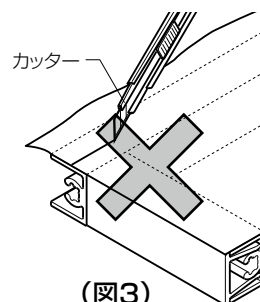
- ②上棧補助材の調整ねじを左に回して緩め、上棧補助材を外します。



(図1)



(図2)



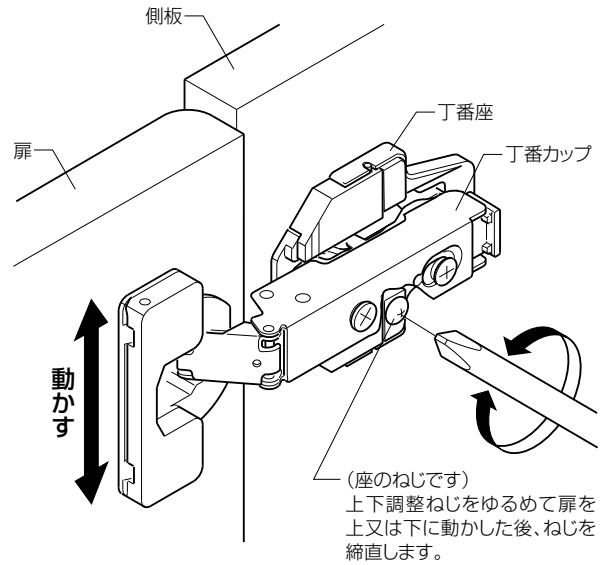
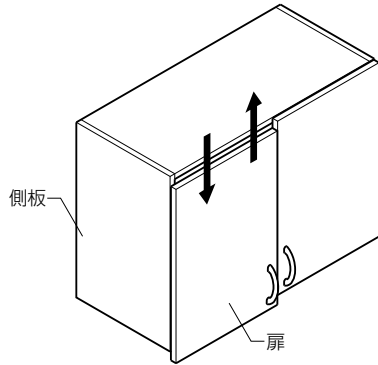
(図3)

クローゼットすっきりタイプ／収納開き扉／スライド丁番による建付け調整

■上下調整

【調整範囲】

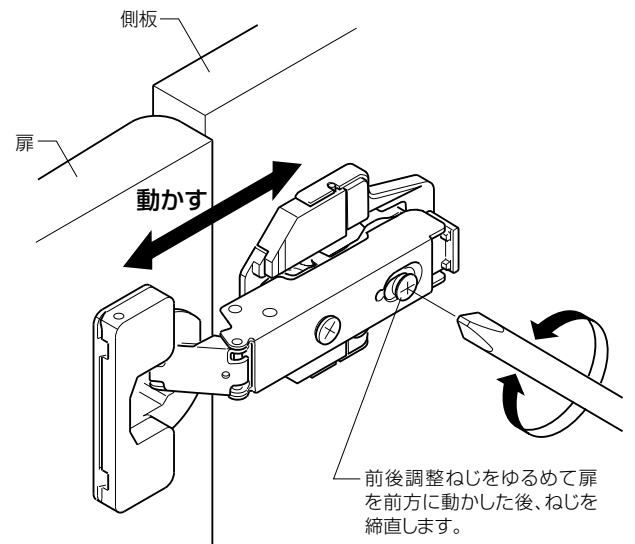
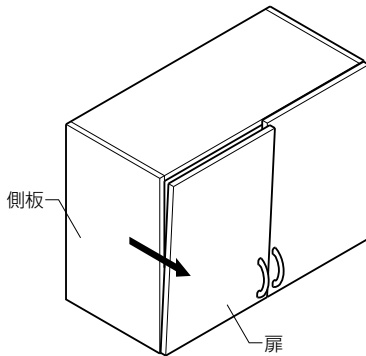
	クローゼット 開き戸	玄関収納・システム収納・ タスボックス・下駄箱	クローゼット すっきりタイプ
上方向	1.5mm	1.5mm	1.5mm
下方向	1.5mm	1.5mm	1.5mm



■前後調整

【調整範囲】

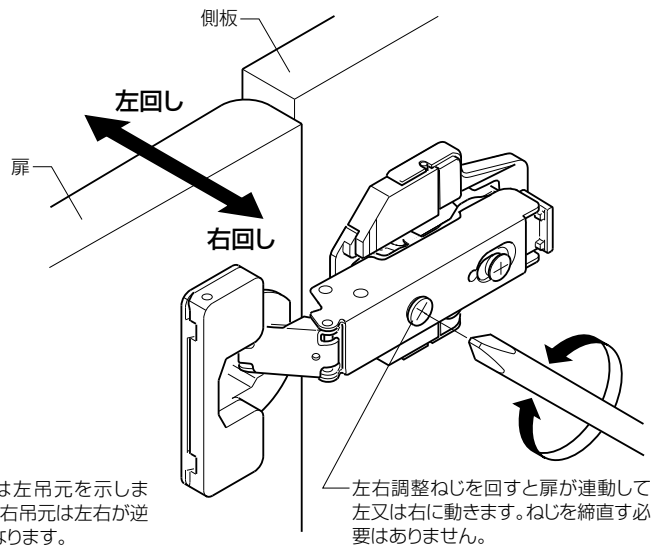
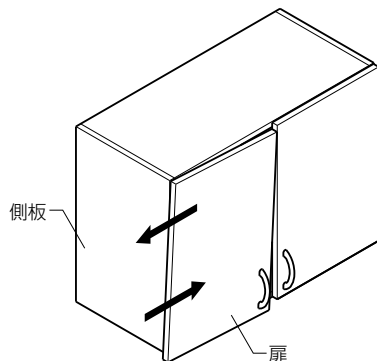
	クローゼット 開き戸	玄関収納・システム収納・ タスボックス・下駄箱	クローゼット すっきりタイプ
前方向	2mm	2mm	2mm
後方向	1mm	1mm	1mm



■左右調整

【調整範囲】

	クローゼット 開き戸	玄関収納・システム収納・ タスボックス・下駄箱	クローゼット すっきりタイプ
扉内方向	2mm	2mm	2mm
扉外方向	2mm	2mm	2mm



※図は左吊元を示します。右吊元は左右が逆になります。

調整方法について

WLクローゼット(開き戸)・システム収納(ボックスタイプ)／開き戸ダンパーの閉まり調整

■開き戸ダンパーの調整

※開き戸ダンパーの調整は、本体が閉まりきらない場合に実施してください。

(閉まりきらない場合、ダンパーを後ろへ調整します。)

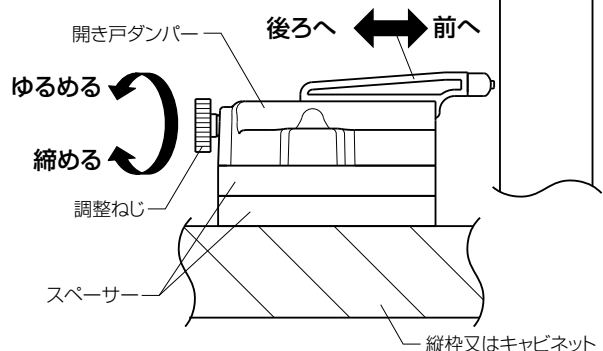
- 開き戸ダンパー後部の調整ねじを手でまわし、調整してください。
- ※調整ねじを締めると前へ、ゆるめると後へ動きます。

お願い

- 開き戸ダンパーを前に移動しすぎると、本体が閉まりきらなくなることがありますのでご注意ください。
- 調整ねじは必ず手でまわしてください。又、ゆるめる方向に範囲をこえて、無理に調整ねじをまわさないでください。調整ねじが破損するおそれがあります。

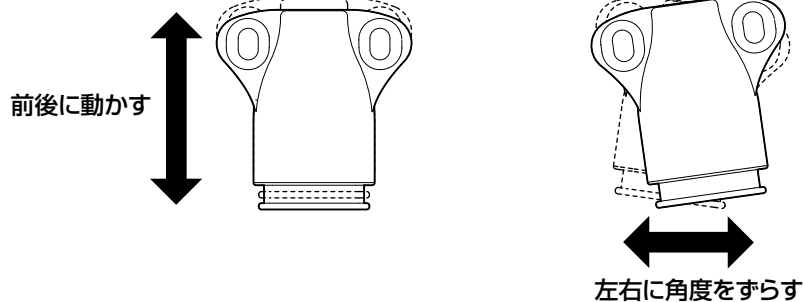
●調整範囲

前方向 1.5mm
後方向 2mm
(合計 3.5mm)



システム収納把手なし(プッシュオープン)扉の調整方法

- キャビネット側の部品(ラッチ)を動かし、仮締めのまま何度か開閉し、ラッチが掛かる位置でねじを固定してください。
- ※必ず扉を調整した後に行ってください。

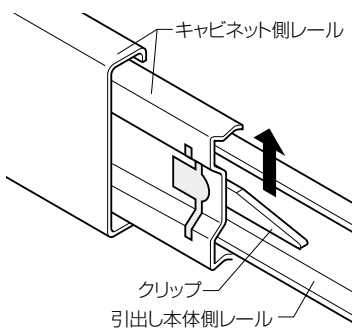


システム収納／タスボックス 引出し・引出し (ランドリー用)・スライド棚・スライドランドリーバーの取外し方法

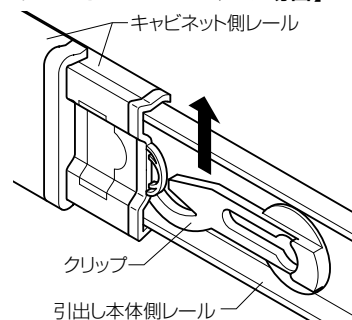
- 引出し本体側レールのクリップを操作し、取外します。(クリップは、左右同時に操作してください。)

■A部(引出し左側のレール)

※クリップを押上げると引出し本体側レールが外れます。

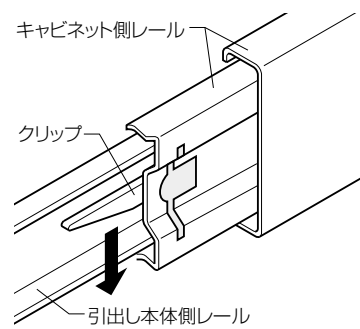


【プッシュオープンレールの場合】

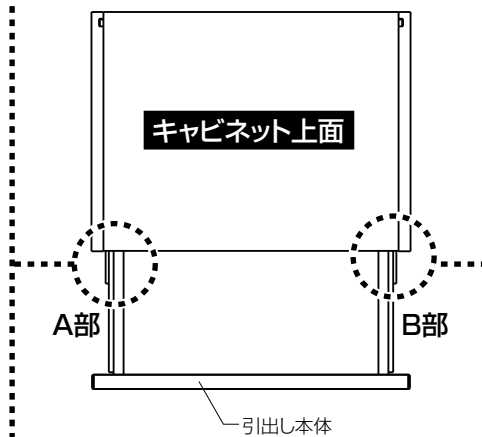
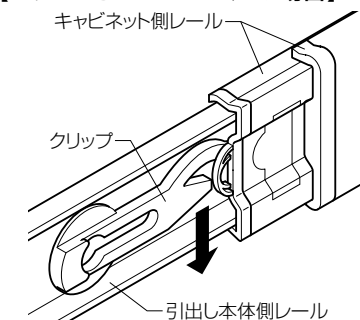


■B部(引出し右側のレール)

※クリップを押下げると引出し本体側レールが外れます。



【プッシュオープンレールの場合】



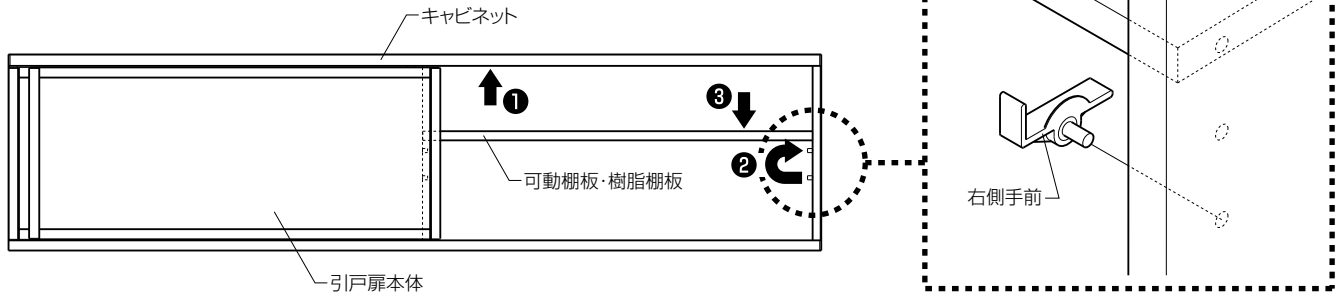
※図は引出しの場合を示す。

※タスボックスにプッシュオープンレールの設定はありません。

システム収納棚板位置の変更方法(引戸扉内部の場合)

●引戸扉が取付いているキャビネットで、引戸扉を取外さずに可動棚板・樹脂棚板の棚の位置を変更する場合は、以下の手順の通り行ってください。

- ①棚板を持上げて棚ダボを抜きます。
- ②棚板を持上げたままの状態、棚ダボをお好みの位置に差込んでください。
※手前側のダボには向きがあります。右図を参考に取付けてください。
- ③棚ダボの上に棚板をのせてください。



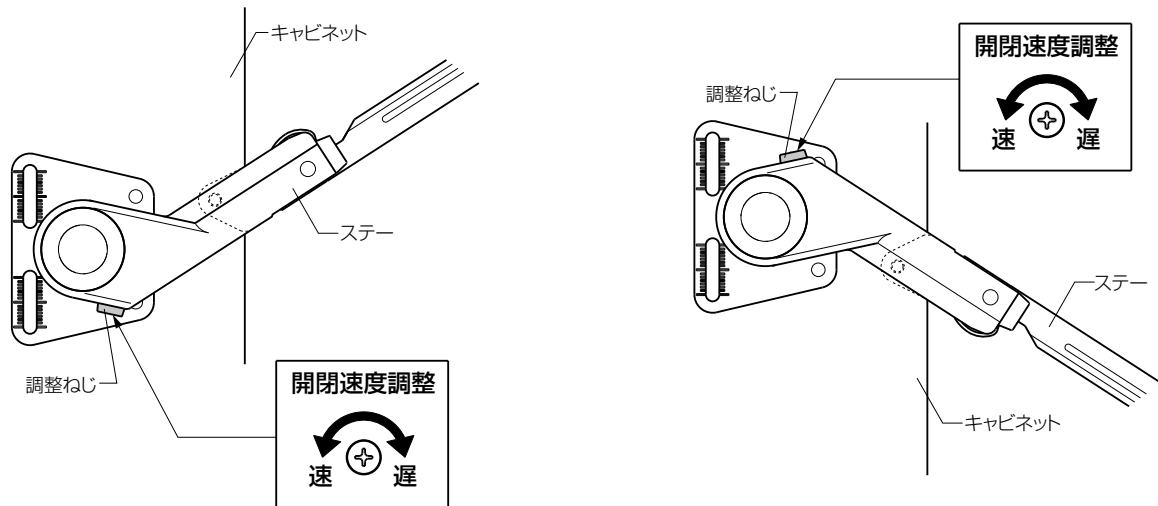
システム収納ステー付扉の開閉速度調整方法

■フラップ扉(上に開く扉)の場合

- 調整ねじを右に回すと閉じる速度が遅くなります。
左に回すと閉じる速度が速くなります。

■TV台扉(下に開く扉)の場合

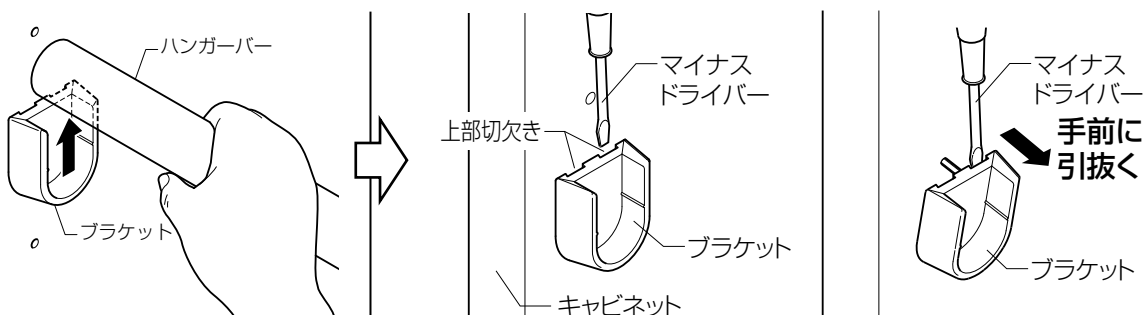
- 調整ねじを右に回すと開く速度が遅くなります。
左に回すと開く速度が速くなります。



タスボックスハンガーバーブラケット位置の変更方法

■タスボックスハンガーバー位置変更

- ①ハンガーバーを上を持ち上げ、ブラケットから抜きます。
- ②ブラケット上部切欠きにキャビネットを傷付けないようにマイナスドライバーを差し込み、手前に引抜いて外してください。
- ③ブラケットをお好みの位置に差込んでください。
※左右のブラケットが水平になるように取付けてください。
- ④ハンガーバーをブラケット奥まで押込んでください。



調整方法について

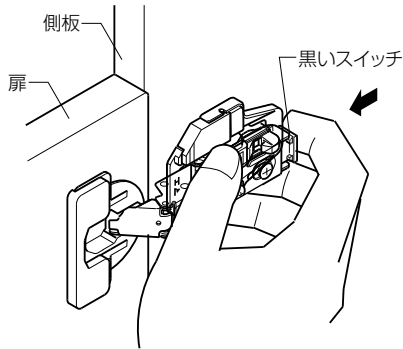
システム収納可動キャビネット移動方法

※この作業は必ずお取扱いの施工店・工務店・販売店にお願いしてください。

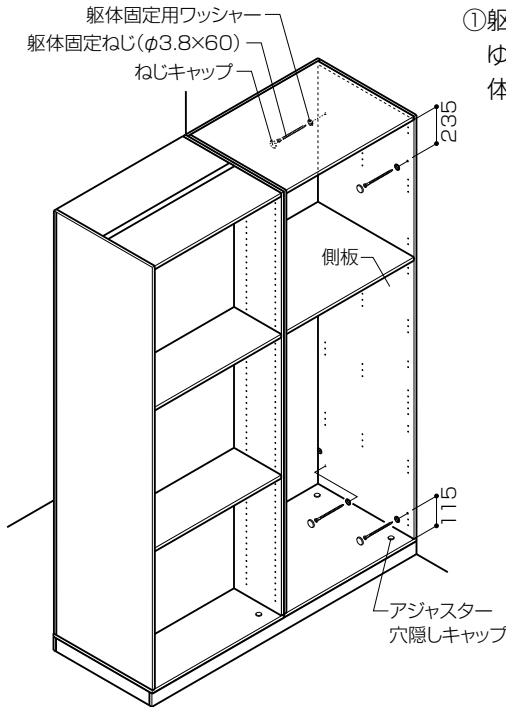
①扉・引出しの取外し

お願い

- キャビネットの中の収納物は、全て取出し、扉は全て取外してから移動させてください。
- ※扉は丁番カップの黒いスイッチを押して、取外してください。
- 引出しの取外しについては、P.50を参照してください。



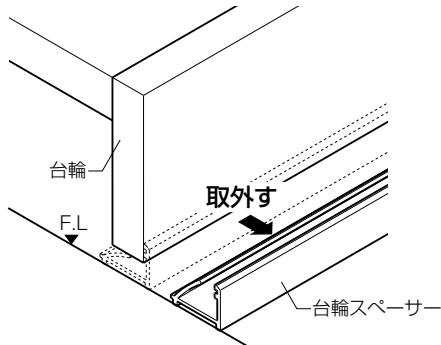
②キャビネットの躯体からの取外し



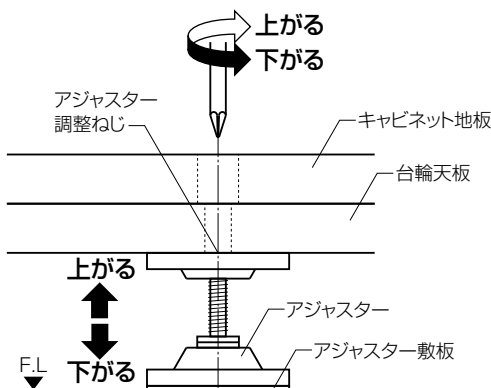
- ①躯体固定ねじ(4カ所)をゆるめ、キャビネットを躯体から取外します。

③キャビネットの移動

- ①台輪スペーサーを取外します。



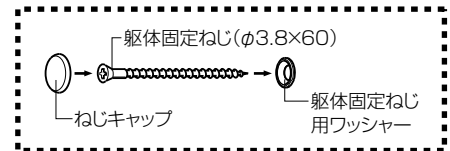
- ②すべてのアジャスター穴隠しキャップを取外し、すべてのアジャスター調整ねじを左に回し、キャビネットを下げて、すべてのキャスターを床に接地させ、設置場所までユニットを移動させます。
- ③すべてのアジャスター調整ねじを右に回し、ユニットを床面に固定してください。



④キャビネットの躯体への再固定

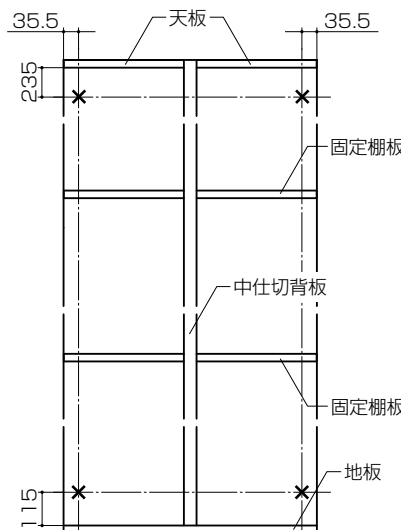
※固定する位置に硬木の棧木があることを確認してください。棧木が石こうボードなどで確認できない場合は、石こうボードをはがして棧木位置を確認してください。棧木がない場合は、棧木(厚さ24mm×60mm以上の硬木を必ず取付けてください。)

- ①水準器・下げ振りで確認しながら、アジャスター調整ねじでユニットが水平・垂直になるように調整してください。
- ②②で取外した躯体固定ねじ(φ3.8×60)で壁面(躯体)に固定してください。

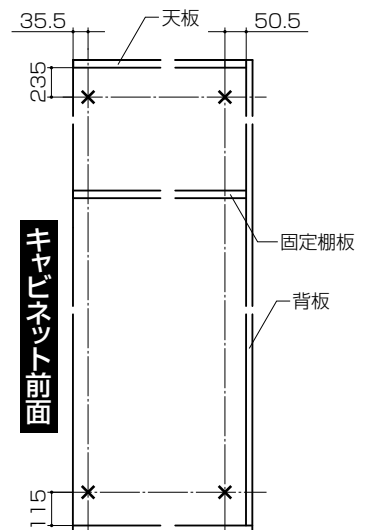


■キャビネット壁面(躯体)固定位置(×:固定位置)

【両面の場合】



【片面の場合】



ハンギング・ウォール化粧パネルの調整方法

■上下、左右調整〈調整範囲：上下±1.5mm、左右±1.5mm〉

●下図のように、化粧パネルの位置を変更したい場合に上下・左右調整を行います。

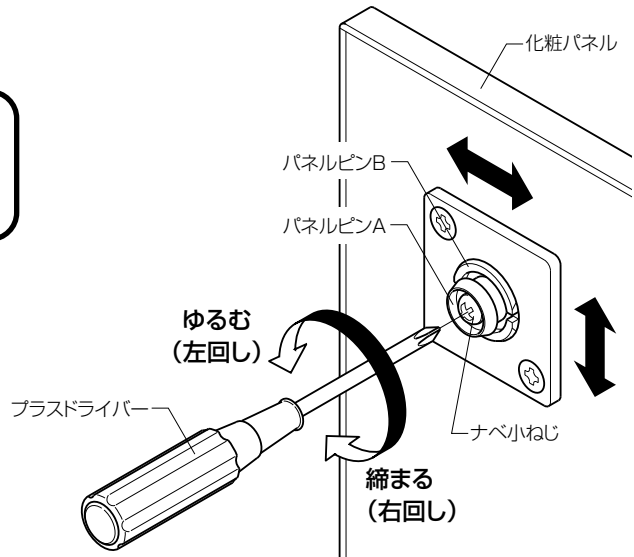
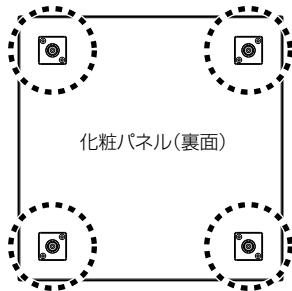
■正面から見た姿図

①化粧パネルが上にある場合	②化粧パネルが下にある場合	③化粧パネルが左にある場合	④化粧パネルが右にある場合
【調整方法】 ●パネルピンを上へ移動してください。	【調整方法】 ●パネルピンを下へ移動してください。	【調整方法】 ●パネルピンを裏から見て右へ移動してください。	【調整方法】 ●パネルピンを裏から見て左へ移動してください。

●ナベ小ねじをゆるめてパネルピンAを上下、又は左右に動かした後、ねじを締直します。

お願い

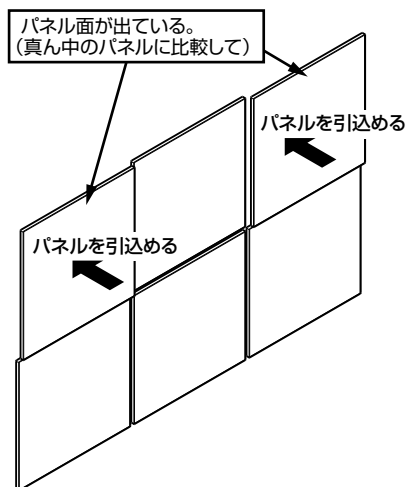
- 調整は必ず手回しドライバーを使用してください。
- 全てのピン(4カ所)を調整してください。
パネルの取付けができません。



■前後調整〈調整範囲：前方向0mm、後方向3mm〉

●パネルピンBを回して調整します。

※パネルピンAとパネルピンBは連動して回転します。



お願い

- 前後調整はパネルピン1回転で1mmの調整ができます。
先に上下・左右調整を行うとパネルピンが偏芯しますので、1回転単位での調整を行ってください。

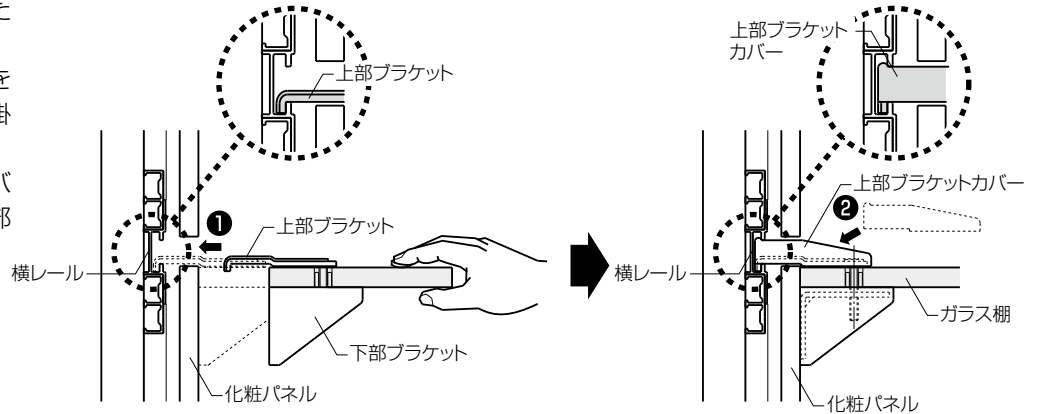
調整方法について

ハンギング・ウォールガラス棚板・フックの取付け方法

■ガラス棚板の取付け方法

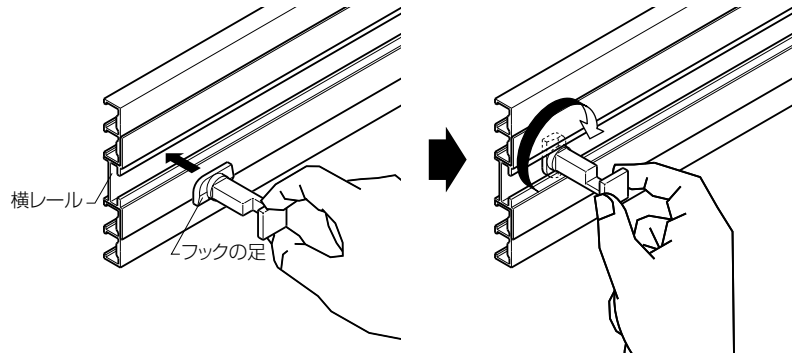
※必ず化粧パネルを取付けた状態で行ってください。

- ①横レールに上部ブラケットを差込み、レールにツメを引掛けます。
- ②上部ブラケットカバーのツバを横レールまで差込み、上部ブラケットに取付けます。



■フックの取付け方法

- フックの足を横レールに差込み、90°回転させ取付けます。
位置を変更したい場合は、その状態でスライドさせます。

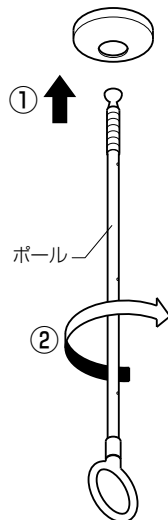


室内物干し 天井付けタイプ／ポール着脱・長さ調整方法

■ポールの着脱方法について

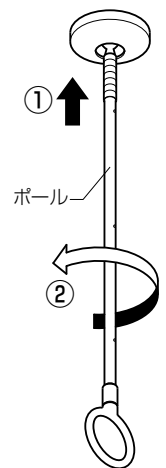
●取付け

- ①ポールを軽く上に押し当てます。
- ②右に回すとキャッチ部品が閉じ、ポールが保持されます。



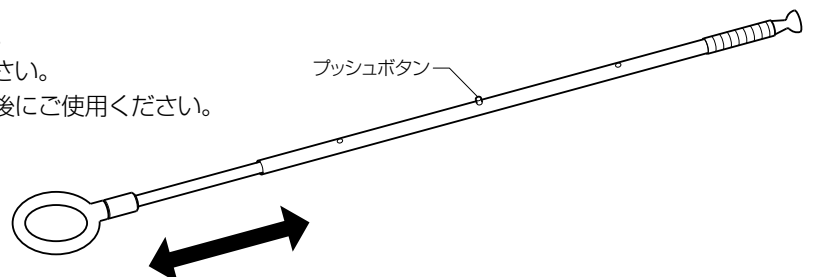
●取外し

- ①ポールを軽く上に押し当てます。
- ②左に回すとキャッチ部品が開き、ポールが取外せます。



■ポールの長さ調整方法について

- ①調整は必ずポールを取外し、手元で行ってください。
- ②ポールのプッシュボタンを押して、伸縮させてください。
- ③調整後は、ポールが固定されていることを確かめた後にご使用ください。

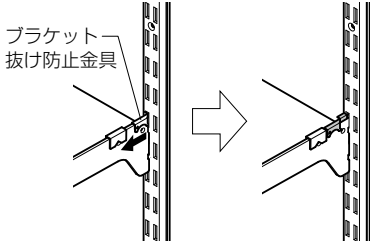


※長さ調整は460mm、550mm、640mmの3段階になります。

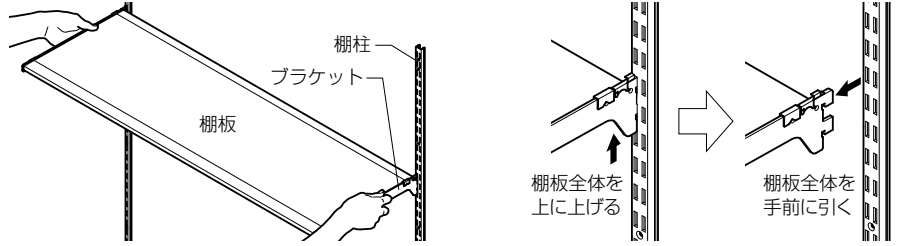
すっきり棚の棚板取付け位置変更方法

■棚板の取外し方

①ブラケット抜け防止金具を手前にスライドさせます。

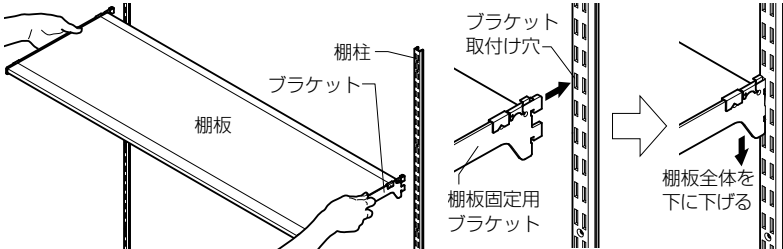


②棚板の両端（ブラケット部）を手で持ち、棚板全体を上へ手前に引いて棚柱から棚板を取外します。

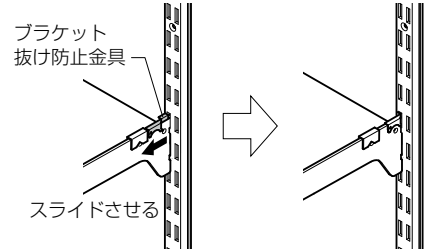


■棚板の設置方法

①棚板両端（ブラケット部）を手で持ち、棚柱のブラケット取付け穴に両端の棚板固定用ブラケットを同時に差込み、棚板全体を下へ下げて固定します。



②ブラケット抜け防止金具を棚柱の穴にスライドさせて固定します。（抜け防止金具が外れた場合は、ブラケットにはめなおしてください）



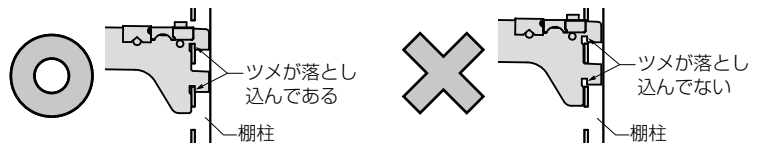
※必ず2本の棚板固定用ブラケットが同じ高さになるように設置してください。

※棚板が外れないことを確認してください。

【棚柱に棚板固定用ブラケットを固定するときのお願い】

※必ず、両端の棚板固定用ブラケットが同じ高さになるように設置してください。

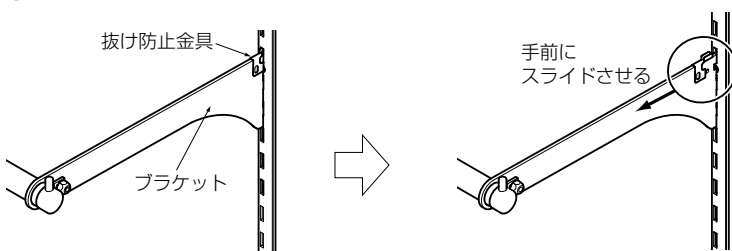
※棚柱のブラケット取付け穴に棚板固定用ブラケットのツメを落とし込んでください。



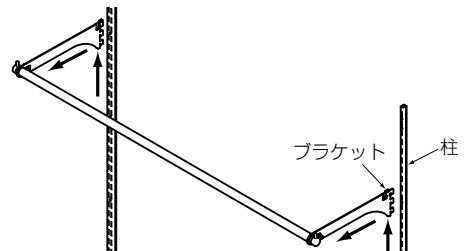
すっきり棚のハンガーパイプ取付け位置変更方法

■ハンガーパイプの取外し方

①ブラケットの抜け防止金具を手前にスライドさせます。

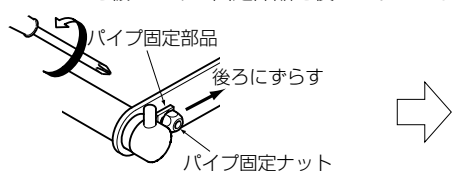


②両側のブラケットを上へ持ち上げ、ブラケットを柱から外します。

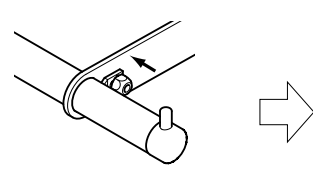


●ブラケットの固定幅を変更する場合

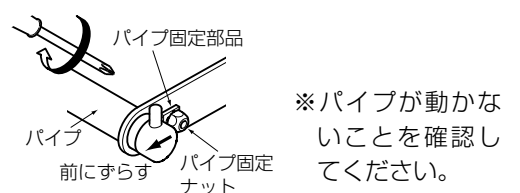
①パイプ固定部品を手で押さえながら、ドライバーでビスを緩めパイプ固定部品を後ろにずらします。



②ブラケットの固定位置を決めます。



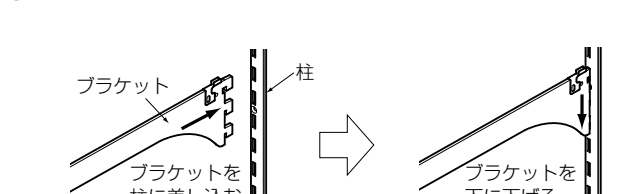
③パイプ固定部品を前にずらしてパイプに押し当て、パイプ固定ナットを手で押さえながら、ドライバーでビスを締めパイプを固定します。



※パイプが動かないことを確認してください。

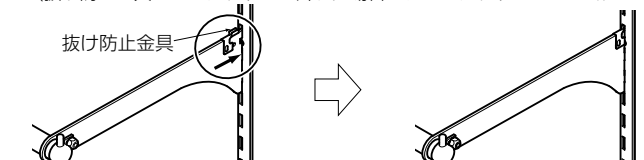
■ハンガーパイプの設置方法

①取付け位置を決め、柱の穴にブラケットを差込み下に下げます。



※必ず2本のブラケットが同じ高さになるように設置してください。

②ブラケットの抜け防止金具を柱に差込みます。（抜け防止金具がブラケットから外れた場合は、ブラケットにはめてください）



※ブラケットが外れないことを確認してください。

アフターメンテナンスについて

修理を依頼される前に

点検及び修理を依頼される前に、取扱い説明書の「**■調整方法について**」をご確認ください。

保証について

保証期間中は、保証の規程にしたがって修理をさせていただきます。

保証期間中でも有料になる場合がありますので「**■商品保証について**」の内容をよくご確認ください。

保証期間を過ぎている場合は、ご希望により有料で修理をさせていただきます。

修理用部品の保有期間が過ぎている場合は、修理ができないこともあります。

修理を依頼されるときは

点検及び修理を依頼される前に、各商品の「**取扱い説明書**」をもう一度ご確認の上、それでも故障が直らない場合やご不明な点がある場合は、商品をお求めの施工店、工務店、販売店または当社「お客様相談センター」にご相談ください。その際、下記のことをご連絡ください。

①ご住所・お名前・電話番号

②商品名・品番

③ご購入日またはご入居日

※分譲住宅（建売）、分譲マンションは建設業者から売主への引渡し日となります。

④故障または異常の内容

⑤訪問ご希望日

お客様の個人情報の取扱い

お客様からお預かりした個人情報は、商品の点検及び修理にのみ利用し管理いたします。

なお、修理に携わる協力会社へお客様の個人情報を開示することがありますが、当該協力会社は、お客様の個人情報の利用に関して当社と同等の義務を負います。

点検及び修理の依頼先

- ・お求めの取扱い店
- ・製品に表示している連絡先
- ・トステムお客様相談センター ☎0120-126-001

点検及び修理料金のしくみ

修理料金は技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料は、点検及び故障個所の修理及び部品交換・調整などの作業にかかる費用です。

部品代は、修理に使用した部品代です。

出張料は、修理士を派遣する場合の費用です。

なお修理により交換した部品・製品は、特段のお申し出がない場合は当社にて引き取らせていただきます。

修理用部品の保有期間

この商品の修理用部品（機能を維持する為に必要な部品・代替品含む）の最低保有期間は、製造終了後10年です。

※機器類など専用の取扱い説明書があるものは除きます。添付の取扱い説明書をご確認ください。

キッチン、洗面化粧台、室内建具などの扉・引出しなどの面材については、販売終了後2年としております。2年経過後は、新シリーズの面材を供給させていただきます。ただし2年に満たない場合でも、面材及びこれに関連する部品（面材の色に合わせた樹脂部品等）の供給が難しい場合は、新シリーズの類似面材及び部品を供給させていただくこともありますのでご了承ください。

交換用部品について

お客様ご自身でお取替えいただける部品については、ホームページよりご注文いただけます。

トステムパーツショップ <http://partsshop.tostem.co.jp/shop/>

掲載のない部品につきましては、お求めの取扱い店または当社お客様相談センターにご連絡ください。

商品保証について

本書は、ここに記載の保証期間、保証内容の範囲において無料修理を行うことをお約束するものです。保証期間中、商品に故障・損傷などの不具合（以下「不具合」といいます）が発生した場合には、お取扱いの施工店、工務店、販売店又は当社お客様相談センターにご相談ください。

■対象商品…………… リビング建材商品

■保証期間…………… 施工者よりの引渡し日(注1・注2)から2年間(電装部品については1年間)
注1)改修工事の場合、改修部分の工事完了の日とします。
注2)分譲住宅(建売住宅)の場合、建築主さまへの引渡し日とします。

■保証内容…………… 取扱い説明書、本体ラベル又はその他の注意書きに基づく適正なご使用状態で、保証期間内に商品そのものに不具合が発生した場合には、下記に例示する免責事項に該当する場合を除き無料修理いたします。

■免責事項…………… 保証期間内でも、次のような場合には有料修理となります。

- ①当社の手配によらない加工、組立て、施工、管理、メンテナンスなどの不備に起因する不具合(例えば、工事中の養生不良による変色や腐食など)
- ②表示された商品の性能をこえた性能を必要とする場所に取付けられた場合の不具合
- ③建築躯体の変形など商品以外の不具合に起因する商品の不具合
- ④商品又は部品の経年変化(使用に伴う消耗、摩耗など。木製品のソリ、干割れ、変色など)や経年劣化(樹脂部品の変質、変色など)又はこれらに伴うサビ、カビなどその他類似の不具合
- ⑤自然現象や住環境に起因する結露などの不具合
- ⑥環境が特に悪い地域又は場所での腐食および不具合(例えば、海岸地帯での塩害による腐食、浴室内などの湿潤な部位、部分的、又は全面的に野外に晒された場所。部屋内外の温度差が極端に違う部位に取付けられたもの、極端に乾湿を繰り返す部位に取付けられたもの。異常な高温・低温・多湿による不具合)
- ⑦天災その他の不可抗力(例えば、暴風、豪雨、洪水、高潮、地震、地盤沈下、落雷、火災など)により、商品の性能をこえる事態が発生した場合の不具合
- ⑧施工当時実用化されていた技術、知識では予測することが不可能な現象又はこれが原因で生じた不具合
- ⑨犬、猫、鳥、鼠などの小動物の害による不具合やキクイムシなどによる虫害
- ⑩引き渡し後の使用上の操作誤り、調整不備又は適切な維持管理を行わなかったことによる不具合
- ⑪お客さま自身の組立て、取付け、修理、改造(必要部品の取外しを含む)に起因する不具合
- ⑫本来の使用(一般住宅用)の目的以外の用途に使用された場合の不具合
又は使用目的と異なる使用方法による場合の不具合
- ⑬犯罪などの不法な行為に起因する破損や不具合

※保証期間経過後の修理、交換などは有料とさせていただきます。

※本書によって、お客さまの法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お取扱いの施工店、工務店、販売店又は当社お客様相談センターにお問合わせください。

株式会社 LIXIL

※商品のお問い合わせ・ご相談時のため、メモしておくとう便利です。

■販売店名

TEL ()

■工務店名

TEL ()

トステム商品に関するお問合せは、お客様相談センターまで

- ・商品のご購入・使い方などのご相談
- ・有償での修理と部品のご購入

☎ 0120-126-001 Tel 03-3638-8181 Fax 03-3638-8447

受付時間・・・月～金 9:00～18:00(祝祭日、年末年始、夏期休暇等は除く)

外壁材に関する商品相談は・・・旭トステム外装(株) サービスデスクナビダイヤル 0570-001-117

店舗関連商品に関する商品相談は・・・Tel 03-3638-8152 月～金 9:00～17:00(祝祭日、年末年始、夏期休暇等は除く)

商品改良のため、予告なしに仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。

個人情報の取り扱いについて

当社は、当社商品のユーザー様および流通業者様等の個人情報を商品納入に当たって取得し、将来にわたる品質保証、メンテナンスその他の目的のために利用いたします。当社の個人情報の取り扱いについて詳しくは当社ホームページの「プライバシーポリシー」をご覧ください。

株式会社 LIXIL

会社や商品についての情報のご確認は、下記ホームページまで

<http://www.lixil.co.jp/>

取説番号	MAM-233C	事業所コード	ZV84	2011.4.15 発行
------	----------	--------	------	--------------

